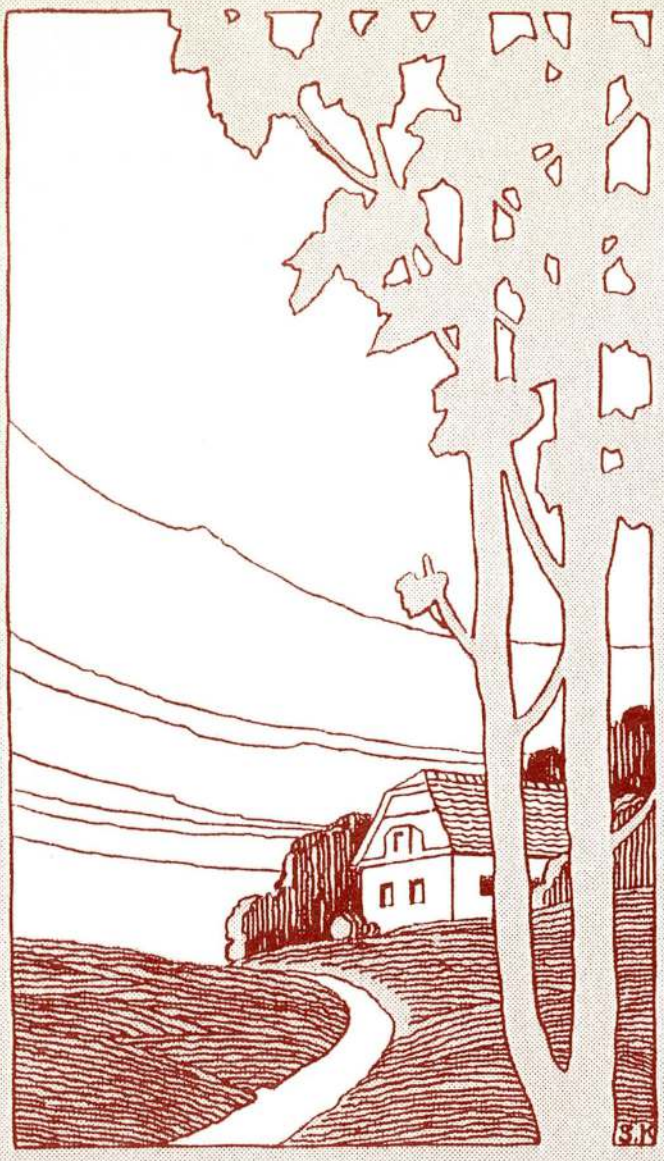
建築ト社會



大正大地震 九月十四日（第三種郵便物認可）
大正九年二月一日 印刷 二月一日 發行

第三輯
第二號

大正九年二月一日
日本建築協會

日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ノ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラント希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ノ詮衡ヲ經テ例會ニ於テ之ヲ議決ス

第五條　本會ノ其目的ヲ賛成シ事業ヲ援助スル者ヲ賛助員トス

賛助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽賛助員―地位又ハ學識アル名望家

二　修身賛助員―金百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別賛助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術竝又ハ事業家

四　普通賛助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

賛助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦シ修身賛助員タラントスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込ミ及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別賛助員タラントスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通賛助員タラントスル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込ミ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有シ會員ハ會内ニ於ケル其言行ニ付會外ニ於テ責ニ任ゼザルコトヲ得

名譽賛助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利益ヲ受ク

修身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムベシ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ノシク本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ毀損スルノ行爲アリ、又ハ會ノシク脫會セムトスル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ニ除會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十條　除會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納ノ會費ノ返還ヲ求ノ又ハ其債務ヲ免カルルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　副會頭　一名

二　理事長　一名

三　理事　六名

四　理事　若干名

會頭ハ會務ヲ總攬シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選擧ス但會頭副會頭ハ名譽賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

役員ノ任期ハ貳年トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

理事ノ改選ハ毎年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主記　一名

二　主計　一名

三　編輯　三名

四　編輯補助　若干名

五　書記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補助ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補助ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給ト爲スコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應ジ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員會ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ囑託委員トナスコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ毎月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、講演會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ハ必要ト認ムルトキ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ發表ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラス

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

本會ノ行フ事業左ノ如シ

第十九條

一　建築ニ關スル諸事項ノ調査研究

二　調査研究報告ノ發表

三　建築ニ關スル重要事項ノ議決

四　決議事項ノ實行促進

五　會誌ノ發刊

六　建築ニ關スル圖書ノ刊行

七　建築ニ關スル講演會ノ開催

八　建築ニ關スル展覽會ノ公開

九　建築ニ關スル視察

十　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

十一　理想的建築ノ計畫

十二　其他建築ニ關スル有益ナル事項

第二十條　會員ハ會費年額金拾貳圓ヲ本會ニ據出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ會費以上ヲ出ストキハ爾後兩項ノ會費ヲ免ス

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スベシ

特別賛助員ハ特別賛助費年額金六圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助費年額金壹圓ヲ本會ニ前納スベシ

但六期以内ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金賛助費其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十二條　本會ノ財產債權債務及毎月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

本會ノ財產權權變移及毎年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

日本建築協會雜誌

改題

「建築と社會」

妖雲漸く闢けて、暉陽長へに燦たるの概ありし戰後第一次の去春は、實に、我日本建築協會の使命も、世界の進運と共に一躍進を劃したる是も思出多き頭歳なりしこと當時、我會名及び我誌の革新を宣したるに仍りて、讀者の多くは之を諒とせられし處なるを信ず。而して、夙くも今復た其第二次迎春に方り、顧みて世界の凡ゆる方面に於ける變轉は、僅に既往三百有餘日の時間に於てすら既に世紀を累ねたるに等しからむとするものあり我等少くとも、亦須らく斯の進運に協合する處莫くむばあらず。されば、我協會活動の機關たり其表現たる『日本建築協會雜誌』は茲に再び誌名を更新して、一層、社會的觸接を期するの名實相充當せむことを冀ふと共に、駸乎たる躍進的機運に先むぜんことを欲す、維れ、爰に、我誌名を復び更改する所以也。

懸賞

住宅改良設計案

▲締切　大正九年二月十日

▲發表　大正九年三月の本誌に

▲審査　本會理事及第三部（住宅）委員

日本建築協會

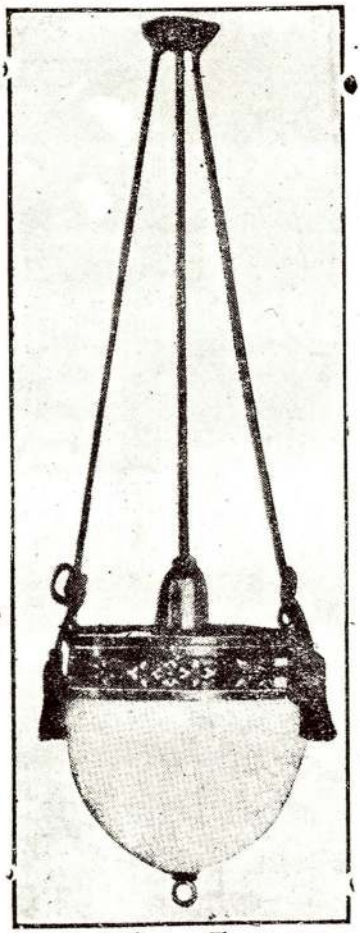
誰しも嘆美する『花霞』（ハナガスミ）

（日本座敷用）

照明學會懸賞

第一等當選

意匠登録 第一四八六〇號



■霞（かすみ）■花（はな）

高尚なる御座敷には是非とも此の花霞を御取付け下さいませ。其の穩かな光りと優美なる形とは必ずや優雅なる氣分を御家庭の中に漲らせます。御用命の節は何卒最寄の本社販賣部出張所に御一報の程御願ひ申し上げます。

上製（大型八疊以上座敷用）（一〇〇―二五〇ワット瓦斯封入）（マツダCランプ使用）金五十五圓

並製（小型八疊以下座敷用）（一〇〇ワット瓦斯封入）（マツダCランプ使用）金二十八圓

神奈川縣川崎町

東京電氣株式會社販賣部出張所

東京　東京市麹町區有樂町一ノ一　電話新橋（長）一〇五九、一三一一、一三七二

大阪　大阪市西區阿波堀通一ノ五　電話新町（長）六三〇、八九九、八九八

門司　門司市西本町三ノ一九　電話長（長）四六、六八二

名古屋　名古屋市中區南大津町二ノ三ノ二　電話長（長）二五九八

札幌　札幌區南一條通西四ノ一一　電話（長）九八九

上海　上海南京路東首五六四　電話中央（三二六七、四九〇七）

大連　大連市山縣通四五　電話長（長）二五五

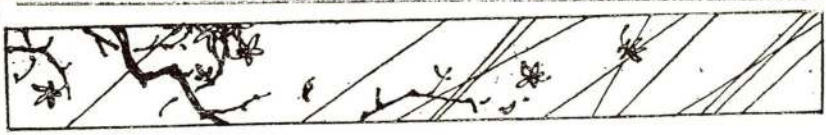


『建築と社會』第參輯第貳號

目次

口繪（二色版）
（イクイタブル・ビルデイング
同上第一階廊下及ウルオース
ビルデイング第一階廊下 ═══（寫眞版一、二）

△卷頭═══都市の大改造始まる……
△大阪市區改正事業の前途に就て……會員（京都帝國大學教授）片岡安……二
△最近避電針の進歩（一）……會員（早稲田大學教授）青柳榮司……一〇
△デモクラチツクな住宅……安部磯雄……一八
△居構百選（其二）……會員……葛野壯一郎……二三
△大阪劇場の變遷（B）……會員……池田實……二八
△米國建築視察談（二）……會員……光安悌之助……三六
△子供本位の住宅（下）……向井章……四七
△京都古建築觀（補遺の一）……（特別賛助員）伊藤清造……五二



〔邸居寸觀〕
△新聞記者として見たる名士の邸（一）……讀賣新聞記者……梅谷孫吾……五五
〔都市と社會施設〕
△米國に於ける住居經營……會員……M T生……五九
〔女流の生活觀〕
△日本家屋の長所と美點……賀踐女學校長……下田歌子……六八
△天分を充分に發揮する生活……高安道成氏夫人……高安やす子……七一
〔漫錄〕
△米國へ行くまで……會員……波江悌夫……七七
〔訪れの記〕
△Mさんとの珍問答……ゐむら……八三
□時報……八七
□會報……九三

附錄

△新制定の都市法規……九頁

G.E. CHEMICAL PRODUCTS.

ジーエフ防水剤

GF. Waterproofing Paste·
GF. Trowel Coating.
GF. Dampproofing Coating.
GF. Acidproofing.
GF. Cristalrox,
GF. Mastic Cement.
GF. Timber Life.
GF. Floor Enamel,
GF. Brick and Cement Coating.
GF. Galvanized Steel Coating,
Etc., Etc.

ジーエフ塗料

GE
YOUNGSTOWN. OHIO.

TKS

製造元　米國ジエネラル、ファイヤープルーフキング會社

輸入元　中外貿易株式會社

◉ジーエフ防水剤
◉ジーエフ防水防濕塗料
◉ジーエフ防酸塗料
◉ジーエフ室内裝飾塗料
◉ジーエフ床用塗料
◉ジーエフ金屬防蝕塗料
◉ジーエフ木材防蝕塗料
◉在庫品豊富◉

販賣元　東京市京橋區傳馬町一丁目

株式會社 東洋工業社

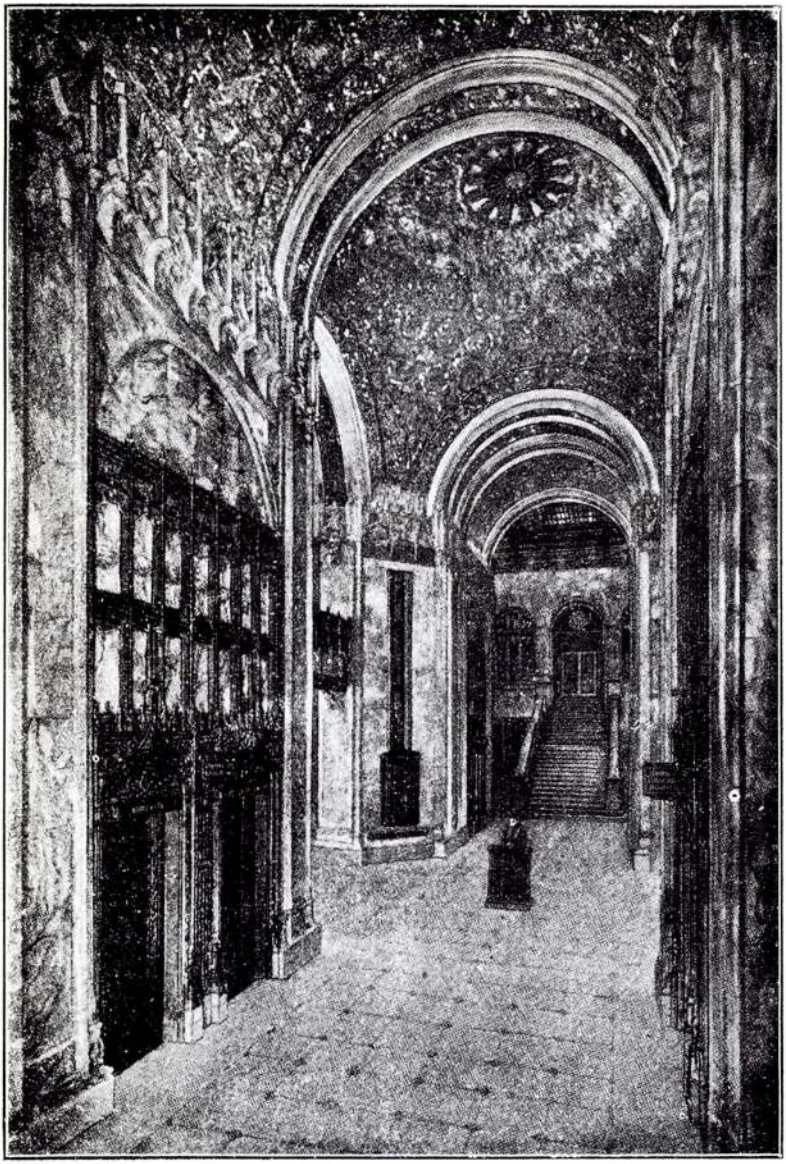
電話京橋 一二八〇・二二〇・四二三〇四五
出張所 大阪 名古屋 小倉 紐育

S.G.

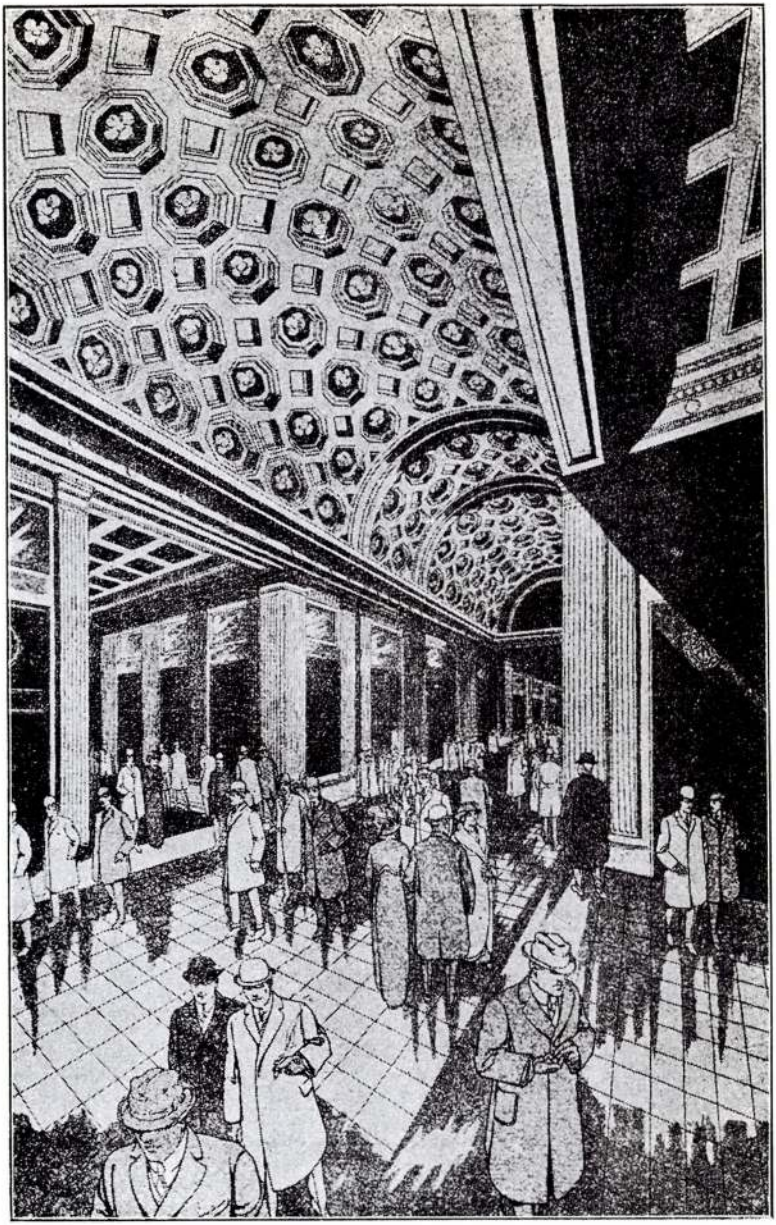


ウイタクブルデイング・ビル

〔ニューヨーク市〕



ウルオースビルデイング
第一階の廊下



イクタアブルル・ビルデイング
第一階の廊下



都市の大改造始まる

本會が、創立以來最大の努力を盡して宣傳を怠らざりし我國大都市の改造は、愈本年度より一齊に開始さるゝことになつたのは、國家の爲めに又都市發展の爲めに同慶の至りに禁へぬ次第である。我大阪市が、其百年の長計として、先づ以て幹線街路の系統を確立し、全國の都市に其範を示したのは、寔に痛快に勝へぬ明斷であつた。神戸市が縱貫鐵道の高架化を決定し、京都市が郊外地の街路系統を決定したのも、亦近き將來に於ける大改造の發端であると見られる。乍併、都市の改造は、唯其幹線街路の確立によりて解決さるゝものではなく、之を以て其下水道の完成を期し、給水を充分になし、高速交通機關の創設と路面軌道の整備を圖り、以て、首尾一貫せる文化的組織の骨骼を形成せねばならぬのである。而して其組織の完成と共に、內容實質の完備せる建築によりて始めて都市民の經濟的活動と、衞生的生活の向上を期待し得るのである。吾人は漸く其改造の第一步に蹈込みたる我大都市の前途を祝福すると同時に　其困難なる事業の遂行に對して市民の一大決心を慫慂せざるを得ない



大阪市區改正事業の前途に就て

會員　片岡安

一

大阪市の市區改正事業は昨年十二月十三日より十七日に亘り内務省内に開かれたる委員會に於て其第一着手の幹線街路系統を決議したことは已に新聞紙によりて汎く報道された通りである。而して其計畫は大体に於て現實を離れず、永遠の前途をも十分に顧慮したる適切なる立案であつたと自分は考へて居る。固より我大阪市の將來が如何に劇甚なる發展をなすやは如何なる人も確定的に打算し得ないのであるから、其發展の模樣によりては今回の幹線街路の計畫は或は多少姑息であつたと言はれる時期が存外早く到着せぬとも限らぬのである。けれども、建築法の制定によりて今後は無闇に高き家屋を許さぬ事や、高速交通機關の發達すべき事情等より推斷すれば、今回確立したる街路系統と其幅員は大体に於て甚しく行詰りを生ずるものとは思へない。而して其立案の實際的價値を今此處に敷衍することを抜きにして、我大阪市の改造計畫が今後如何なる徑路によりて立案され又實施されねばならぬかに就て少しく愚見を述べて見たい。

二

都市計畫の順序から言へば先づ將來我大阪市が延長すべき地域の廣袤を定め、其地域全体に亘る街路系統を確立することが第一要件であつて、今回の我大阪市の幹線街路計畫は其第一要件の主要なる部分を解決したに過ぎないのである。併し地域の廣袤を定めず、從つて外廓地帶に對する街路系統も未定のまゝであり、外延的交通機關や、郊外公園地との連絡も十分に考究されて居らぬのであるから、今後の委員會に於ては其等のものを一括して立案し以て幹線街路系統の首尾一貫するように計畫を纏めねばならぬのである。而して市の外延的交通機關との連絡は、梅田停車場のみは今回鐵道院の擴張計畫の立案に於て其大方針は決定せるも、南方の難波驛、湊町驛を始め各郊外電鐵の終點連絡の設計は全く未決の儘である。郊外の大公園は東方河内の平原に於て、北方淀川を越へたる適當の地に、南方は住吉公園或は其他の方面に之を求めて幹線街路を之に連絡せしむる事は今後の計畫の基礎をなすものであるけれどもそれ等は未だ研究されて居らぬのである。

幹線街路と公園系統が確立して外延的交通機關との連絡も其計畫を了へたとすれば、次に來るべきものは、幹線街路間に更に一條又は二條の幅員八間乃至六間の小幹線の街路を見出さねばならぬのである。現在我大阪市の街路はたとへそれが商業の中樞地區であつても、東西の通りは幅員四間三分で南北のそれが三間三分に過ぎないのであるから、之を永遠に其儘になす時は幹線街路に圍まれたる地區内の交通は直ちに行詰りを生じて其經濟活動力を減殺するのみならず、甲の幹線街路より乙の並行幹線街路に達するには常に非常なる迂回を余儀なくされ、交通の不便と混亂を助長せし

むる結果となるべきは理の見易きところである。今回決定せる幹線街路相互の距離は市の中樞地區に於てさへ東西線は約四百間乃至五百間、南北線は二百間乃至四百間であるから、其間には少くとも一條又は二條の幅員六間乃至八間の街路を選定して、以て永遠計畫の準備をなすことは今後直に來るべき實際的要求であると見ねばならぬ。

街路系統と外延的交通機關の計畫は兎に角都市計畫の最大要項であつて、其立案の巧拙又は規模の大小は實に其都市の來るべき運命を支配するものであると言ふも差支がないのである。とは言へ其都市の可能上の發展力を超越した大規模のものでは其都市を却て疲弊せしめるようなものであるし、又其可能上の發展力を拘束するような小規模のものや又は拙劣なる計畫では其都市の將來に耐ゆべからざる苦痛を加ふるのであるから、市民の先覺者と爲政者が採るべき計畫の巧拙と大小は實に容易ならぬ大責任を後世の子孫に負ふものであると言はねばならぬ。北米合衆國に於て第一世大統領華盛頓が其首都の街路計畫を佛人ランファン氏に立案せしめ爾來百年間大体に於て其方針を踏襲したる結果今日の齊然たる華盛頓市を現出したのであるが、紐育市が其當時市區計畫委員會に於て南北幹線の幅員を百呎として百十間乃至百六十間の距離に之を置き、東西には幅員六十呎のものを約三十三間毎に之を配置し、以て永遠の經濟活動力に勝ふるものとしたのであつた。紐育市が其當時人口數百萬の大都市となるべき運命に氣付かず、其極度三十萬の人口を包容する都市として之を計畫したと言ふことであるから、斯かる姑息なる案も或は其當時としては可成り積極的の計畫であつたかも知れぬのであるが、若しランファン氏をして立案せしめたならば幅員二三百呎の斜線式

大街路を其間に巧に交叉せしめて今日の如き窮狀を生せしめなかつたであろふと思はれる。其他一六六六年の倫敦大火の際にクリストファー、レン卿の燒跡街路計畫が其當時のチャーレス一世や其周圍の爲政家から葬られて了つた爲めに倫敦が今日甚だ見苦しき都市の狀態であると言ふ恨事は可なり强く後世の敎訓となつて居るのである。我大阪市の街路系統と之に伴ふべき交通機關や公園系統の問題は大に其心して之が計畫に遺漏なきを期さねばならぬのである。

三

東京市が明治二十二年より其市區改正事業を始めながら未だ其築港計畫と水上連絡の設備を立案して居ないのは如何にも不始末なことであるが、又大阪市が十年前に築港の第一期工事を終りながら未だに水陸連絡の設備が出來て居ないことも亦不都合千萬の次第と言はねばならぬ。大阪市の呑吐する貨物の過半は水運によるのであるから、今後都市計畫事業の一として築港の大經營を積極的に着手して、其陸上連絡の設備を完成し、以て近代式に經濟活動力を增進せしめねばならぬのである。今後梅田停車場の改築が三千萬圓を要し、難波湊町その他の停車場改築の爲めに幾千萬圓かを要するであらうけれども、それは唯外延的陸上交通計畫の充實に過ぎないのであつて、我大阪市としては更にそれ以上の努力を築港の完成と海陸連絡設備に注入せねばならぬのである。

築港はそれに附帶する倉庫と鐵道の連絡が完備せざる以上其眞價を發揮するを得ざるものである又市內へ出入する運河の連絡は我大阪市に於ては今後街路系統と相俟つて物貨の集散を益利便ならしむる運命を有するのであるから、築港の完備と相俟ちて其完成を圖らねばならぬのである。殊に

淀川北部の平原や、城東線の東一帯より河内の平原に亘り、又大和川以北の平原を通ずる新運河の開鑿は從來の運河系統の改修と共に今後の計畫には是非とも見遁かすことの出來ない緊急のものである。而して現在の運河系統や將來の新運河の脈路は今後都市の區域制に確定的の制限をなすのであるから其計畫案はなるべく早く之を決定せねばならぬのである。

市街地建築物法は今年四月頃より我大阪市にも實施さるゝ筈である。若し其實施に際し商業地域工業地域及住宅地域の色別けが一と通り出來ないとすれば、法の適用上甚だ不便であるのみならず今後の工場整理の如き又住宅經營の如きは全く不安に勝へぬことゝなる。地域の設定は各種の意味に於て都市計畫上急を要するのであるが、運河其他の水運關係によりて大に其色別けを左右されるのであることは殊に深き注意を要する問題である。

四

次に來るべき問題は公共衛生の設備である。而して其中の最も重且大なるものを下水及上水の施設とする。殊に下水工事の重大なる事は、最早説明を要せぬのであるけれども、從來よりも此度更に其急要を感するようになつて來たことを一と通り述べねばならぬ。從來我大阪市の下水は主として洗濯用、料理用其他一般清潔用の汚水を流下せしめ、それに雨水が加ふるに過ぎなかつた、然るに愈幹線街路が築造さるゝに至らば、其街路の經濟的利用と又建築物法の制限とより殆んど凡ての家屋は永久的構造の四階五階の建物と成り、其便所の設備は全然洋風水運式のものとなることは明かである。而して其等の汚水は如何にしても從來の間に合せ式の下水道にては處理し得ないのであ

る。故に此の確定せる幹線街路が築造されて其利用が開始さゝる暁には已に本式の水運式大下水管が埋設されて其汚水の徹底的處理が實施されねばならぬのである。

我大阪市及其接續地帶の組織的下水處理は如何なる方式に據るべきやは技術上の問題であるが密閉式の水運裝置として郊外の一大沈澱池まで之を運び出すまでは、如何なる方式に據るも絶對に必要なる徑路である。又雨水と汚水を各別の系統となすや或は併合式となすやも多少研究の余地ある事柄であつて、我大阪市の地勢としては低濕の方面以外にありては之を別系となすを便利となすは大体之を認めねばならぬ。而して其系統は現在の大阪市の地域内を以て滿足する譯にはゆかない、什うしても郊外數十町に亘り現在の接續町村は勿論將來市に編入さるべき地域一圓を包擁して其全体の系統を立て、先づ以て大幹線より之に着手し、幹線街路築造の際に全時に之を施工するを順序とする。

給水工事の設備も其幹線の設計は將來の大大阪の市民に供給し得べきものとせねばならぬのである。人口の增加する毎に幹線街路の水道鐵管を堀り返して埋め直す如きは、なるべく之を避くるを必要とする。又高層建築の續々出現するに際して其水壓も從來よりは更に强大なものを要求するは當然であつて、將來は飲料水と一般使用水及消火栓用のものと其系統を各別に布設するを必要とするであらふと思はれる。飲料水が間接及直接に消化器系の病氣の原因となるは明瞭なる事實である故に將來都市住民の飲料水の精選には十分の注意を拂ふと全時に一般使用水にかゝる費用を要せざる清水を供給することは經濟上當然の事である。從來其規模小なる水道計畫にては各別の系統を布設

さる爲めに要する經費の節約は、繼續的に費用を償ふて余りありし爲め、主として全一系統の清水を飲料水及あらゆる清潔用に使用したりしも、今後數百萬の市民に對しては到底斯かる不經濟のことは繼續出來ない筈である。

食糧檢査所、公設市場、其他各種の療養所等は社會救濟事業と密接の關係を有する施設であつて都市計畫の根本より少しく岐路に亘るの嫌があるからそれ等は此處に述べぬことゝする。又遊園地娯樂場等も市民の保健上の重大事項であるけれども姑くそれ等は埒外に置き、先づ以て下水道の完成、上水の普及を以て今後の衛生設備の大本として急遽其計畫を立案せねばならぬのである。

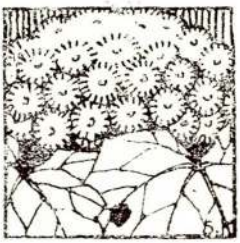
五

以上は主として第一期計畫とも名くべき我大阪市の都市計畫事業であつて、其性質の廣汎にして其數量の高大なるは從來の如何なる事業も比較すべからざる程度のものである。斯かる驚くべき大事業の立案が昨年を以て其端緒を開きたることは、我大阪市民に取つては紀念すべき年であると言つてもよろしいのであるが、仝時に中古以來唯過渡式に延長し來りたる舊都市を一擧にして現代式文化都市に改造せんとする其難事業に其第一歩を踏み込みたる一大決心を要するのは勿論である。先づ之を財政上から見るも以上の事業を一と通り遂行するには最少限五億圓の大金を要するのであるから、其金の調達からして度胸を定めてかゝらねばならぬのである。乍併巴里市が最近の狀態に達するまでの都市改造に五億圓を費した實例もあり、我大阪市の現在の富力や其將來の發展力に鑑みたならば必ずしも驚くべき大金ではないのである。若しそれ我大阪市民が斯かる大改良を企てゝ

其成工したるものを子孫に譲るものとなれば、其五億圓の資金は全部償却し盡して置くの必要もない筈である。又其償却の方法も改良に依り大なる利益を享けたる五千萬坪の土地に對し十ケ年間の時日に平均拾圓の負擔を豫定するも確實に之を償却して余りあるではないか、大阪市は其都市計畫に對し其財源に窮するならんとか、償却に困るならんとか考ふる人は到底現代の文化都市建設の眞義を理解せざるものであるとも見得られる。

大阪市が其都市計畫を着々實行する時に市民が其計畫を生すか殺すかは、一に市民の覺醒如何にあると言ふを妨げぬ、若し都市として文化的組織的に大改良が實行さるゝ曉に其箇々の實質たる建築が少しも改良されぬようでは、骨骼のみ立派に出來て、肉体の充實が伴はぬのと全然である。市民の活動を助け、其健康を保全し、其安寧を維持すべき直接の對象は箇々の建築にあるは別に說明するまでもないのである、而して我大阪市の都市計畫事業の遂行と並行して其都市建築が如何に變遷し行くか又如何に之を變遷改良せしむべきやは、實に畫龍の点睛に等しき重大事項である。其問題に就きては更に章を更めて之を論ずることゝする。

〔獨逸の都市計畫〕　獨逸都市は一般に最近の勃興にして、新發展の際には大抵一定の都市計畫を樹て膨張に準備した樣である。一般獨逸都市の計畫に見るべきは簡明にして實際的なることである。其規模の大膽にして驚くべき程先きを見越してゐることは實に稱讃に値すべきものがある。殊に國内の交通系統と都市の連絡、其河港の設備と工業地區の制限、大廣場と停車場公館と娯樂機關の設備に至るまで用意周到にして凡て劃一されたる永遠の計畫を順序よく實施し來つたのである。



最近避電針の進歩 一

京都帝國大學工科大學教授 青柳榮司

緒言

現今世界に於ける避雷針の構造及監督方法は餘程改良せられ其進歩に於て著しきものがある從て舊來我國に行はるゝ普通の方法は之に比すると不經濟でもあり且又往々不完全のことも見受くるから大に改善を要することゝ思ひ、茲に之を掲げたのである。

予は其の好適例として最近瑞西國に於て制定せる家屋避雷裝置の最新構造及監督方法に就き其の規定の大要を紹介することゝする。之れは大正六年五月十二日に制定せるものであるが瑞西は我國と國情を異にする所もあるから之を參考とする場合に能く此點を斟酌して取捨せられんことを希望する。

瑞西國制定避雷裝置の構造及監督方法

(第一) 規定の適用範圍

一

(1)避雷裝置を設備せなければならない家屋は左の通りである

(a)、定期的に多數の群衆が集合すべき家屋例へば寺院、學校、工場、兵營、病院、旅館、停車場、百貨商廛等の如きもの科學上或は美術上特別の價値を有するものを保藏する家屋例へば陳列館、博物館等の如きもの

(b)、煙突、高塔及其の他の高き建築物

(c)、孤立せる若しくは展開せる場所にある家屋、但し住宅でない小屋は除外する

(d)、爆發性或は火災の危險ある物品を貯藏し若くは取扱ふ家屋

例へば軍需品製造工場、烟火製造工場、燐寸工場、軍需品、火藥、石油及ベンジン貯藏場等（此等の場所に於ける避雷針は特殊の規定に從ひ特別の裝置を施すこと）

(2)、其他の家屋は所有者の希望如何に委すること

二

(1)、避雷裝置を施さるべき所は其の構造上最小必要限度とせる前述の規定に適合せしめねばならぬ

(2)、既設の避雷裝置が大部分變更され若しくは擴大されたる場合には此規定に據らなければならぬ

三

弱電流及強電流用避電裝置（電壓上昇防止裝置）は斯の規定に含まれない。弱電流及強電流工事を施せる家屋に於て避雷裝置を取附くる場合には其の電壓防止裝置と無關係に之を設置することを要する

（第二）避雷裝置の構造及實施手續

四

凡て避雷裝置は左の諸部より成るのである

捕捉導体は空中充電を捕捉するものである。

避電導体は一方捕捉導体に他方**接地線**に續がる、又此接地線は地中に埋沒せる**電柱**に續かれ大地に放電するの用をなすものである。

五

(1)、捕捉導体として第一に屋根に取附けられたる金屬物を利用することが出來る。

例へば屋上に用ひたる金屬被覆物鐵製煙突

金屬製欄干其他種々の金具類の如きである

(2)、此等の金屬物が電氣的に連結されてあらざる塲合には特別の連結線を施すべきである

(3)、若し此等の金屬物を全く欠くか或は之が不十分なる塲合には其の代用として人工的避雷導体を施すことを要する。

(4)、斯る塲合に於ては家屋の突起せる高き部分に互ひに連結せる人工的避雷導体を施設し之を保護すべきである。

(5)、若し特別の所謂避雷棒を取付けたる塲合には之と既存の避雷導体或は避雷導体との金屬的接續を良好ならしむべきである。

六

(1)、避雷導体内に加ふ可き金屬物は一般に下方に向て避雷導体或は避雷導体に連結すべきである。理由なき上方に向ての連結は之を避けなければならぬ。

(2)、屋上にある一層小なる金屬物迄も避雷導体に連結すべきや否やは工事者の意見に委すること、する。

七

(1)、煙り出しは避雷導体を以て保護されべきである而して其の下方に向て最も近く位する天然的或は人工的避雷導体に連結すべきである。屋頂導体の下に直接位する煙り出しは常に相連結して宜しい

(2)、若し出來るならば殊に避雷導体を以て煙り出しの全頂を保護すべきである。取附工事を容易ならしむる爲め此避雷導体は煙り出しの石材部に直接敷設することが出來る

(3)、高き煙突は其の頂上を蔽ふに冠狀金屬を以てし成べく反對の側に二條の雷避導体（第十三條參照）を敷設すべきである

八

(1)、家屋が其主要部として或は大なる連結的金屬物として水道管暖房管等の如く電氣的に連結せる導体を有し、それが屋根の上下に達するか或は避雷導体又は避雷導体に接近する塲合には避雷導体或は避雷導体に近き

最も高き點に於て互ひに相連結することを要する。

(2)、此場合に於て其の金屬物が接地狀態を構成せざるときは其の最下部に接地線を設け若し出來るならば常に之を水道鐵管に連結すべきである。

(3)、(鐵筋混凝土工事は特殊の規定を設くべきである)

九

(1)、人工的逮捕導体を敷設せんとせば銅製或は亞鉛引鐵製單線撚線或は帶金を用ゆることが出來る。

(2)、使用導体には最小限度として左の大さを與ふることが出來る。

(a)、銅

丸線　直徑六ミリメーター
撚線　切斷面積三四平方ミリメーター
　單線の直徑二、五ミリメーター
帶金　切斷面積四〇平方ミリメーター
　厚二、〇ミリメーター

(b)、亞鉛引鐵

丸線　直徑八ミリメーター
撚線　切斷面積六五平方ミリメーター
　單線の直徑三、〇ミリメーター
帶金　切斷面積七五平方ミリメーター
　厚三、〇ミリメーター

一〇

叙上の逮捕及避雷導体金屬物の連結には鉸接螺止鑞着捩組或は其他同値の耐久的手段を講ずべきである。

一一

(1)、逮捕導体及避雷導体は適當なる方法に依り取附金具にて屋上に敷設し外部に表はすべきである。

(2)、其の取附は家屋修繕の際破損せられざる樣尙又其の監督容易なる樣注意すべきである

(3)、取附金具を屋根に敷設する爲め雨漏なき樣

注意して密閉すべきである。

(4)、凡て導体を屋根に敷設し之を取附くる場合には家屋修理積雪除去等の際被害なき様出來得べき丈之を保護し且つ又檢査の容易なる様十分の考慮を拂ふべきである。

一二

人工的逮捕導体及避雷導体を敷設する際出來べき丈鋭角の折目を與へざる様注意すべきである

一三

(1)、接地せる避雷導体の數は家屋の面積三〇〇平方メートル迄二箇とする。若し家屋が一層大なるときは二〇〇平方メーターを加ふる毎に一箇增し若し其の端數が二〇〇に滿たずとするも尙壹箇を加ふべきである。

(2)、塔及高煙突は何れも二箇を用ゆる。若し之が家屋の一部として建設されてある場合には二箇の內一箇は家屋の分として計算し之を利用するも妨げない。

一四

(1)、天然的避雷導体として接地せる放水金屬管或は他の接地狀態にある家屋の金屬物を利用することが出來る。

(2)、人工的避雷導体として使用する材料及大さは第九條に依る。

一五

(1)、屋外に表はされた鐵或は其他の金屬製のもの例へば突起部廠ひ或は强流及弱流用電線の架柱等の如きものが、避雷導体に近きときは互ひに相接續すべきである。

一六

(1)、避雷導体及接地線の接續は取離し得る様施工し接地線の試驗を容易ならしむべきである。

(2)、此接續點は被害を除き且又檢査を容易ならしむる爲め地上適當の高さに設くべきである。

(3) 此接續裝置は特別の補助器なき限り取離し難き樣施工すべきである。

(4) 人工的避雷導体を放水金屬管に近く施工し之に沿ふて直接に連結せざる場合には取離用接續點以上に於て更に兩者間壹箇所接續すべきである。

一七

(1) 接地線の材料として鉛引錫引或は裸銅線を用ゆるを宜しとする。尙又亞鉛引鐵線を用ゆるも妨げない。

(2) 接地線として使用すべき材料及大さは第九條に依る。

(3) 化學的腐蝕作用なる爲め銅或は鐵の使用を不可能ならしむる所には最小直徑七五平方ミリメーターの鉛線を代用することが出來る。

(4) 接地線の特に被害され易き所には之を强固なる管内に藏むるか、或は他の同値の方法を用ゐて之を保護すべきである、此保護法は前項の鉛線を使用する場合に用ゆまで地上全部に對して之を施すべきである。

一八

(1) 水道管を有する家屋に於ては水道管の附近にある接地線を屋外にて其の水道管に連結し天然的電極たらしむべきである。

(2) 此場合に於ては裸にせる水道管の周圍に幾回となく接地線を卷き附くるか若しくは其の他の方法を用ゐ以て兩者の間に十分の接觸面を與へたる後鑞着を施し『タール』を塗抹すべきである。若し水道管が水を充たせる爲め或は他の原因の爲め鑞着が不可能であるならば管狀桎梏を以て電線を完全に蔽ひ堅く之を押へ付くるが良い。其の桎梏の接目は鉛或はメジ塡を以て塞ぎ且つ其の接續箇所全部に錆止を塗抹すべきである

(3) 水道管に接續工事を施す場合は先づ水道管所有者の承諾を受くることを要する。

一九

(1)、若し水道管が無いか或は此接續が比較的過大の費用を要する工事であるならば人工的電極を使用すべきである。

(2)、此電極は耐久的に且つ電氣的良好に接地線に接續すべきである。

二〇

(1)、電極として左のものを可とする。

(a)ジグザックに敷設されたる電線或は解かれたる撚線或は帶金を鉛引或は亞鉛引或は裸銅にて作り其の長さ何れも一〇乃至一五メートルとし、少くとも第九條の大さを與へたるもの。

(b)片面一平方メーターの面積を有し網目の大さ五〇〇平方センチメーターを超へざる格子形或編物形の導体を鉛引或は錫引或は裸銅にて作り少くとも第九條の大さを與へたるもの。

(c)少くとも片面の面積として巾五〇センチメーター長一〇〇センチメーターの金屬板を鉛引或は錫引或は裸銅にて作り少くとも一ミリメーターの厚を與へたるもの。

(2)、同樣の効力ある電極として左のものを認めることが出來る。

(d)前三者(a)(b)或は(c)の場合に亞鉛引鐵を用ゐ(a)(b)の大さに向ては第九條の最小限度を用ゐ(c)に向ては少くとも二ミリメーターの厚を與へたるもの。

(3)、特に化學的作用が銅或は鐵の使用を不可能ならしむる場合には少くとも切斷面積七五平方ミリメーターの鉛線或は鉛帶金を用ゐて(a)の工事に依るか或は少くとも厚さ三ミリメーターの鉛板を用ゐ(c)の工事に從ふも妨けない。

二一

(1)、電極の敷設は容易く地下水に到達し得る所を撰ふがよい。

(2)、若し地下水を欠ぐか或は余り深きに過ぐるときは電極は濕地或は雨水にて濕ふ所に敷

設すべきである。

3)、良好なる接地を得るに適せざる地質の所では濕りたる木炭にて作れる層或は粘土質の層に電極を埋むべきである。コークス及石炭滓は此場合に使用してはならない。

二二

(1)、電極の敷設に於て不適當なる關係の存する場合には家屋を距る一乃至二メートルの箇所に於て四〇乃至五〇センチメーターの深さの輪狀導体を敷設し之に接地線を連結すべきである、輪狀導体よりの分岐線は外方に向て取附くべきである。

(2)、輪狀導体の材料として鉛引或は錫引或は裸銅線を用ゐ第九條に述べたる最小限度の大さを與ふるを可とする。

(3)、更に亞鉛引鐵線を用いても宜しい、併し前項と同樣其の大さは第九條の最小限度に依るべきである。(未完)

エヂソン氏の第廿三世紀の豫言

エヂソン氏は、ペミスなる假想的人物を作りて第廿三世紀の世界を豫想せり。ペミスは十九世紀の終りに於て奇術を以て靡醉し、密室の中に置かるゝこと凡そ三百年、而して彼れは突然第廿三世紀の中葉に其奇術を解かれて其身は紐育市の中央に立てり、是れ宛然一のリツプアンウインクル也、先づ第一は火星との交通なり、彼れはウイスコンシンにて行はれつゝありし火星との交通を見んが爲に全地に赴けり全地は四十三哩に亘る大鐵山あり今や之を一變して一の磁石力と爲せり、學者は地球上にて激烈なる磁力的妨害を起し斯くて他の星體と交通せんことを企てたるなり、次いでハドソン灣附近にてヘリユーム磁物發見せられ尙化學的作用を施して引力作用を消滅せしめ之に乘じて火星旅行始められたり。



デモクラチツクな住家

早稲田大學教授　安部磯雄

□□家を貴重視する習慣

一体日本人は、借家住ひをして居る間は兎も角もだが、いざ、自分の家を持つたと成ると、非常にそれを大切に扱つて、其處に住む所の人間よりも、寧ろ家そのものに主きを置く習慣が有る樣である。

從つて、主人は、家族達の立居振舞の度毎に口喧しく、或は子供を叱り使用人を叱り、自分自身さへも不自由を忍びつゝ、尙ほその家を、暗に貴重品扱ひにする、といふ馬鹿氣た眞似をして居る人が仲々少なくはない。無邪氣な子供達や、家族ばかりが可哀そうな次第である。

これでは、人間が住む爲めの家か、家に住む爲めの人間か、解らない話で、私は少なくとも人間を束縛するやうな家は、造り度くないと思つて居る。子供も、他の家族も、自由に元氣よく遊びもし、立居振舞もしなくては不可ない、惡るくなつたり、破損したりしたならば、家は何度でも建替へれば宜しいのである。

□□小窓の少い日本住宅

立派なる玄關を造つて、非常なる金を掛けることや、門柱などに見得を張るのは、要するに虛榮心から來る現象で、苟くもデモクラテツクの思想を持ち、家そのものの、本當の目的の解つてゐる人の爲すべき事では無く、私は、石門とか、大玄關とかには絕對に反對である。

日本人の從來の家に就ては、斯うした事を初めとして、實に數へ切れない位に、多くの缺點を持つてゐる。其中に在つて、殊に私の感じてゐるのは、日本住宅には、如何した譯か小窓が少ない事である。

例へば、椽側の硝子戸などでも、戸の上は直ぐに壁のやうな處が多く、此處に窓をつけて、下の戸は閉めても上を開けて、空氣の流通を計るといふやうな注意をした家は實に少ない。

現在の私の家も。私が手に入れた時は、前述のやうな缺點を持つてゐたのだが、私は直ちに入手をして、今では全部を小窓にして仕舞つた夜でも出來るだけは、これだけは閉めない方針でやつて居る。

椽側に硝子戸をつける事に就て、近頃はあれを開け放して、冬でも自由に風を室内に吹込ました方が宜しいといふやうな説を聞いてゐる。何んでも初めの中は、風邪を引いたり何かするが、馴れるに從つて、健康上非常に有効だとの事だから、私も現在は此硝子戸を立てゝはあるが、寒むい時を通り過したら、取り除いて早晩廢止したいと考へて居る。

□□理想室を居間とせよ

部分的に渉る話ではあるが、私が、日本住宅の二大缺點として、豫々感じて居ることは、——私許りでなく同じやうな事をよく耳にするが——便所と臺所である。

日本人は元來が、見得坊とでも云ふのか、衛生思想に乏しいと云ふのか、一番多く使用せぬ處の客間などを、馬鹿に立派にするが、さて臺所とか便所とか、居間とかには、頗る冷淡であり、不潔であり、ぞんざいである、非常なる間違であると云はねばならぬ。

本當を云ふと客間などは、一日の中に幾時間使用するものでは無く、且つ、客の方でも幾時間も幾時間も話し込んで居るものでは無い、大抵一時間とか一時間半とか定つたものだ、そして入れ代り立ち換り來るので、用件を濟されると直ぐに歸られるのだから、その客間が、少し

位日當りが悪るくても、少し位狹苦しくても、大して不自由でもなく、又、來客に對しても、決して失禮であるとは思はれない。

で、私は、一番廣くして暖かく、南日を受けた清潔な理想的室を自分達の居間に宛つべきものだと思つて、これを實行して居る。自分許りではなく子供の室もこの方針で定め、別段に裝飾等はしないが、常に清潔に氣を注けてやつて飛ばうが跳ねやうが、戸を破らうが障紙の骨を折らうが、殆んど自由な彼等の天地として與へてある。

客間よりは居間が大切である事を忘れてゐる人が多い。

□□健康を組み立る臺所

さて臺所だが、東京でよく見受けるやうな坐つて仕事をする流し場は宜しくない、如何してあんな事にしたのか理由のないことで、僅か許りの經濟的な相違からであらうけれども、矢張り、立つて働くのでなくては、便利の上から云つても、衞生の上から云つても不合理である。

明るくして、出來るだけ長く、出來るだけ多くの日光を受入れる工夫をして置かなくては、更でだに濕氣の絶えぬ處で、いろ〳〵な黴菌などが發生して、恐るべき病源と成ることがある實に僅か許りの經濟問題などには代へられないことだ。

も一つ、臺所は何れも非常に狹苦しく取つてある、酷い家に成ると、殆んど在るか無しかに扱つてゐる處があるが、これ等はその家を建てた人の、非常なる非常識を曝露するもので、一家の人々の健康を組立てる、大切な場所は常に輕視してはならないのである。

□□便所は母屋から距せ

便所は不淨なる場所といふので、ある家では此處を眞暗にし、殆んど日も透らぬ位にして居り、これを以て善良なることゝして論じてゐる人もあるが、私は非常なる間違だと思ふ。

日本も然樣だが、西洋でも多くの家は、その

住宅の中に便所が設けられてある。殊に日本の大きな家などに成ると、二階にもあり、階下にもあり、さてまた使用人用のもありと云ふ具合で、三箇所も四箇所も設けてあるが、それは先づ良いとして、同じ建物の中に、こんなに便所があつては、氣持だけでも妙であるでは無いか。

私は、便所は住宅から少し離れた處に建てたい——詰り母屋から、一間なり二間なり距てを置いて建て、廊下傳ひで其處へ通るやうにして其境の扉を閉めれば、全然別箇の建物といふ風なものが理想だ。

丁度、私の現在の家も斯うなつてゐるが、これならば、例へ來客用、主人用、使用人用といふ樣に、三つでも四つでも拵へても、差支のないことで、家族の居間などへ臭氣も來ず、落着いてゆつくりと用も達せて、結構なことである。

西洋の便所は、ざん〳〵水を利用してあるから、如何に小さな家にあつても、臭氣などのする事は無く、私が外國に於て、如何なる家庭へ行つて便所へ入つても、『忌やだな』とか『不潔だなとか思つた事はない。

□□ 糞壺の見えない工夫

斯うした西洋式の設備をするには、先づ下水工事から起こさねばならぬから、日本の現狀では面倒である。で、矢張り母屋から離して建てる事が、一番に宜しいやうである。隨分、家によつては客間の近くに在つたりして、客の方で氣の毒なやうな場合や、臭氣が風の吹き廻しで流れ込んで來て、氣持の惡るい時などがある。

前に述べた便所を暗くするといふ論者も一應尤ものやうではあるが、それは要するに、汚い處を誤魔化そうといふ話である。如何にも糞壺のはつきりと見ゑるのは、餘り感心した物では無いが、これは、壺を深く埋め、汲取口を密閉する事によつて免れることが出來る、上の口からの光だけでは、實は極く僅かなものなのだから、滅多に中は見ゑないものだ。

私の家の便所などは、四方を窓にしてあるしかもその窓を低くしてあるので、夏は窓を開

け放すと殆んど野原で用を達してゐるやうな感じで、殊に庭も見ゐるから、頗る呑氣なものである。從つて、明かるく廣ろく清潔といふ事は充分に注意する事が出來るのである。

日本の家と西洋生活

きのやうに云ふ人もあるが決してそんな事はないと信じて居る。

たゞ、疊が無くなれば、寢轉んで一家が話し合つてゐると云ふ、日本獨得の樂しみは無くなるが、また晩餐の卓を圍んでの談話も懷しいものであらふと思ふ。

日本式の建築に、西洋風の生活は、どんな便利と不便があるか、それはまた機會を得て、實驗の上で申述べる事としやう。

―談。文責在筆者―

最後に私は今、家へ歸ると和服を着て、應接室の外は疊を敷いた日本式の生活をしてゐるが段々と西洋式に改めて行きたいと思つてゐる。子供にも他の家族にも洋服を着せ、食事も卓にして見る考だが、こんな生活が日本の家に不向

獨逸の住宅政策

住宅建築に對しては政府も非常に力を入れて居るので、都市に向つては常に機會ある毎に住宅を建築せよとか、細民に家屋購入資金を貸して遣れとか、或は都市自身で土地を買込んで便利な交通網を張ると云ふ樣な事を奬勵して止まない。貸屋といつても日本の長屋とは全然違ふ、四階とか五階の大建物で一廓になつて、此の内には多數の家族が別々に家庭を構へられるので、其外觀などは實に堂々たるもので、東京邊りへ持つて來たら恐らく第一流の建物であらう。從つて裝飾と云ひ構造と云ひ設備と云ひ奈何にも完全なるものである。



居構百選

（其二）

會員　葛野壯一郎

（既出）

▽三戸建勞働者向長屋＝英國ワルグレーヴ

▽二戸建勞働者向長屋＝米國マサチユーセツツ州ロウエル

▽一戸建勞働者向長屋＝米國マサチユーセツツ州ロウエル

四　二戸建四室長屋

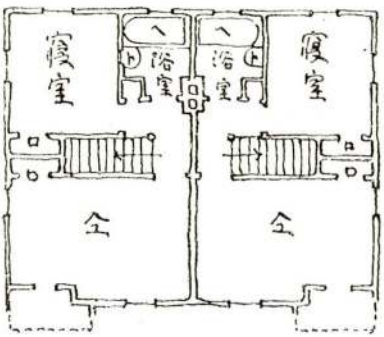
四は米國マサチユセツッ州クウインシイ職工町に於ける四室二戸建の一例で有ります。設計者はボストン市の建築家、ゼームス・イー・ミクラフリン氏で、一戸の建坪拾坪、外に玄關と裏口の張出しが二坪餘の計算で有ります。第二にあげた仝州ロウェルに於けるものと比較すると著しく趣を異にし、玄關や裏口のあたりが遙かに贅澤にとられて居ります。玄關の大さは七尺角、居間は八疊餘、台所兼食堂も仝樣の大さで窓際に流しと其隣に食器棚を置いて居ります。二階は大寢室が八疊餘、少寢室が四疊半餘、外に約七尺角の浴室を具へて居ります。工費は記錄が無いので不明でありますが、大体第二の例と仝じ程度で坪四百圓内外のものかと想像せらるるので有ります。

由來クウインシー職工町は、仝所フォア・リヴアー造船所の優良職工のために經營せられたもので、敷地が三ケ所に分れ、クウインシー自体がボストン郊外に於ける景勝の地で有るが如

く、此經營地の何れも亦頗る展望に富んだ理想的の土地で有ると稱せられて居ります。關係技術家は建築の方を受け持つたミッラフリン氏の

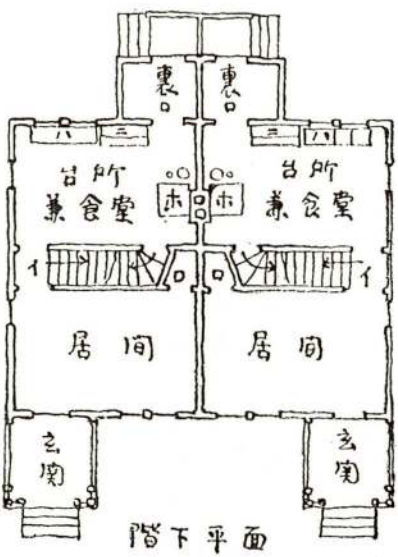
イ、階段　ニ、食器棚　ト、便器
ロ、物入　ホ、カマド
ハ、流し　ヘ、浴槽

第四圖



階上平面

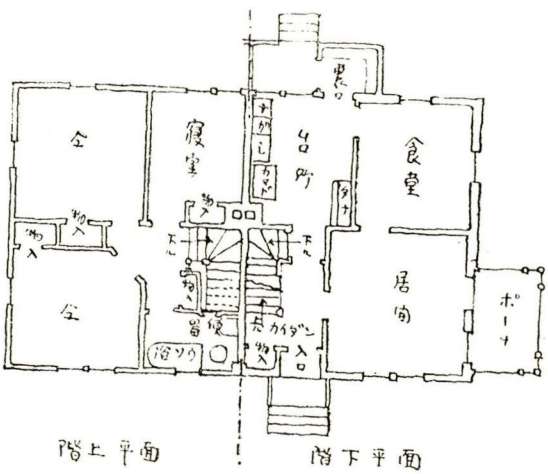
外に、都市計畫家エッチ・ゼー・ケラウェイ氏及び土木技師アルチスト・ダブリュー・ブランチ氏が擧げられて居ります。家數は全体で二百五十六棟、內九十棟が一戶建で他が二戶建、都合四百二十二家族を收用し得る規模で有ります大部分は五室及び六室で、少數の八室を具へたものも有ります。敷地の大さ一戶平均五千平方尺即ち百六十六坪餘、道路と建物の間隔十五尺以上、建物と建物の間隔二十尺、建物の何の部分にも充分の日光を受けるだけの空地を存し、建物の何れの室にも必ず二箇以上の窓を附する事を通則とし、暖房は熱氣裝置を施し瓦斯電煙の完備せる事は申す迄も無いので有ります。



階下平面

構造は木造と煉瓦造との二種で、木造は白色或は灰白色ペンキ塗で、ガラリ戸が綠色塗となツて居ります。斯言ツた住宅町では有勝の建物樣式の單調を破るため設計者は非常に苦心をしたさうで、何の家もテンデに『私は此處に居ります！觀て下さい！』(Here I am! Just Look at me!) と云はぬ計りに色々の形をして居るといふ事で有ります。(アーキテクチュラル・レコード一千九百十九年三月號)。

第五圖



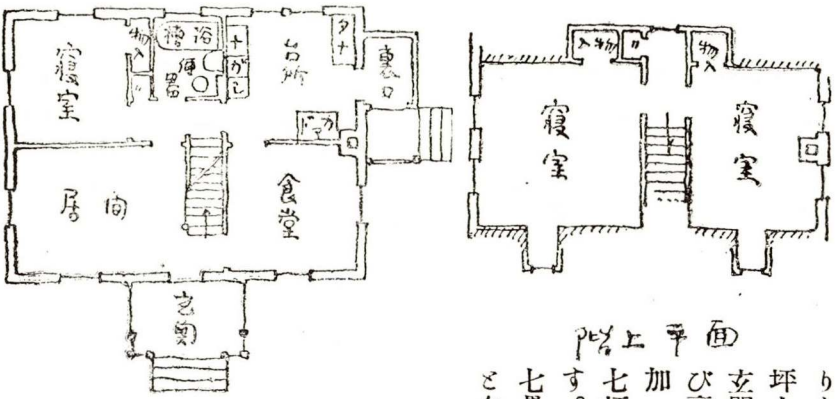
五　二戸建六室長屋

前仝樣クヮインシー職工町に於ける二戸建六室の一例で有ります。總建坪本家が拾貳坪強、ポーチが一坪五合、裏口が五尺六尺で一坪弱、總計約十四坪五合の計算で有ります。階下居間が八疊敷でそれからポーチに出て外氣を娛む事が出來、食堂が約七疊敷、台所が五疊敷に相當して、第四の例と仝樣流し竈及び食器棚を具へて居ります。入口のすぐ際に小いさな物入が有ツて外套帽子等の置場に充て、それからすぐ二階に通ずる邊は至極重寶な配置で有ります。階上寢室は大さ約八疊六疊四疊半敷位に相當し、何れも物入を具へ浴室入口際にも小いさな物入を具へて居ります。(前同)

六　六室一戸建住宅

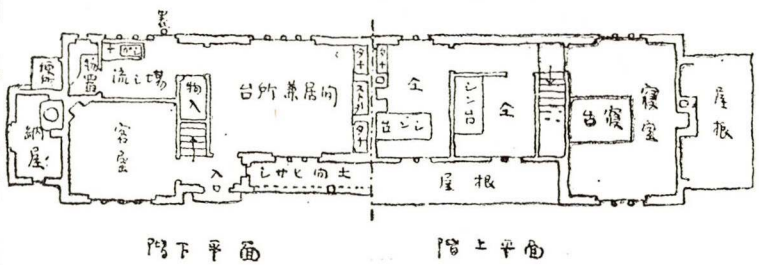
前仝樣クヮインシーに於ける一戸建の例で有

第六圖



ります。本家建坪十五坪、外に玄關一坪五合及び裏口の六合を加へて總建坪十七坪餘で有ります。階下居間が七疊敷餘、食堂と台所が何れも六疊敷寢室が約五疊敷に相當します。二階寢室の大きい方が約十疊小が七疊敷に相當し共に物入が附屬して居ります。此配置の特に注意に値する事は、第一例に述べた如く浴室を階下に設けて居る事で有ります寢室の如きも階上は特に大きなものを置き、階下にも小さいものを一室用意して居るのは吾々の居住習慣からしても直ちに應用の出來る至極便利なもので、洋館といへば浴室や便所が必ず二階に在るものと心得て居る一部の人等には、一寸參考になる種類の間取で有ります。第三に擧げたロウエルに於ける一戸建の例に觀ても、階下に寢室に代用す可き客室を

第七圖



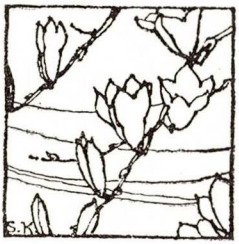
置いて居るが、小人數の家庭では一室位階下に寢室を有する事が、必要な條件らしく認められるので有ります。（前同）

七　二戸建五室田舍家

七は英國の長屋建コッテーヂの少し變ッた例で有ります。位置はヘルトフォルド・シャィアルヂブウォルズ附近で、設計者はハリソン・フイールディング氏で有ります。建坪本家が十六坪餘で、外に二坪餘の便所及び納屋が附屬して居ります。客室が六疊敷餘、台所兼居間が約十疊敷で、別に流し場が附いて居るのが英風の特長で有ります。階上寢室は夫婦用のもの約十疊敷、其他は四疊半六疊と云ッた大サで、別に浴室は具へて居りません。側壁は煉瓦造で屋根瓦は全地方に產する特種の物を使用し、外觀上最風致をそへて居る正面の土間廂はオーク材を使用したと有ります。戰前五六年前の建物で有るから安價なのは當然で有りますが、此種のものが、大略坪當りに換算して邦貨百四五十圓の建築費で出來たといふ事で有ります。（千九百十五年スタヂオ年鑑）（未完）

獨乙の勞働者住宅

建物の前方往來に面した方かそれでなければ內側には必ず庭園がある。庭園は普通二つに別れて、一方は子供の運動場向に出來て、廊內の子供が皆出て遊ぶ樣にしてある。機械體操、ブランコ、木馬と云ふ樣な子供向の設備がしてある。も一つは大人向きで之れは植木草花類が主になつて夕方とか祭日には主人や細君達が出て來て散步したり雜談する爲に出來てゐる。建物には必ずバルコニーが澤山突き出て、此處には鉢植の草花などがあしらはれてゐる。之れが勞働者の住宅とは思ひも寄らぬ理想境である。



大阪に於ける劇場の變遷

(5)

大阪府技師會員 池田實

「二」劇場の數 (つゞき)

以上縷々述べ來つた所を綜合して見ると、當初明治三十年に現在數の約四倍の定數を制限したのが、途中約十五年を經て只一箇所の不足を感じたことに一度遭遇したのみで、最初より二十餘年を經た今日尚昔の定數に於ても餘裕が存して居る、其の餘裕は大劇場に於て少なく、小劇場に於て多きを見る、其れは劇場が一般に今日の建坪二百坪を以て限界として居る大小劇場の區別と其の名稱にも因るが、昔より漸次劇場が大きくなりつゝある傾向の結果とも考へられる。又一度定數を制限しても時代の推移に從つて、其の定數に滿つるに至れば止むなく其の定數を增加するものとすれば、根本的に考へて劇場の定數などは必要のないもので、社會の自然の趨勢に委せて置いて可なるものではあるまいかとの疑問が起る。素より劇場の如き特種建築物は、其の濫設の結果、一朝興行上の競爭の爲め甚しく維持に苦しんで廢絕の止むなきに至つたならば、他の用途に供し難いので場主は勿論社會經濟上に於ても不利益であり、又興行上の取締等も多々益々繁雜になり行く等種々の缺點も伴ふ虞があるから、そう簡單に定數制限の可否は論じ難いかも知れないが、兎に角一考すべき價値のある問題の一であると思ふ次第である尙ほ近き將來に於て都市計畫法の施行に基き大

大阪の出現に伴ふて諸般事項の膨脹は自然の現象であるべきであらうと思はれるので、少し早いかも知れんが、此の機會に於て一言を陳する譯である。

「三」劇場の分布

次に劇場の分布に就いて少しく述べて見ようと思ふ。何と云つても昔から大阪の芝居といへば道頓堀の五座にといめを差すので、先づ其の中樞たる道頓堀から初めると、大阪に於ける十大劇場中、浪花座、角座、中座、朝日座、辨天座の五大劇場と、之に隣接した千日前には芦邊劇場、蓬萊宮の二大劇場、敷島倶樂部、常盤座第六愛進館、彌生座の四小劇場、合せて十一の大小劇場即ち大阪の劇場の約三分の一、大劇場のみに就いて言へば七割を占めた此の一帶は實に大阪に於ける娯樂地帶の第一位である。次は松島、九條の隣接區域で、此處には八千代座、歌舞伎座の二大劇場と、高千代座、住吉館、繁榮座の三小劇座が集合して一團を爲して居る。其の次は新世界で、大橋座、日本倶樂部、いろは座、朝日劇場、清華殿の五小劇場が集合して第三の地位を占めて居る。淡路町には文樂座、御靈倶樂部、玉造方面では玉造座、玉造朝日座福島には春日座、福島座の各二小劇場がある。其の他は天滿に於て天滿座の一大劇場、天神橋筋東一丁の花屋敷内に第三大和館、本庄浮田町に大阪座、與力町に壽座、老松町には老松座、西野田に戎座、西九條に明治座、難波立葉町に勢廣座の各小劇座が各別に孤立して分布せられて居る。尙其の外に、南五花街に南演舞場、北の新地に北陽演舞場の各大劇場と、新町廓に婦德會場、堀江廓に堀江演舞場の各小劇場が特種劇場として存在して居る。以上が現在に於ける劇場の分布狀態である。

今少しく遡りて廢滅の跡を辿つて見ると、千日前には金澤座、改良座が南の大火で燒失したが、併し流石は場所柄だけに、其の後繼者が夫々現出して居る。堀江廓内には堀江座と明樂座との大小劇場があつたが、此處には共に其の跡

を絶つた。曾根崎新地には福井座(小)があつたが北の大火に燒失し、尋いで堂島裏町に堂島座(大)が建設せられたが、後廢止して此邊には其の影を沒し去つた。上難波南の町に稻荷文樂座があつたが一度改築して後廢絶した。明治四十三年には北濱に帝國座が大劇場として其の優姿を顯はしたが、大正五年の秋風と共に寂寞を霽した。之と對照すべきは、明治四十四年の暮に饅谷西之町に近松座が小劇場ながら立派に建設せられた、之は惜しくも大正七年の夏空しく其の影を薄めた。其の他には清水谷西の町に岡の座、內久寶寺町に琴平座、內本町橋詰町に第二播重席、九條通一丁目に朝日座、九條に末廣座などの小劇場が各地に散在して居たが、明治三十九年以降大正七年迄に漸次沒落して其跟跡を絶つに至つたのである。

劇場分布の狀態は以前は數の割合に比して、廣く各所に平均して散布せられて居た傾があつたが、敗頽燒失等の都度、時代の推移につれ又交通機關の發達に伴ひ、尙幾分余儀なくせられた点も加はつて、散布の狀態は集合の狀態と變じ來つて、今日に於ては劇場の數に比して、所在區域の數は減少しつゝある傾向を有して居る。

劇場の存在は其の附近の繁榮を招徠すると共に、從來の演劇其の他の興行に於ては、一面亦風敎上其の他大に考慮すべき缺点が多かつた事實に徵しては、其の位置に就いて、深甚なる注意を要するものがある。從つて廣く散在せしむるよりも、寧ろ集合的なるを可とするの議論も確に成立するのである。併し乍ら、其の欠陷弊害は興行の種類、俳優の不良等に起因するので必ずしも劇場又は劇其れ自体の本來の弊害ではないのであることをも考察せなければならぬ。假令交通機關の完備が益々其の度を高むるにもせよ。高尙なる娛樂慰安といふ方面より觀察して各所に相當に散布せらるべきである。而して其の位置に應じて興行の種類程度等に相應の制限を加へ、俳優其他の藝人に相當の責任を歸せしむることとしたならば、其の間に適當なる調

和を求め得ないにも限らないと思ふ。要するに劇場の散布と集合とは兎に角熟考を要すべき問題であるといふことを述べて置く次第である。之も市街地建築物法施行に基き住居商業工業等の各地域の指定に伴ひ相當制限を附せらるることゝ思ふが、尚其の上に一層の留意を肝要とするものであらう。

「四」劇場の興廢

最后に劇場の興廢の跡を少しく辿つて見やうと思ふ。時の流といふ大なる力の作用は總てのものゝ上に及んで、其の盛衰其の偉に驚かるゝ許りであるが、劇場も其の自然の約束に漏れず、新陳代謝し自然の陶汰が行はれて居る。今明治三十四年以降に於ける劇場の燒失及廢止の數を調べて見ると次の樣で、殆んど同數である。

燒失　一五
廢止　一二　計　二七

劇場の規模は漸時大くなる傾向があることは前記の通であり、設備も追々改善せられ來つて衛生上及避難上相當進歩の跡を認め得られるが其の構造は依然として舊來の木造で、堅牢といふ方向からは却て退歩し、舊き劇場は設備は不完全でも堅牢である爲め、改造の機運を沼徠することが遲れ勝である。而して之を強制する偉力は火災であるといはねばならぬ。其間に只二つ煉瓦造であつた帝國座と近松座が共に火災の厄には會はなかつたけれども、終に廢止の運命に陷つたのは實に遺憾であつた。又觀客席の變化は活動寫眞館に在つては全部を倚子式となしたものや一階のみを倚子としたものや又一階の內でも平場丈けに止めて棧敷は座席の儘存して居るものなどがあるが、演劇場の大部分は矢張り座席式である。觀客席に於ける飲食喫煙を禁じたりなどした改革の新しき試みは到底大阪士女の嗜好と一致しなかつた。

興廢の原因を稽へて見ると、所謂天の時、地の利、人の和に歸着せしむることが出來る。即ち社會一般の不景氣風に襲はれては劇場の如きは最も維持に困難を來すもので、比較的理想に

近かつた帝國座、近松座の廢滅の如きは、地の利を得なかつたことが大なる因を爲して居る。觀劇などに就いては豫め日を定めて出て行く人も多少はあるが、大阪人の大部分は矢張り散歩がてらの看板の誘導なども相當の勢力を有つて居る、殊に何といつても道頓堀が娯樂の中心地で、尙大阪は南方に向つて低下して來く運命を荷つてゐるのである。加ふるに興行といふものの經營に就いては、其の道としての人の調和が大なる潜勢力を有して居ることをも逸してはならないのである。而して全体として觀ると新に興された比較的改良せられた劇場が出來ても、舊き劇場と競爭する上に於ては、却つて敗者の地に立つ場合が多い、之は丁度經濟論に於ける惡貨が良貨を驅逐するといふのと同樣の感がある。劇場の改善に就いては達識者の劇場政策を行ふの必要あることを一言して置く。此の一篇を了るに際して左に劇場の變遷を表示する。

劇場變遷調査表

種類	場名	位置	建築(新、改、再)年月日	燒失、廢止年月日備考
《大	涙花座	南、西橙	明治九、二、一	明治三七、二、二九燒失》
△大	朝日座	南、西橙	明治九、七、一	
〔大	堀江座	西、北堀江下通二	明治一二、一二、二八改	大正七、一二、二七廢止〕
《小	明樂座	西、北堀江上通二	明治一五、一、二五	明治三九、一〇、一〇燒失》
◎大	中座	南、西橙	明治一八、一一、二八	
《小	福井座	北、曾根崎新地三	明治二四、四、二九	明治四二、七、三一燒失》
◎大	角座	南、西橙	明治二七、八、八	
◎大	辨天座	南、東橙	同 九、三〇	
△大	天滿座	北、大工	明治二九、一二、二七	
○小	文樂座	東、淡路五	明治三〇、一一、一一寄席特許	明治一八、八、一〇新築

《小	金澤座	南、難波河原一	仝	一一、一二寄席特許	明治四一、三、二七燒失》
《小改	瓦座	南、難波河原一	同	一一、一二寄席特許	明治四二、四、五燒失》
〔小	稻荷文樂座	東、上難波南	同	一一、一一五	明治四三、一〇、二七取毀〕
○小	壽座	北、與力一			
○小	明治座	西、西九條上	明治三二、	三、一二寄席特許	
《大	八千代座	西、花園	同	九、一	
〔小	岡ノ座	東、清水谷西	同	一〇、一〇改	明治三三、
〔小	琴平座	東、內久寶寺二	同	一一、二五寄席特許	
〔小	第二播重席	東、內本町橋詰二	同	一二、二八寄席特許	
〔小	朝日座	西、九條通一	同	一二、二八寄席特許	
◎大	八千代座	西、花園	明治三四、	五、一七再	
○小	戎座	北、西野田草開	同	五、二〇寄席特許	明治三六、
×小	繁榮座	西、九條通二	明治三七、	一、一	
×小	勢廣座	南、難波立葉	明治三七、	七、二三	
〔小	明樂座	西、北堀江上通二	明治四〇、	一〇、二七再	
〔小	末廣座	西、九條	明治四一、	二、二九	
×小	玉造座	東、南玉造	同	九、二七	
〔大	帝國座	東、北濱五	明治四三、	二、八	
特小	婦德會場	西、新町南通二	同	四、八特許	
×小	老松座	北、老松	同	一〇、二二再	
《小	芦邊俱樂部第一號館	南、難波河原一	同	九、二〇	明治四五、
〔小	稻荷文樂座	東、上難波南	同	一〇、二七	明治四五、
◎大	浪花座	南、西橘	同	一一、一五再	
〔大	堂島座	北、堂島裏二	同	一二、二八	

明治四一、	三、二七燒失》	
明治四二、	四、五燒失》	
明治四三、	一〇、二七取毀〕	
明治三四、	一、一八燒失》	
大正 二、	二、二七廢止〕	
明治三九、	九、一三廢止〕	
明治四四、	一二、五廢止〕	
大正 二、	五、三一廢止〕	
明治二八、	二、六新築	
大正 五、	五、五廢止〕	
大正 七、	三、二七廢止〕	
大正 五、	一〇、六廢止〕	
明治四五、	一、一六燒失》	
明治四五、	七、九廢止〕	
大正 五、	五、一八廢止〕	

×小	春日座	北、上福島三	同	一二、二八	
◎大	歌舞伎座	西、九條通一	明治四四、	三、一	
特大	南演舞場	南、難波新地	同	五、六再	
《小	第六愛進館	南、難波河原二	同	七、一七	
×小	御靈倶樂部	東、淡路五	同	九、一一	
×小	福島座	北、上福島中二	同	一〇、六	
《小	第一電氣館	南、難波新地三	同	一二、一八	明治四五、一、一六燒失》
〔小	近松座	南、鰻谷四	同	一二、二八	大正七、八、二〇廢止〕
○小	大橋座	南、惠美須一	明治四五、	七、一	
×小	日本倶樂部	同	同	七、一	
○小	いろは座	同	同	七、一	
○小	朝日劇場	同	同	七、三	
×小	大阪座	北、本庄浮田	同	七、二五	
×小	常盤座	南、難波河原一	大正	元、一〇、五再	
×小	彌生座	同	同	一一、一二再	
〔小	惠美須館	南、惠美須一	同	一一、二〇觀物場變更	大正七、五、八廢止〕
×小	第六愛進館	南、難波河原一	同	一二、一四再	
△大	芦邊劇場	同	同	一二、二〇再	
×小	敷島倶樂部	同	同	一二、二七再	
×小	高千代座	西、九條北通一	大正	二、九、二三觀物場變更	明治四三、八、二〇新築
《小	玉造朝日座	東、中道黑門	同	一二、一三	大正七、三、二一燒失》
×小	住吉館	西、九條北通一	大正	三、一、二八觀物場變更	明治四五、六、二〇新築
《特小	堀江廓演舞場	西、北堀江御池通二	同	三、一五	大正五、六、二七燒失》
△大	蓬萊宮	南、難波新地三	同	六、二九	

特大	北陽演舞場	北、菅根崎新地三	大正	四、	四、一六
○小	清華殿	南、惠美須一	大正	五、	四、二二
×小	第三大和館	北、天神橋筋東一	同		五、二七
特小	堀江演舞場	西、北堀江御池通二	大正	七、	三、一〇再
×小	玉造朝日座	東、中通黒門	同		六、二九再

（備考）表中大小は大小劇場の區別、◎は大劇場の演劇場、○は小劇場の演劇場、△は大劇場の活動寫眞館、×は小劇場の活動寫眞館、◎は燒失、□は廢止、建築年月日欄内の改は改築、再は再築、其他（特許、變更を除く）は新築である、月日は主として竣功の日を本とし、配列の順序も之に基けり、舊き劇場の燒失又は廢止の不明にして調査漏のものあるべし。

追記―最初はも少し詳細に調査して發表し、卑見も充分に吐露する積りで筆を執つたが時恰も年末年頭に際して豫期の半にも達せず深く讀者諸君に謝する次第である。（完）

●●教化機關としての劇●●

一口に教化機關と云つても、甚だ漠然として如何樣にも解釋されるが先づ勸善懲惡を意味するもの、普通教育機關を意味するもの、及び人生の眞の相眞の味を寫せるものにして、反省悟入の媒介となるものを意味するものとの三樣に解釋される。所が最近代に於ては、劇より何れの意味に於ける教化をも全然排除し、劇をして純然劇たらしめんとする運動が諸國に行はれてゐる。問題劇を排斥せよといふ事は可なり喧しく唱へられてゐる。



米國建築視察談（二）

會員　光安梶之助

〔前號掲出〕

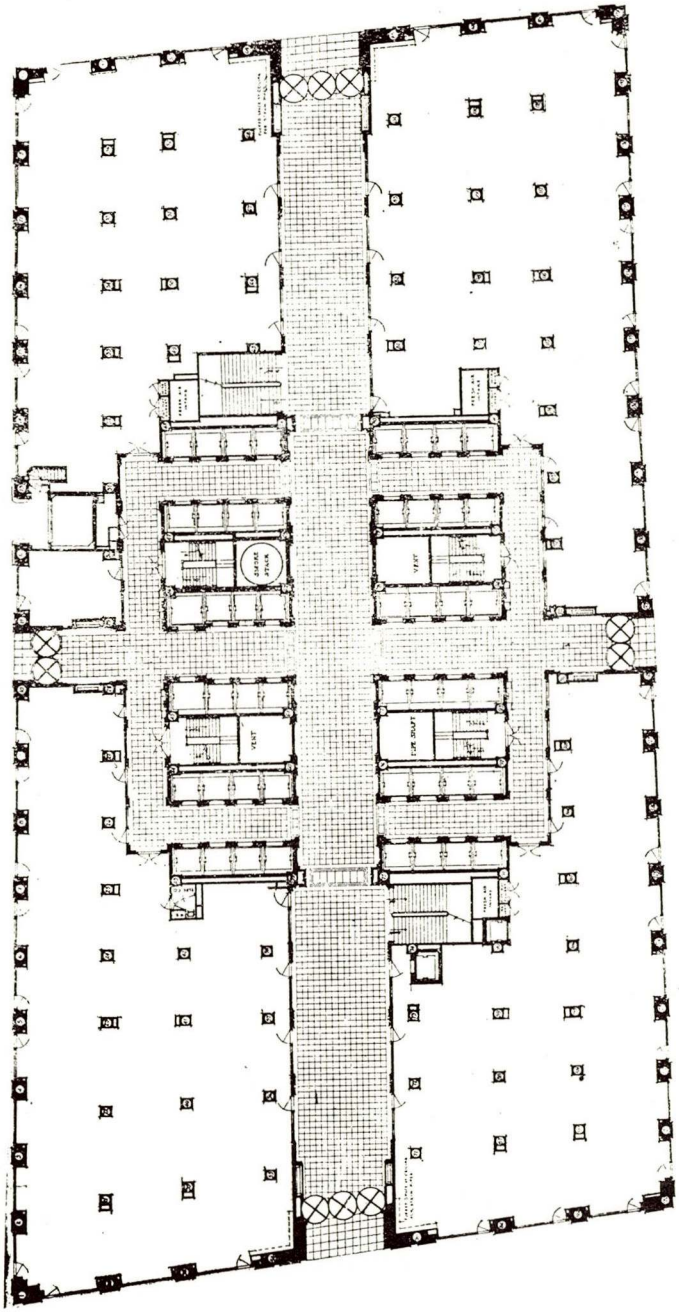
□ニューヨーク市に於ける高層建築のプラン
□ウルウオースビルディング
□ギルバート先生のプランニングの説明
□階の床面より次階の正面迄の高さ
□地階と建物の外廻と二階以上最上階の利用
□地下室の利用
□ライトコート

□□前號三色版の説明□□

前號口繪三色判の説明に『ニューヨーク市』（下町ノースリバーより眺望）と記してありますが、あれは『ニューヨーク市下町』（ノースリバーより眺望）でありまして、チヨット括弧の位置が違っていますから御訂正を願ひます。

圖中左方の一番高い白聖金蓋の建物がウルウオース・ビルディングでありまして、脊面及び左側面を見るのであります其のすぐ左方の高屋が市廳舍の正面でありまして、稍々中央部の圓頂塔が御承知のシンガー・ビルディングの脊面であります、其の右方白壁のハイビルディングがイクイタブルでありまして正面及び右側面であります、其のすぐ右隣に見ゆるピラミッド形の屋根のがバンカーストラストの左側面であります。

前號に米國に於ける事務所の建築のプランニングのキーとして、ギルバード先生の説明をお話致しまして、尚ほ、御參考の爲めウルウオース、バンカーストラスト、イクイタブル、とシカゴのフォルストナシヨナルバンクのプランをお目に掛けると申上げましたが、紙面の都合上イクイタブル、は二月號即ち本號に廻さるゝことになりまして、而かも其の事がことはつてありませんし、且つ掲載されました前記三建築平



「イクイタブル・ビルディング」第一階

「イクイタブル・ビルディング」第三階

面圖の解說が要領を得ないことになつていますし更にまた、紙面の都合でしようが圖が大分ちいさく縮寫されていますので明瞭でないのは遺憾に存じます。

之等の平面圖につきまして極々大略の說明を致しますと、前號四十五ページの次項の上段はバンカーストラストの平面圖でありまして、左方は第一階右方は第二階、其の下段右方は第十六階左方は第二十一階であります。大きさは約十六間方で　りまして地下室はＡＢＣＤと四層地上は三十九層であります、之れが二ケ年餘で竣工致しております。

正面中央部に設けられたる入口を入り十段餘の階段を上りますと四半目地を入れた床の客溜にはいります、此の客溜の二方は銀行營業室でありまして、上下階への交通路は曲折階段一ケ所と銀行專用のエレヴエーターが三箇あります

地下二層及び第一階より第三階までは銀行で使用致しておりましてそれ以外は殆ど全部貸事務室であります、正面左端の入口が貸事務所の入口でありましてこゝをはいりますとエレヴエーターが十一箇並んでおります、仝じページの下段右方がその十六階仝左方が二十一階の平面圖であります。

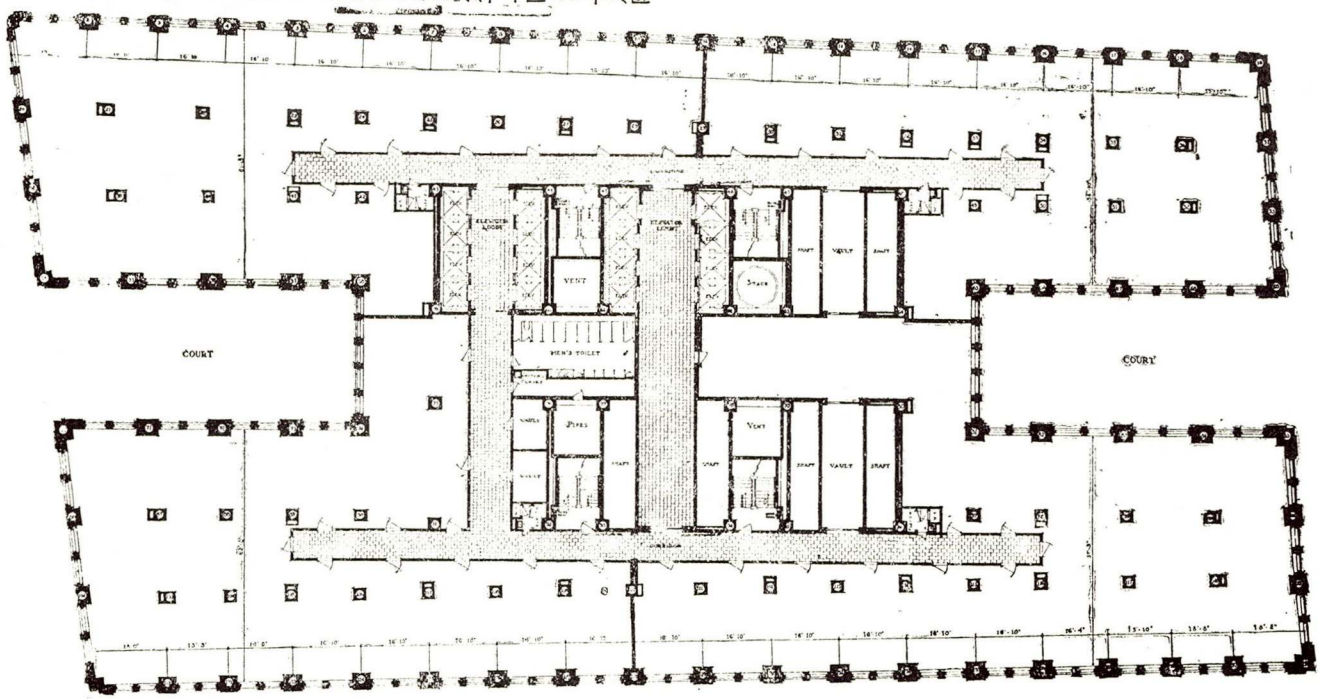
中段の平面圖はウルウオース・ビルディングですが、あまり圖面が小さいですから說明は省きます。

その次のページの平面圖はシカゴのフォルストナショナルバンクでありまして、下段は第四階より第七階まで上段は第八階より第十七階までのティピカル・プランでありまして、廊下、エレヴエーター、便所等の仕切壁で確定的なる間仕切壁丈しかありませんが、その次のページには貸事務所各室の間仕切壁を設けた第九階の平面圖があります。

第一二三階等は銀行でありまして此處には其平面圖がありませんが、ディアボン街が正面で東向であります、正面入口をはいりますと左右にエレヴエーターが五箇づゝ並んでおりまして眞正面にはナショナルバンクへ上がる大階段が

「イクイタブル・ビルディング」第七階より十階

「ヒイクタアル・ビルディング」第十一階より十八階



あります、第九階平面圖に示してあります通りエレヴエーターの後方に、階段、便所、ヂヤニタース・クローゼットがあり此の交通便利の箇所に大概メールシユートが設備されます、南側の西端にモンロー・ストリートよりの入口がありまして、こゝにもエレヴエーターと階段があります、此の建物の窓は、三連窓でありますが、種々異なる間仕切壁の設具合を見ることができます、室内で廊下側に三尺角位と思はるゝ極小さな仕切内に圓形の畫かれてありますのは洗面器でありまして、略全形全大の仕切に開戸だけ取付けありますのは、外套などを掛ける所であります、裏側即ち西側の長い室は理髪室であります、これは各階にある譯ではありません。

本號に掲載のニューヨークのイクイタブルビルデイングはいづれもおなじ様な圖面ですが、僅かづつの相違がまた參考になる点がありますので多數掲載することに致しました。

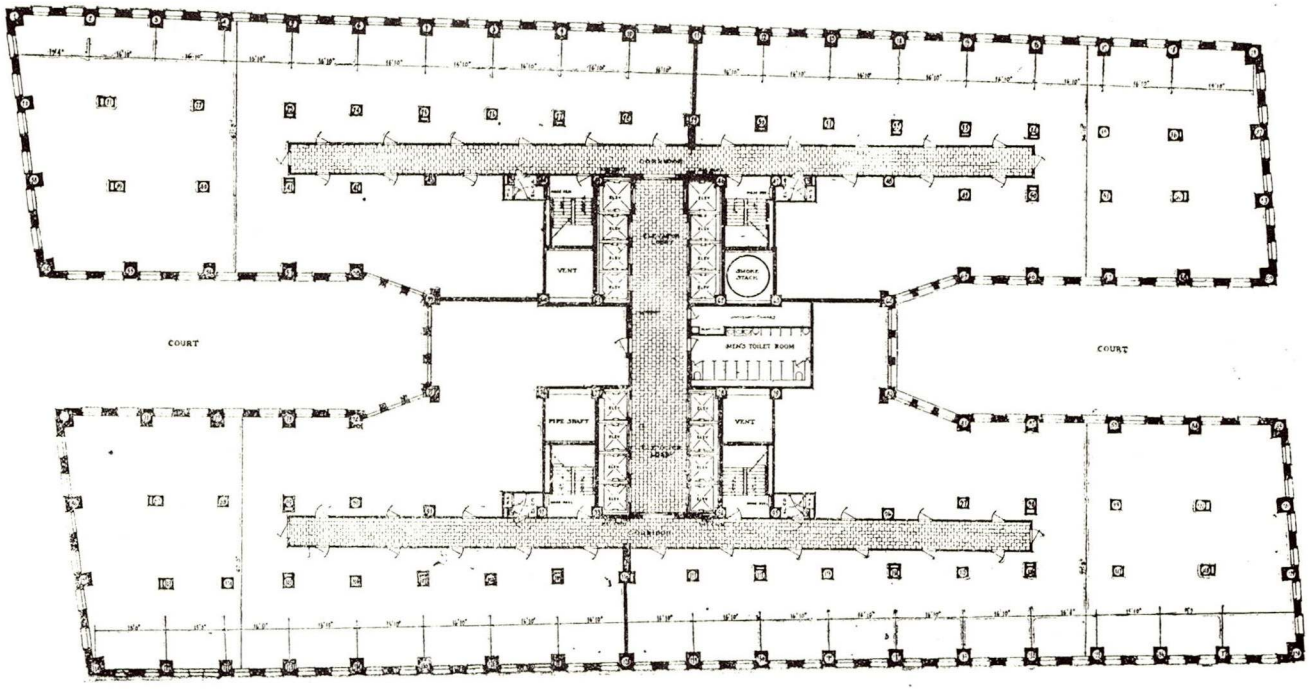
此の建物は西側が正面でありまして、ブロードウエーに面しております、ブロードウエーよりの人の出入が最も多くムりまして裏側のナッソー街両横町といふ順序になります、出入口よりエレヴエーターまでの兩側には色々な小賣店が列んでいまして菓子店や輕便ランチなどもあります、中央部は、廊下、エレヴエーター階段便所等で占めて居ります、エレヴエーターの數は四十八箇でありまして之れが一階より最上階まで如何云ふ風に按配されているかは各平面圖を遂次御覽になれば大概見當がつきます。

之れで見ますと床面の殆んど半分と思はるゝ位もエレヴエーターや廊下などに費されていまして、仮令それが光線のはいらない價値の少ない場所とは云ひ條、も少しエレヴエーターの數をへらすことはできまいか、隨て廊下もへりはしないだろうかと考へますが、間借人の大ていは業務の發展と共に使用人が增加するので部屋一ぱいはいれるだけ極度につめ込みますので、エレヴエーターのコムこと一通りでなく迚も之れを減ずるなど思いもよらぬ事であります、此点は面積の大きな建物は兎に角割合に小面積の

「イクイタブル・ビルディング」第十九階より廿四階

「イクイタブル・ビルディング」第廿八階

「イクイタブル・ビルディング」第廿五階



建物で高さの高い建物は最初プランニングの際後日の工夫をしておかないと後に至りにつちもさつちもかないことになります。

第二階以上　平面圖で御覽の通り中央部を除き床面を四つに大區劃してありまして、此の箇所に於て廊下をも防火引戸で仕切り得る樣になつております、廊下より階段室やエレヴエーターロッビーなどへの入口にも全樣の防火戸で閉め得る樣に致してあります、前記の四つの大區劃壁以外の間仕切壁は床面を所要の大きさに任意仕切るのであります、此の間仕切壁の用材はチヨット前にも申しました通りハロータイルを用ゆることが最も便利であります。

圖中室内獨立柱のなかを圓形に塗殘しあるのは各柱の番號を記入する爲めで他に理由はありませんが、其の長方形なる柱は前記圓形以外短邊の方を方形に塗殘しあるのはパイピングなどの爲めのスペースであります。

便所で便器の取付く方の仕切は建物の壁との間に一尺五寸乃至二尺位をプラミングスペースとして受けまして、此のかくれた場所に鉛管を露出して布設いたしますのでパイプの修繕など至極便利であります、そして此のスペースへの入口には開戸を仕合せまして平素錠をかけてあります、これはイクイタブルのみならず多くの建物がかろゆう樣にしてあります、男子便所と婦人便所とは室の入口が異なるのみならず全然其の設置の場所を異にいたしております。

以上極々大体の事でありますがプランニングにつきましてはこれだけに致しておきます。

═郷　思═

○

野も山も町も林もひといろに
　むらさきがすみ日くるゝころ
（ニューヨークヴアンコートランドパークにて）

○

ふるさとのたより戀ひし文こひし
　窓うつ雨のおとはかにかく
（ニューヨーク宿舍にて）

K　M　生



子供本位の住宅（下）

向井章

前號所載

- ●心理的方面からの觀察
- ●經濟的に膨脹し行く大阪
- ●近郊へ逃げ行く都人士
- ●接續町村の人口增加に伴はざる經濟狀態
- ●接續町村は爾く衛生的にして經濟的なるか

（二）

斯く觀察して來ると、郊外生活就中接續町村に居住するといふ事は必ずしも衛生的でもなければ又必ずしも經濟的と稱する事が出來ぬのであるが、而も尙ほ开所には何等かの利益が無くばならぬので、私は求めて之れを心理的方面に得た。

氣分の轉換！。

卽ちこれである。卒直にいはゞ大阪の地は働く所であつて決して休養すべき所でない。朝から晩まで晩から朝まで、終日終夜營々として稼ぎ働く所であつて开所には更に休養すべき場所と時間とを有して居らぬ。斯の如くして吾々は郊外に適當な休養場を欲求するのである。

一般會社銀行は素より普通商家にあつても、中流な小賣商店を除いては其執務が次第に時間的となつて來て、その時間外は全く休養に充てられて居るかの如き外觀を呈しつゝある現狀に對して、私が敢て大阪市內を目して終日終夜稼ぎ働く所であると稱するのは頗る奇怪なやうではあるが、併し眞に大阪市內の實情を洞察したならば恐らくは誰もが之れを否定する事は出來まいと思ふほど爾く大阪の地は繁忙に出來て居

る。試みに午後の九時を期して北船場の町から町を歩いて見玉へ、夜の幕は深く大厦高屋を掩ふて森々たる夜氣人に迫り、今、眞夜半の、人みなは平和の眠りに耽つて居るらしく思はれるのであるが、一度去つて南陽戎橋上に立つと景色一變觀樂の幕今し開いて右往左來する人幾萬恰も夜に目ざめた如く活潑々地、世界は今漸く活動の第一歩を始めたかの觀がある。而してそれ等の最大多數は實に死のやうな夜の町から脫け出して來た人々である。

彼等を華客として劇場に寄席に靑樓に料亭に働きつゝある人等は云はずもあれ、幷所に集ふ多數に向つても、都會的な强烈な刺戟はヒシ〳〵と加はりつゝある事を考へずや虛榮をそゝり飽滿をそゝり、囊裡を探つて得る所の獲んとする所に比して及ばざるもの遙かに多きを歎ぜざる者果して幾人ぞ。而して更に雜閙の巷に於ける自動車の疾驅と掏摸子の活躍とは佇立の間なほ意を安んずる能はざるが如き、これが眞の休養であり得やうか。此等の光景を私の立場から云はしむれば、それは決して休養では無くして、寧ろ或意味に於ての活動である。率直に云へば彼等は終日の疲勞を强烈な刺戟によつて醫せんとして居るのであるが何ぞ知らん此等の刺戟は疲勞せる彼等を痲痺せしむる以外、竟に何の効果も無くして、更に一層の疲勞と緊張とを加へ來り、休養の結果から來る安靜の代りに頗る敏感な神經衰弱者たらしめるに終るのみである。

斯の如くして都會は到底休養を求める所ではない。單言すると大阪には娛樂はあるが休養はない。而して其の娛樂なるものも頗る低級な而して徒らに强烈な刺戟を與へる以外、竟に何等の慰安をも齎來するものでない。煩悶懊惱の際酒を呷つて自ら慰め得んとするの徒輩、醒め來つて呆然自失する無くんば至幸々々。

(三)

更に之れを子供の方面から觀察して見やう。

心理的にいはゝ子供の生命は遺傳と環境とで

ある。ダルヴインの進化論や、ラマルク用不用説にも眞理はあらうけれども、グレゴーア、メンデルによつて遺傳の法則が發見されて以來、總ての人類は遺傳の前に全く何の權威も無くなつたそうだ。而して氣の早い連中は之れを基礎として人種の改善を策し、ユーゼニックスは最早やダリヤや錦魚の時代を超越して吾々人間に及ぼして來たのである。私は今こゝで遺傳學や優生學を論じやうとするのでは無い。(之れに關する私見は拙著「健康と長壽」に述べて置いた參酌に資せらるれば幸甚)併し都會に於ける肉体的及び精神的刺戟が生殖細胞に影響を與へることによつて子孫に惡遺傳を及ぼす事は爭ふ可らざる事實あり、酒客若くはヒステリーから精神低格者が生れるといふ事を別にしても、都會の子供が田舍の子供に比して總体に敏感であつて何處と無く落つきのないといふが如きも確かに都會生活から來た遺傳であると考へられる點がある。而已ならず環境の刺戟と影響とは此等の子供をして更に一層敏感に而して落つきの無い者たらしめやうとして居るので、一例をあげると電車、自動車、人力車等の頻繁な運轉と交通とはその危險を避けるべく子供に向つて過大な注意を拂はしめばならぬ事や、接客上に起つて來る種々な駈引の傍聽や、長時間に亘る活動寫眞の觀覽や、其他の刺戟が、さなきだに敏感なるべき遺傳性を有せる子供に對して、如何に有害であるべきかは私の說明を俟つまでもない所であらう。

更に都會に於ける子供の遊戲は多くの場合に於て子供らしからん事を求めるよりは寧ろ反對に大人らしからん事を强ゐる傾きがある、漫然遊戲といへば何でも無いやうであるが。之れを子供の立場からいへば寧ろ子供の大切な仕事であつて、決して大人が考へて居るやうな單純な無價値なものではない。而も大人の大多數は常に自己の立場から子供の遊戲を見やうとするために、それが全く無意味な無價値なものとしか見ねぬのであつて、斯の如きは全く觀察の立場を誤つて居る結果である。卽ち子供が小石を集

めたり蜻蛉をとつたりする事は子供として有意味であり有價値であるが、之れを大人の立場から觀れば無意味無價値となる譯で決して正當な觀察ではない。

之れを大人に就て觀察しても同樣で、狩獵を爲し、圍碁を好み、撞球を嗜む者は、常に之れを遊戲として取扱ふ代りに自己の大事な仕事の如く考へて——少くとも第三者には爾く映ずるまでに熱中して全く自己を忘れ去る如きことも稀れでない。子供の遊戲に於けるも亦之れと選ぶ所はないので、彼等は遊戲を生命としてその中に同化するのである。

然るに都會に於ける、遊戲はそれが餘りに子供らしからぬために、終に子供の天性を傷ける事が少なくない。商家の子供が商ひ遊びをするのがそれである。遊廓の子供がお客さんごとをするのが、それである。而してその結果は不知不識の間に子供をして虛僞に馴れしめ早期性態の危險を招致する。否な當にそればかりでなく父母をして子供本來の適材を看取するの機會を逸して竟に凡庸に終らしめる場合が甚だ多いに至つては、不自然な不合理な遊戲から齎らす害毒の尠少でない事を思はねばならぬ。

（四）

問題が大分多岐に亘つて來た、さらば私は結論に急ぐ事としやう。

都會殊に大阪の如き經濟都市は徹頭徹尾働くべき所であつて休養の場所ではない。從つて郊外生活のためには衛生と經濟を考へると同時に「休養」といふ事を條件に加へて置かねばならぬ。而もそれのみでは決して完全ではないので是非とも「子供」といふ事を念頭から放してはならない。

若し吾々が單に休養するといふだけのものならば、四圍の狀況や室取の工合なども或程度までは忍び得られるけれども、子供が常に環境から支配されるものである以上、先づ以て環境に就て多大の注意を拂ふ必要がある。

次に家屋の構造に就ては自己が資を投じて建

築しない限り、到底希望に合致すべきものではないが、併し郊外生活者の多數が其希望に於て一致點を有して居たならば、供給者の側にあつても何時しかそれを標準とするやうになるものだ、勿論その實現が何時の事であるかは豫斷の限りではないが、兎も角もその實現の可能性を有して居ることは考へ得られるので、偖その要求はといへば家屋の適當な方面に子供のための部屋を設ける事、而して仮令一坪二坪の庭先でも、それを大人の手から解放して自由に子供の利用に委せ得るやうにする事で、子供のために危險であるべき石燈籠とか所謂風流味を帶びた捨石などは寧ろ無用の長物であり、之れあるがために子供に危害を加へ、若くは子供が叱責される場合が少なくない。

　從來の慣習からいへば日本の住宅には不時の來客のために特別な客室を設け、而して其客の賞賛に預からんがために庭園に多少の工風を凝らす事となつて居るが、斯の如く不時の來客のために待設ける事に厚くして日夕开所に起居し將來人となつて社會に立つべき子供のために何の備へる所がないのみならず、多くの場合に於て其客室と庭園とは頑是ない子供のために叱責の材料となるばかりである。世にこんな不條理な事があり得やうか。

　若し幸に客のための部屋と庭園とを準備し得られる程ならば、希くは子供のためにも部屋と庭園とを提供せられたい。不幸にしてそれが許されないならば、不時の客のためには書齋をあてゝも可いではないか、而して子供のためには是非子供の部屋と庭園とを與へて貰ひたい。而して子供をして开所で自由に彼等の仕事である遊戯に耽らしめよ、子供の發達と子供の智能とは實に开所から發せられるのである。

古家のひづみ直しぬ

兎角して

蕪村



京都古建築觀

（補遺の一）

特別賛助員　伊藤清造

前々號まで拾有五回に亘りて京都の古建築に對する吾人の卑見を述べた、而して、餘りに回數を重ぬるの多き爲客年の本誌最終號を以て一先づ打ち切ることにした、併し乍ら、其結尾見すして稿を畢るは奈何にも物足らぬ感なきを得ない、仍つて、本號より更に両三回に亘りて掲ぐることとした。

第參章　結論

一

吾人が通觀した京都の古建築は總じて表現に富んでゐるこれは吾人が比較的この京都古建築に接するの機會が多いからであるかも知れない勿論吾人は法隆寺尊殿の前に立つて美しいといふ賞讃の聲以外に天平の靈氣の何物かに觸れるの概がある、又新藥師寺の本堂の前に佇んで吾人は千年以前の人の思ひがするのであるが切實な點に關して京都の建築物程表現に富んだものは大和には少ないだらうと思ふこれは京都の建築は一般に女性的なのに起因してゐるのでなからうか大体の表現に注意して大ざつぱにやつてのけたと云ふ推古朝式の手法は大和美術の一般的特徴であるように思はれるこの點に關しては京都美術は一般にこせこせした點が多いように思はれるのである併しながら吾人は大和山城に散在した古美術の數種を通覽して共通的に考へることは吾人の先祖が嘗て具有した審美思想のいたく尊大なるのであるあの河内や攝津から掘り出される土器や土偶が語つてゐる幼稚な審美

思想がいかに支那朝鮮から輸入された美術によつて醇化されよく今日見る所の偉大なる具象美を遺したであらう古いものは好いといつた尚古主義は實際上合理的の言であるかも知れない而もその遺された數々が今日所謂藝術的價値の幾多も存し現今の作家をしてさへも遠く及ばないといはれる法華堂の梵天や法隆寺建築やも大成したのである、京者の古建築が表現の豊富を以つて誇つた一面には尊ぶべき藝術的生命の多くを宿してゐるのである鳳凰堂の設計者に天才を謳ひ醍醐寺の五重塔婆の作家に神伎を賞するもの多くその藝術家としての天才神伎であつて工匠としての天才鬼抜ではないのである常に藝術家と稱してるの凡作をなすの人よりは工匠として彼の如き大建築を設計するの人を吾人は不出世の天才と謳はんとするのである吾人は常に和城の建築を藝術的批判の下に見樣としてゐる本編一巻はこれを以て其眼目としてゐるのであるけれ共不幸にして思つた數の半だも爲すことが出來なかつた今京都古建築の主なるものを時代の順序として列記し其遺漏した分の菩提を弔つておこう本稿に論じた建築も勿論列記しこれに星印を附しておくことゝした

一、藤原時代

○醍醐寺五重塔　天暦五年
○往生極樂院本堂　寛和元年
○淨瑠璃寺本堂　永承二年
○同　三重塔　永承七年
○平寺院鳳凰堂
○宇治上神社本殿
○法界寺阿彌陀堂　保安五年
○醍醐寺藥師堂
○廣隆寺講堂

二、鎌倉時代

○醍醐寺經藏　建久六年
○海住山寺五重塔　建保二年
○仝　文球堂　文永三年
○蓮華王院本堂
○萬壽寺愛染堂
○宇治上神社拜殿

○法界寺藥師堂
○桂宮院八角堂
○東福寺月下門
○東福寺東司
○愛宕念佛寺本堂
大報恩寺本堂
建仁寺勅使門
岩船寺三重塔
金胎寺多寶塔
○智恩院勢至堂

三、足利時代

○六波羅密寺本堂
○東福寺三門
○萬壽寺鐘樓
○寶塔寺多寶塔
○同　表門
○鹿苑寺金閣
慈照寺銀閣
東求堂
妙喜庵書院

嘉貞二年（傳に從ふ）

貞應二年

神護寺大師堂
承元年中

貞治二年

應永四年
文明年中
文明年中

一体寺本堂

稻荷神社本殿
八坂神社龍神門
東寺大師堂

康曆二年

四、織豐時代（慶長二十年までとす）

○本願寺飛雲閣
○同　書院
○同　唐門
○同能舞臺二棟
同　樓鐘
同　玄關虎の門
○豐國神社唐門
○高臺寺開山堂
○同　靈屋
○同　表門
○三寶院書院
○同　唐門
○吉田神社大元宮
○南禪寺金地院方丈
南禪寺方丈
相國寺本堂

○法觀寺五重塔

慶長十年
同　年

慶長十一年
慶長四年
慶長六年

慶長十年



新聞記者として見た名士の邸（一）

讀賣新聞記者　梅谷孫吾

私共は、元來が忙しい仕事を有つて先方を訪ねて行く場合が多いので、ゆつくりと落着いて其邸宅の、建築なり、庭園なり、調度なりを見て居る事は却々出來ないのではあるけれども直覺的に、非常に良い感じを與へる邸と、妙に斯う親しみ難いと云ふやうな感じを與へる處とがある

私共の樣に、他人の邸宅を訪問する事に就ては、如何に大きな感銘や直覺を與へるであらうか此點はいろ〳〵な處へいろ〳〵な面白い結果を齎して行つてゐる事を當然想像することが出來るのである。

勿論、これは邸宅が立派とか、むさくるしいとか宏大とか狹少とか云ふ意味では無いのである

＝大隈候の早稻田御殿＝

一、工夫して欲しいベルの釦

私が大隈侯邸、例の早稲田御殿へ初めて行つたのは、何んでも五月か六月頃で、庭の綠が非常に生々として美しかつたと記憶して居る。

玄關は大きな木の扉が二枚で澁色をした頑丈相なものだ、引手と蝶交ひが金屬である、外、硝子一つ入つてゐない頗る溫か味の無い扉で、從つて、優し味も無く、懷し味も無く、その上石壇が非常に狹く、切詰めて有るので、其處へ立つて、案內のベルを押す時には、何か斯う前面から强く壓迫されたやうな、窮屈な狹苦しい感じがしてならなかつた。

斯うした感じの原因は、石壇が餘り餘裕なく出來てゐるのが、主なるもので有らうが、何れにもせよ鼻つ先きに不透明な木製の扉が突立つてゐるのは餘り良いものでは無いと思ふ。

それから、此時、も一つ感じたるは、それは呼鈴鉛が金屬で有る爲めに、妙な色に變つて居て如何にも殺風景であつた事だ。同じ冷たい色彩ではあるとしても、陶器製の方が、まだしもである、何かしらも少し洒落れた軟かな感じの來る呼鈴の釦は無いものか、私は今でも、誰かを訪問して、ベルを押す度毎にそれを思つて居る

二、實業家の邸宅といふ印象

玄關に入ると、眞正面からずつと眞直ぐな廊下が奥座敷に續いてゐるので、先つき、扉の外で感じた樣なものとは反對に、如何にも斯う延々とした心地がした。

大きな仁王樣が立つてゐたり、廊下への敷物やら何にかで、先づ前總理大臣と云ふ政治家の邸と云ふよりは、どちらかと云へば、實業家の邸宅と云ふ方が適切な印象である。

廊下の左側が硝子戸で、右側が幾室かの應接室に當てられて居る。廊下には、其頃紫檀製の支那椅子が十數脚並べられてあつた。應接室の內側は、壁紙から粧飾から申分のないもので、私はしつかり氣に入つて仕舞つたが、總て支那好みで、書畫から花瓶から置物の具合——如何見ても實業家だ。此室へ澁澤男爵を持つて來らば——と私は呑氣な事を思つたりした。

侯爵の庭園は既に定評ある有名なもので、泉水があつたり、築山があるのは勿論、温室迄も備へて居て、居乍らにして、天然の四季掌中にあるの感じがする。此庭を鍵の手に廊下を廻して大廣間が出來て居るが、此室は恐らく侯爵邸では一番粗末なものであるべく、紙張りの鴨居の上や、床の間の具合、先づ寺院内の檀家溜と云ふ格好だ。通常の園遊會の客は大抵其室を利用するのだが、其室が餘り喜ばれない代りに、障子一枚の外には、四季の風情が格別である。紫宸殿風な庭からの階段や、障子外の廻り廊下が良いと思つた。

＝内田外相の私邸＝

一、人間味のないお住居だ

内田康哉子爵の邸宅は、西大久保あるが、邸内に敷いた玉川砂利が、薄暗く見わる程に色々な木が茂り合つて植わられて居る。

幽邃といふのか寂寞といふのか、私は其時分の新聞に「古寺のやうだ」と書いたやうに記憶するか、先づ、外務大臣といふやうな人の住むには、餘りに其仕事と掛け放れて居るやうな心地のされる邸である。

玄關の段に立つて、粗末な塗りの惡るい扉の大きな硝子越しに見ると正面に左から右へ大きな梯子段が出來てゐて、眞先きの印象がそれから始まつて手擦りのついてゐる有樣やら、廊下に敷物一つ敷いてもゐないのやらで、一寸、人の住宅へ訪ねて來たと云ふやうな感じのしない約り、日曜日の役所とか學校とかへでも來たやうな、拍子抜けのした間の惡るい印象のある處だ。

ちつとも人間味の無い事務所風の建物で、其上ベルの釦の横手へ小さな紙片のぺら〳〵のを張つて「ベルを強く押して下さい」とか何んと書いてあつたが、客に接するには官邸があるといふものゝ、餘りに住居に對して無關心であると私は思つた。

＝仲小路廉氏の邸＝

一、親し味のある玄關の印象

前農相の仲小路さん、閑地に就いてからは庭いぢりに丹精で、玄關前の廣い庭には、色々な花が冬も知らぬげに咲いてゐる、玄關正面から右へ左へ、鉢植物の花を置き並べて、綠やら緋色やら入り交りて本當に美しい感じがする。

麻布の高臺だから、二階からは一帶が見下ろして先づ申分の無い邸宅だ。門を入つて右手の正面が二階建の洋館で、東向きの玄關が何時でも開け放されて居る。

それからすぐに右手が靑葉がくれに廻り椽の日本室で、朝など行くと陽を受けた朝日がきら〳〵と光つて居る。

玄關は頗る親しみのある構で、左手に鏡のついた帽子掛けが置いてあり、一坪許りの石疊だが、海老茶色の絨氈が敷かれ、正面は日本風の衝立で、二階への階段口を隱して有る。直ぐ左手が應接室。

二、故意に光線を殺した工夫

應接室は純西洋式の裝飾で、只一つ文晁の山水が日本味を出してゐるだけだ。東と南に窓があつて、明るい筈なのだが、カーテンがやゝ垂れ加減に絞つてあるので、室の中がどちらかと云へばしんみりと沈んでゐる。

客は玄關からすぐ入つて行くが、主人は南側の右隅から出て來るやうに扉がついて居て、此邊の注意は大隈侯邸などでも、客も主人も同じ扉から出入しねばならぬのに較べて、便利でもあり、工夫もしてあると思つた。

二階の應接室は兼ねて主人の書齋といふ具合で、硝子を張つたテーブルやら硯箱やら書類やらが置いてあるが、此處もまた南の窓から光線を殺して取るやうに、窓掛けを深くしてあつて其間から見ると廣尾方面の景色が大層美しい。

先づ早稻田御殿の如く宏大でも無く、然りとて決して狹いと云ふではなし、粧飾の好みが成金張らず、敷物やら置物やら、何れも人間味が勝つてゐて、極くおだやかな良いお住居であると云はねばなるまい。

次は、大木伯爵邸。寺內伯邸。原敬氏邸



都市と社會施設

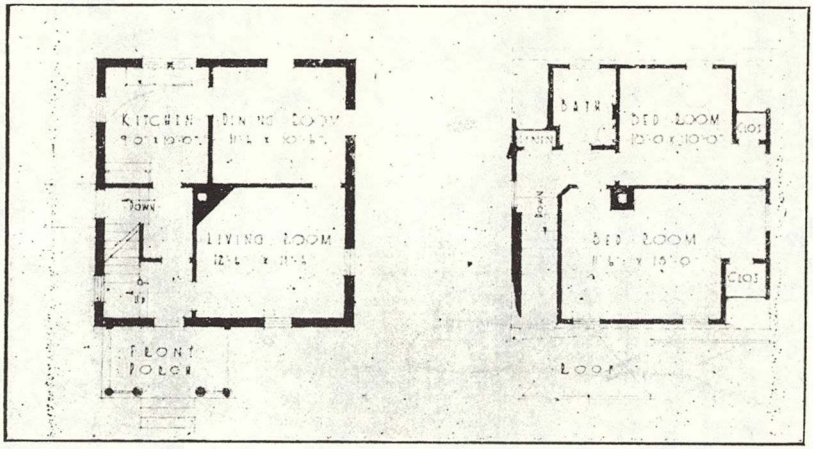
米國に於ける住居經營

シルベスタア、バクスタア氏
――クインシイ州に於ける政府の住宅經營會員――

會員　M　T　生　述抄譯

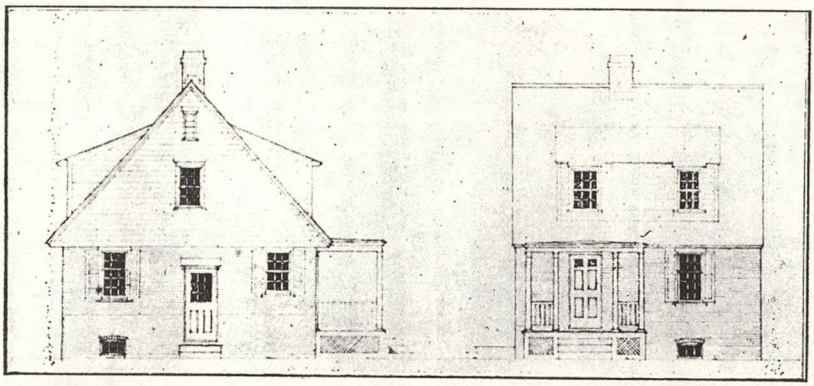
米國各州の當局で、兵器職工の住居についての計畫が、クインシイ州のマサチユセツツ市の職工住宅に施されることなり、主として大工場即ちホウアリヴア造船所の職工等に向つてであつた。此造船所は米國で大分以前から造船所としては第一流と認められ歐州大戰の勃發と同時に職工の大增員を行ひ、クインシイ州の人口を大いに增加したとさゝ云はれてゐる。マサチユセツ市は此クインシイ州でも歷史的由緒ある都市として知られてゐる。

話が横道へ入るが、ついでに書加へて置くのはクインシイ州は合衆國でも古來名門である二家族の故郷で、一つは土地に其名さゝ殘つてゐるクインシイ家と、他はアツムス家であつて、兩家共大統領を出してゐる。グリヲドレイ、ブルヤント氏が、花崗石鐵道を布設したのも此地

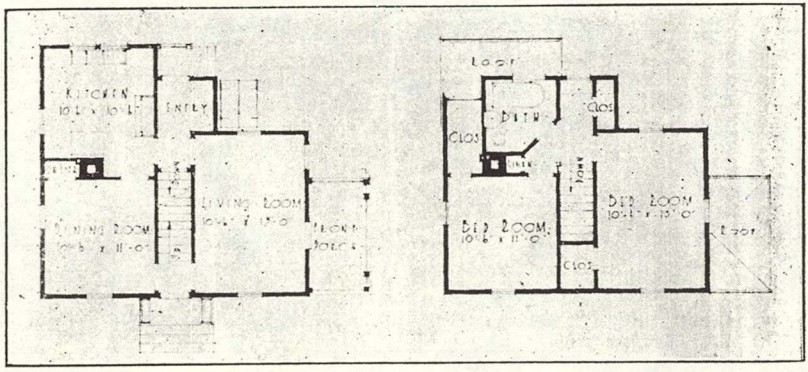


である此話もついでに書加へて置く。

花崗石鐵道と云ふのは、チアレストンのバンカーヒルの記念塔を建造する爲の石をクインシイの石切場から手ポンセット河畔まで運ぶために布設したもので、蒸汽を使用せぬ時のことゝして花崗石を滿載し、水際まで重力で下り阪をすべりおりる、そうして馬にひかせてたぐりもどすと云ふ寸法だつた。ブリアント氏は立派な技術者で鐵道の實施については根本的な發見をしてゐる、鐵道スキツチ、即ポイ

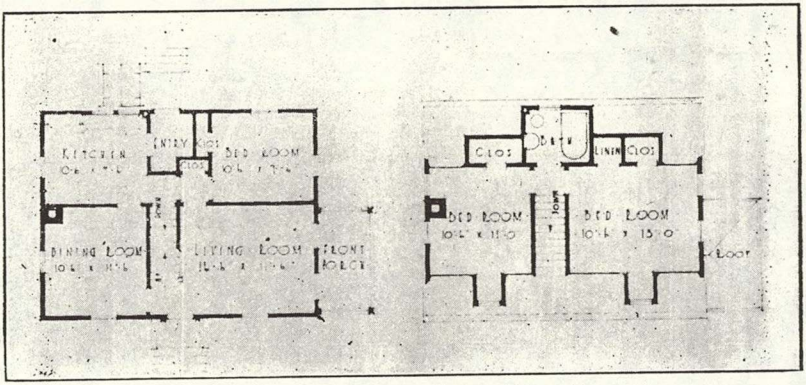


ントも、ピボツトトラックも同氏の發明によるものだグリツドレイジエーブリアント氏は同氏の息である。建築家であつて、名建築家アーサーロージア氏の部下として長くつとめてゐた人である。千八百七十二年のボストン大火後燒跡に建つた新しい事務所建築の大部分は氏の設計によるものであつた。



扨花崗石鐵道はボストンの市民には面白い見物となり、終點に旅館等が出來て之を利用するものも大分あつたらしい。水際へ下された御影石は船でチヤアレストンへと運ばれた。

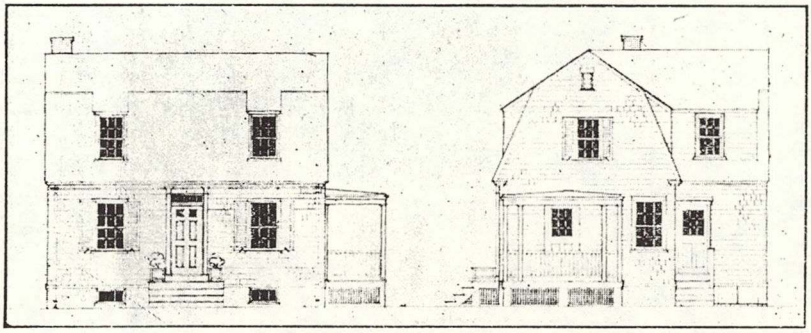
閑話休題として、こんな交通の新局面が開けて來ると同時に電話電鈴の發達其他、最近の發明發見に伴ふて企業の勃興を來

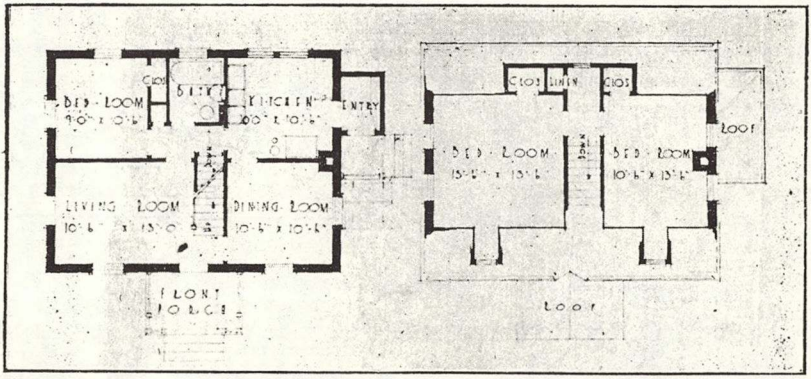


し、引いては造船事業はクインシイ州の大工業となつて來た。ホウアリヴア造船所は合衆國最近式の造船所となり、雇人及其家族の總數四萬人と算せられ、クインシイ及びその近郊に溢れ出してゐる程の有樣である。

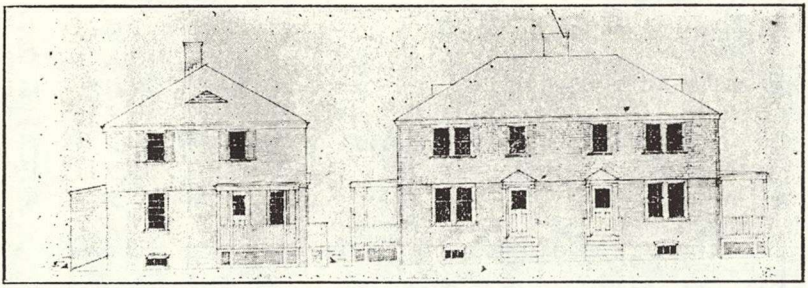
住居問題の研究は地方の發展してゆく交通狀態に關連して考慮さる可き第一の問題である。

ホウアリヴア會社はクインシイに二大工場を有し一つはホウア川一つはスカンタム岬のリバアテイ工場である。後者はネポンセットの河口に跨かりボストン市の對岸に位してゐる。





此リバアテイ工場の數千の職工住宅に關して事新しく住居問題の聲の上らないのも無理ならぬ譯がある、それはボストン市及其附近の交通が非常に便利に



なつてゐる爲に、方々に散在して住居し工場に通勤出來るが爲である。ボストンは川に橋を增し、架路面軌道を延長し又は新設してドウチエスタア地方の便を圖り或は此軌道にトンチルを開鑿し地下線を布いて速に連結せしめ得る樣にしドウチエスタアまでキヤンブリツヂ地下鐵道を延長してゐる。此偉大なる交通便によつて、勞働者はホウアリバア會社のリバアテイ工場とアルデンの北部にある彼等の住宅との間をすら通つてゐる、トンチル、地下鐵道、路面軌道と三度のりかへ、一時間で工場へつく。

成績よく交通制度の發達した地方の有樣が人口の變遷し易い工業地方に如何にもよく適用されてゐるのが面白い。

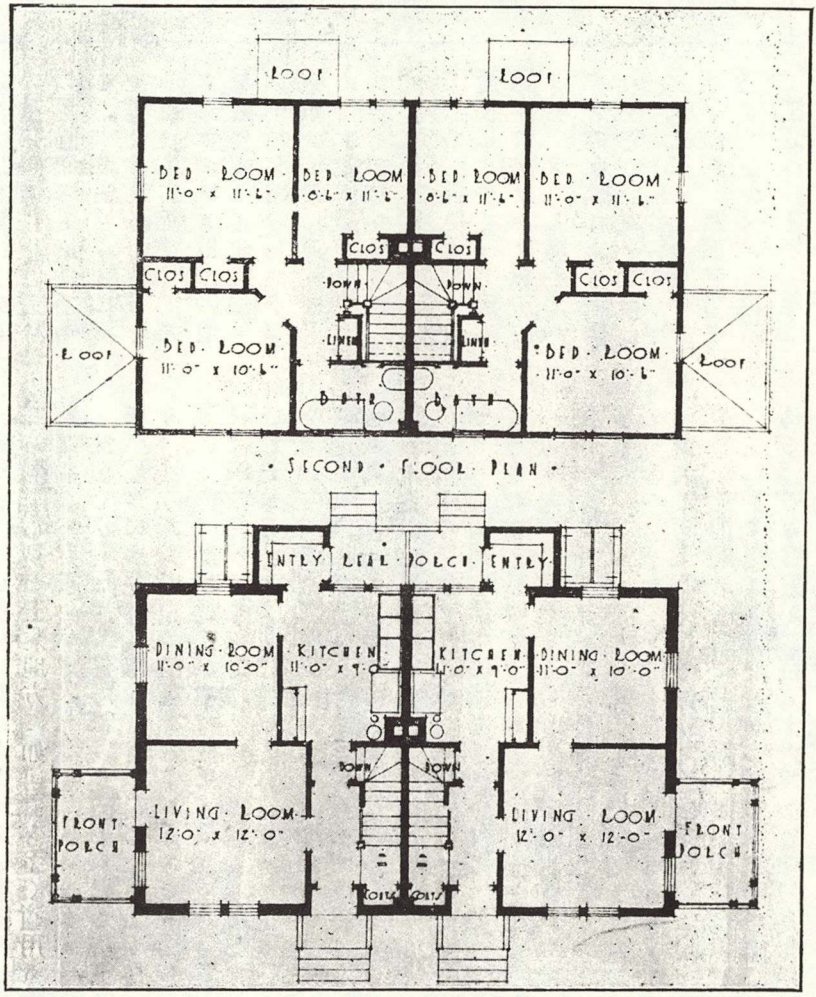
此頃では戰爭後、住居問題も樣子が變つて工場の近傍に摸範的な住居を作るに都合がよくなり、住居者は高級の技能を有するもので俸給も高いもので比較的よい家に住める人間である爲に、家の內外とも相當に氣持のよいものにしたいと云ふことになつて來た。

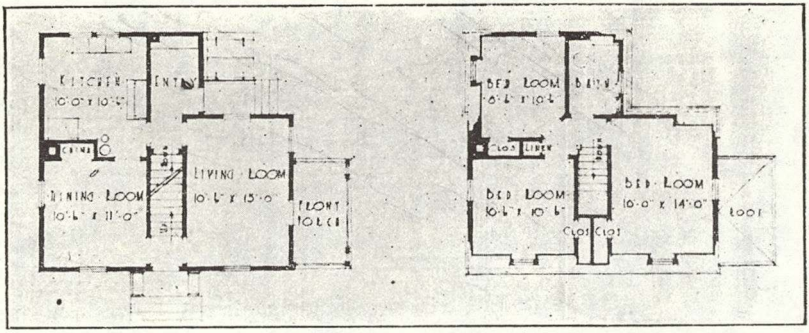
ボストンで有名なメトロポリタンパーク式が發達した爲にブリユー丘とチポンセプト谷とを結ぶクインシイ海岸に沿ふて美しい公園通りを作る計畫さへ出來た。

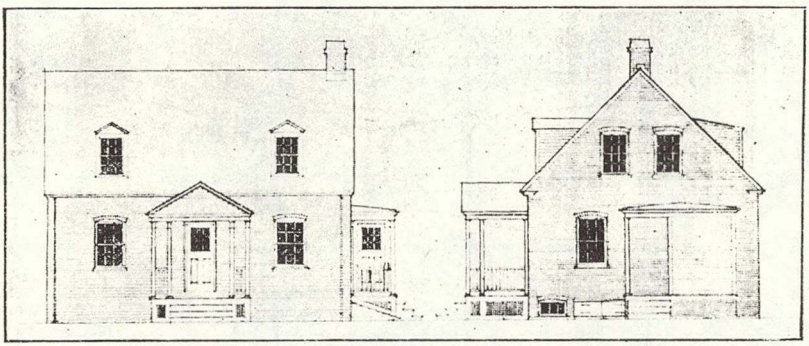
自働車の目まぐるしい交通や。南マサチユセツツへの大通の雜沓の激しさにつれて、勢ひ、こうした美しいゆとりのある街路が望ましくなつて來たのは當然であらう。此が實現されたのは新いオールドコロニー公園通りとしてボストンに、メトロポリタン式によつて築造されたものであつた。クインシイの住居問題の發展するにつれて此等の交通便利な大道の脈に沿ふ地方が特に此問題の恩惠に多く浴することになる。

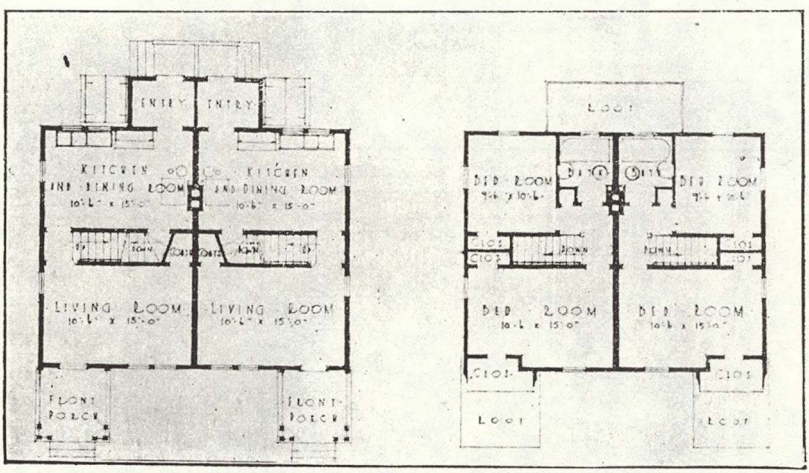
茲に示す圖は中流の人々に適當なうまい家である。こんな家が二百五十六戶ある中、九十戶

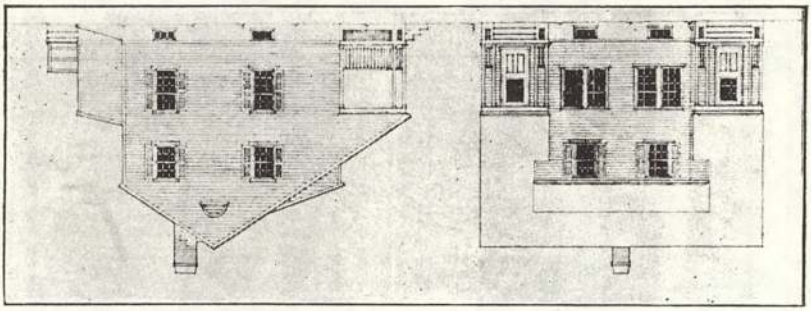
は一軒建、五十七戸は二軒長屋百〇九戸は二家族入れるフラットになつてゐる全体が四百二十二家族が入れる様に配置してある。大概の家は五室或は六室、大家族向のものには八室の家がある。二家族向フラットは四室宛又は五室宛で四室のフラットは仕切自在の室があり、一寸食堂と居間と云ふ風に急に仕切る

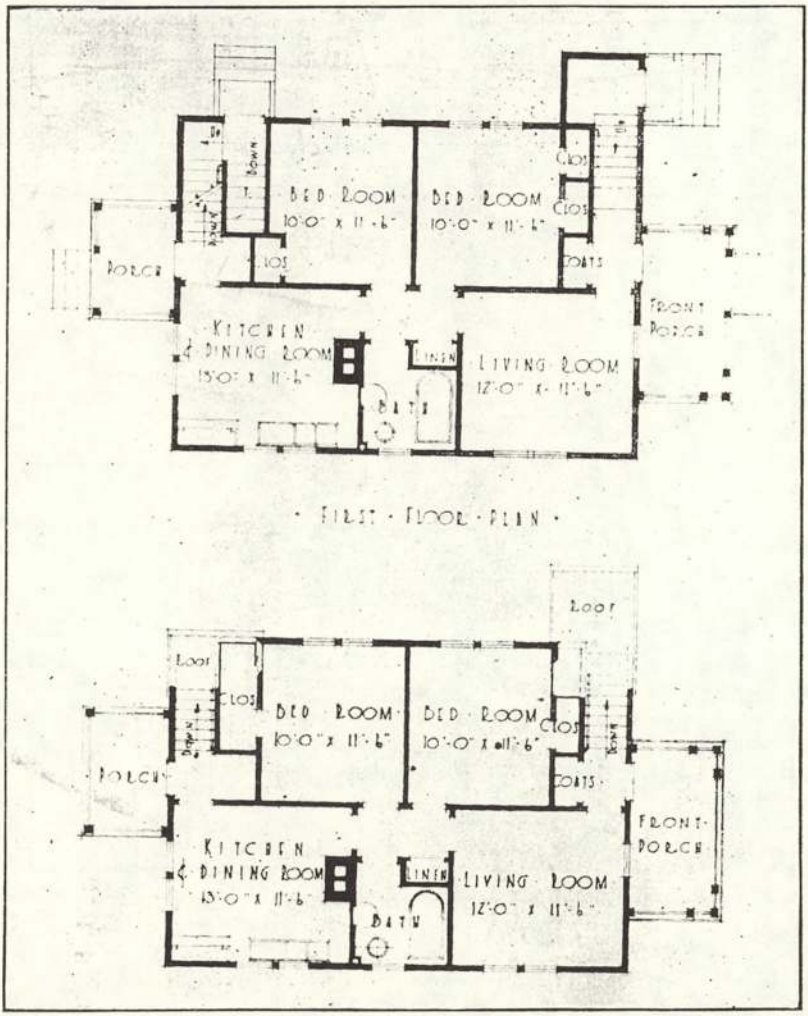



KITCHEN
ENTRY
DINING ROOM
LIVING ROOM
FRONT PORCH
BED ROOM
BATH
CLOS
LINEN
BED ROOM
BED ROOM
CLOS
CLOS
LOOF



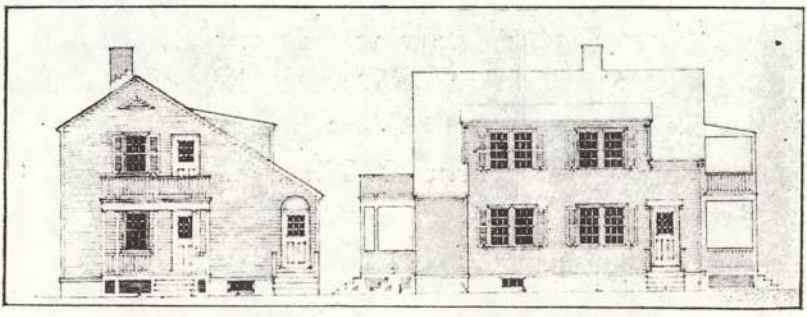

ENTRY
ENTRY
KITCHEN AND DINING ROOM
KITCHEN AND DINING ROOM
LIVING ROOM
LIVING ROOM
FRONT PORCH
FRONT PORCH
LOOF
BED ROOM
BATH
BATH
BED ROOM
CLOS
CLOS
BED ROOM
BED ROOM
CLOS
CLOS
LOOF
LOOF



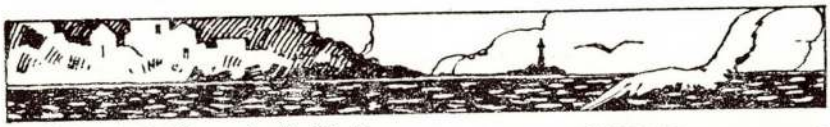

BED ROOM
10'-0" x 11'-6"
BED ROOM
10'-0" x 11'-6"
CLOS
CLOS
CLOS
PORCH
CLOS
COATS
FRONT PORCH
KITCHEN
& DINING ROOM
15'-0" x 11'-6"
LINEN
LIVING ROOM
12'-0" x 11'-6"
BATH
FIRST FLOOR PLAN
Door
Door
BED ROOM
10'-0" x 11'-6"
BED ROOM
10'-0" x 11'-6"
CLOS
CLOS
PORCH
COATS
FRONT PORCH
KITCHEN
& DINING ROOM
15'-0" x 11'-6"
LINEN
LIVING ROOM
12'-0" x 11'-6"
BATH

ことが出來る樣になつてゐる。

區劃は平均五千平方尺で、家は通路から少くとも十五尺後へ控へて建てゝゐる家と家との間隔は最小距離十六尺、しかし大抵は廿尺ある。一つの良い例としては双方の家の各室が一日中何時かしら日光をうけることになつてゐる、殆ど總ての室は二方の壁に窓があつて窓は皆二つ以上である。暖房は



ホットエア、ヒーティングで充分の熱を供給する爲に、特に大きなパイプを使用してゐる。各臺所は二つの洗濯槽があり、冬季中は温湯が常にコイルから流れ出る樣になつてゐるし。夏向には臨時の煮たきが出來る樣にガスのヒータアが置てある、點燈は電氣で、臺所、湯殿、と一つの寢室には別にソケットが付てゐて、自働掃除器や、他に一つ點燈するのに便利である樣になつてゐる。家屋は木骨か煉瓦造で、木骨の家は白か又は淡い灰色のペンキ塗りで窓には綠色の窓かけがゆれてゐる。間取は普通であるが外觀は種々樣々の變化を示してゐてそれも主に、表面の取扱方、即色の調子等や、玄關の形等で大分變つてゐる。此等の家は皆經濟的に構造され、室の高さ等も充分考究されてあるものである。尙最後に此等の家全部は或請負一手で施工されたと云ふことを附加へて述べて置く。





女流の生活觀

日本家屋の長所と美點

實踐女學校長　下田歌子（談）

近頃盛に、外來思想が何うの斯うのと言つて、思想界は勿論、家庭生活の上にも、婦人の實際問題にも、色々動搖が激しいやうであります。それについて我々の住居のことを考へますに、日本の家屋は一般に西洋建築に劣るやうに思はれてゐますが私は必ずしもさうではないかと思ひます。固より西洋の科學的に進歩した方法とは建築の構造なり、材料なり、設備なり、或は耐久性なりに、種々の遜色もありませうが、同時に日本家屋特有の美點もありまして、それは日本人の考案し、且つ進化し來つた獨得の長所で、日本人にはそれでなくてはいけないと思ふことも多いのであります。

先づ、日本の家屋の構造を見ますに、第一に氣のつくのは、何處も彼處も開けつ放しで、少しの秘密といふものが、その間にないことであります。實にこれ、日本の社會家庭が三千來如何に秘密のない打ちくつろいだ、平和な團欒を樂しんだものであつたかを語るのであります。然るに近頃、日本の家屋も西洋式に、もつと外部から密閉されるやうにし、各室も互に內部が窺はれないやうにしなくてはならないとの說も行はれるやうです。尤も、或る場合にはそれも必要でせうが、同時に何故に從來の日本家屋が斯く放任的であつたかといふことを考へて見なくてはなりません。

實際、日本の家の中には錠といふものが少いのです。何時でも、襖や



障子を開けて、どの部屋へでも入られるやうになつて居るのです。秘密の室などいふものは一つもありません。玄關から座敷、寢室、臺所に至るまで突き抜けになつてゐるのです。これは家族に秘密や陰險なるがあつては到底出來ないことなのです。要するに、日本人の心持の竹を割つたやうに清く、疚しからざる事を現はしたものであると思ひます。嘗て或人が、「私の家にはたゞ鍵のないのが自慢です」と云はれたのを聞いて、成るほどと感心したことがありますが、これは實際眞に賞讃すべき特色であると思ひます。そして、日本人の打ち隱しなく圓滿に暮し、しかも公明正大、すこしも邪念のない性格を、最もよく表現してゐる證據であると思ひます。

更にこれを衛生の方面から觀ますのに、近來やかましく唱道せられて居ります「換氣」とか「日光浴」とかいふ點からは、實に此の上のない理想的な構造であります。空氣の流通をよくせねばならぬとか云ふ樣なことには、もう小學校の教育からして、やかましく致すのですが、日本の家屋はそれほど氣にしなくつても、十分空氣の流通するやうに出來て居るのであります。又、日光浴は、今日歐羅巴では最新療法として盛んに行はれて居るさうですが、これは痛い所や弱い處がある人は、其處を日光に當てゝ溫めるのです、ところが、日本の家屋では、態々日光浴などゝ云つて騷ぐまでもなく、晴天でさへあれば日光は必らず樣から座敷へ差込むやうになつて居る次第です。昔し、日本の武士は兜の下が蒸れると云つて、前髮を剃るやうになりました。それで評して、「昔の人は野蠻で馬鹿であつたから、あんな所を剃つたのだ」と冷嘲した時代もあつたのですが、今日では、西洋にも腦が惡い時には頭髮を短かく刈つたり、或は剃つて初めはカーテンを通して日光を當て次ぎには硝子越しに當てまして、最後に直接日光に當てる療法があるさうです。ですから、日本の武士が野蠻と思はれた事は、寧ろ進歩してゐる譯であります。ところがこれと同じことで、空氣がよく流通し、日光のよく當るのが衛生的であるとしますれば、一朝非衛生であると散々非難された日本の家屋は、その實最も衛生的であるかも知れません。

これに比して、一方西洋家屋は何うかと觀ますに、氣候の寒い爲めでもありませうが、防寒の設備は至れり盡せりで、その構造も重なる國では大抵石造か煉瓦造、又は鐵骨鐵筋の造りでありまして、大厦高樓が天を摩してゐる樣は、實に壯麗な次第ださうであります。しかし、斯く壯麗に堅固にするのは、皆それ〳〵の必要があつたからに違ひありません一面に土地がないとか、人口が多いとか云ふこともありませうが、殊に斯く堅固に致しますのは、慥かに强盜や竊盜や殺人や放火や、さういふ物騷な事件が多かつた事を語つてゐるのであります。現に滿洲邊にまゐり



ますと、非常に堅固な家を建てゝ居ります。或る地方に行きますと、周圍の壁の厚さが三尺もあらうといふやうなのを取り圍まして、多くの一族が集つて暮して居るさうです。これは代々の支那の政治が緩む毎に、強盜が横行しますので、それに備へるためであるのです。支那の内地では、午後の三時以後に、旅人の姿を見ることが出來ないといふのが、今日尙ほ左樣であります。それはつまり追ひ剝ぎが出る危險からであります。支那人は自分の財産を守るのに政府の力を恃む事が出來ませんから先づ自分で家を堅牢にして、これを守る必要があるのです。西洋の家の堅牢なのも、やはり同じ理由か何うかは知りませんが、敵と國境を接して居るのですから、日本に比べて彼方は確に物騷であるといふ事だけは明かであります。それについて考へますのは、近頃日本でも富豪の家等に、塀を非常に堅固にするのみならず、その塀の上へ硝子だの釘だのを植ゑて、まるで囚人の居る所のやうにしてゐますのは一つは必要上止むを得ないことかも知れませんが、又自分を侮辱した行爲と思はれぬのでもありません。

私が數年前、ずつと田舍へまゐりました時、それは夏でしたが、何處も彼處も開けつ放しで、雨戸といふものがありません。私は無用心で堪りませんから、戸を閉めてくれと賴みますと、「大丈夫です。こんな家に何が這入るものですか。お客さんの大切なものは、すつかり預つてありますし、他に何も盜られるものはありませんから、御心配には及びません。それに他所の者が入り込んでも直ぐ分りますし村の人は決して盜みなど致しませんから。」との事でしたが、また田舍に行けば、夏分雨戸を鎖さないで安眠される地方が幾らもあります。都會になると、それほど安心も出來ませんが、滿洲あたりに較べますと、それでも眞に天下泰平鼓腹の民といふことが出來るのであります。私共に、斯ういふ家屋に安住して居られることを幸福と思はなくてはなりません。

それから、日本の座敷は疊が敷いてあるので、その下に塵が溜つて非常に不衞生であるといふ事を聞きましたが、然らばその反對の西洋の室をよく見ますと何うでせうか。中等の家には、普通幅の廣い大きな敷物が敷いてあるのです。そして、その上へ常に靴を穿いて上るのですが、勿論さう度々掃除をして、清潔にして置く譯にはまゐりませんから、敷物にはいろ〳〵の汚ない塵や埃が、隨分澤山附着して居るのであります放にその不潔さは、日本の疊などの比ではありません。そこで近來では彼方でも、日本の疊は結構である、よく掃除が出來て、冬は比較的暖かく、夏は涼しいし、なか〳〵重寶なものであると云ひ出して居るそうです。

戰爭前獨逸で見ました最も進歩した某病院でも、上靴と下靴とを別々



各人の天分を充分に發揮するのが生活の意義と存じます

高安道成氏夫人　高安やす子

にするといふ規定になつて居たさうであります。それは幾ら拭つても、外の土を踏んだ靴で歩きますれば、何うしても塵埃が出て病室へもそれが入るからでありませう。斯ういふ事は、實に日本の家屋の方がすつと進歩して居るのであります。要するに西洋で發達した科學といふものには、いろ〳〵と學ぶべきこともありますれど、まだ科學その物が完全でない以上、決して全然信用することは出來ません。それは單に科學のみではありません。思想問題にしても社會制度にしても左樣でありまして兎角、先き走りをしたがる日本の人達は餘程考へなくてはなりません。併し近來は、又々日本家屋が盛に新築されて來たさうですから、誠に結構なことゝ思ひます。

其日其日を、何の變化もなく、ごみごみした家庭の雜務にばかり追はれて居る、私共女の身にとつては、さうした時間の合間合間に些細の餘裕を産み出して、燃ゆるやうな趣味性と優しい感情と育んで、多少なり共、潤のある意味のある生活をいとなみたいふ慾望は、誰もが持つ慾望であらうと思ひます。体力と智力とを標にして、復雜な社會に立つて働く人々を迎へいれた時、其迎へいれた家庭内な何の趣味もなく　何の變化もなく、無味乾燥もなのであつたなら、其生活は、どんなに淋しくみじめなことでありませうさうした場合に、デリケートな感情と、溫い誠心とを多分持つた異性の居ることに依つて、其家庭、其生活の内容はがらりと變つて豊に、色彩のあるものになりませう女と生れたからには何を好んで、男性的な粗野と強暴とを望む必要はありませう女性には、男性のなし得ないあるものがありきす。又男性には女性のなし得ないあるものがあるのですから、各々其天分を充分に發揮するに依つて、人生の意義が生するのではないでせうか、私は

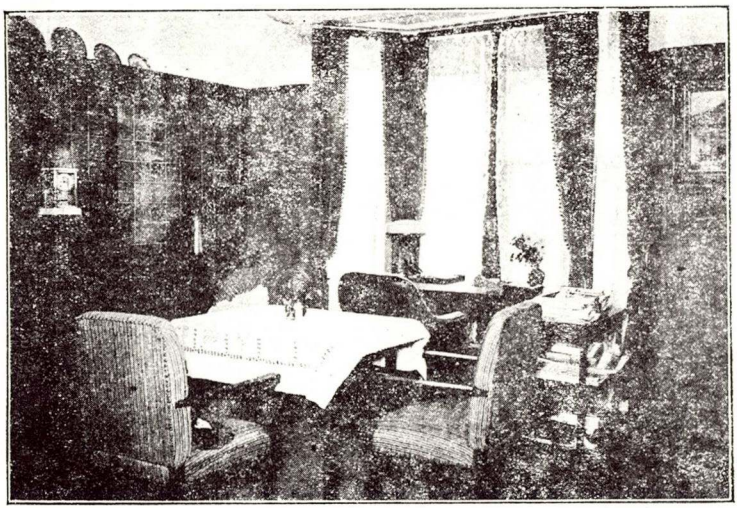




斯う云ふ立場から、女は、家庭の忠實な主婦であり母であると同時に、親切な趣味のお友達でなければならないと思ひます。極端に云へば、毎日運動をしたり、繪を見たり、かいたり、好きな本を讀んだり音樂を聞いたり自分でも唄つたり、そうして趣味の趣くまゝの生活をしたなら、さぞ、いつまでも若く華やかであり得ることであらうと思ひます。併しそんなことは今のやうな時代には出來ないことであります。復雜な社會の中に、繁雜な家庭を持つて其中に暮して居るのですから、それに應じた仕事が、可成澤山あります。殊に日本は古い歷史を持つて、居る國だけに昔からの習慣が今も尙保存されて居て、さうした事の意味である事を痛切に感じながらもそれを思ひ切つて捨てる事も出來ず、又一方には時勢に應じた事もして行かなければならないと云ふ調子で、生活が二重にも三重にもなつて參ります。併し斯ういふ時に、二重生活を避けますと、ヨリ以上の不便と煩しさを感じます。たとへば着物は一切日本服、住居も一切日本風にといふことになりますと、家にばかり居るものはよいとして、も外に出て働く人の不便さはどんなでありませう。それを考へますと、復雜だの不經濟だのとこぼしても、やはり二重生活に甘んじなければならないと思ひます。將に住宅は、和洋兩方を用ひる必要は充分にあると思ひます。洋風と云つて全然洋風にしても結局は疊の敷いた部室を作ることになります。疊の上で生れて疊の上



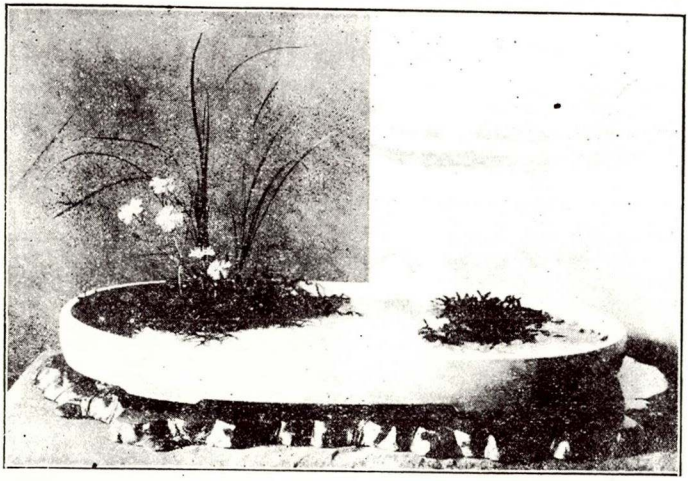
で育つて來た身には、どうも疊の上がなつかしうございます。私も此家を新築いたします時、一間のこと疊を廢してとも思ひましたが、それは實行は出來ませんでした。一部の方々には、疊は不潔だとか不衛生だとかいふ說もあるやうですが、私はさうばかりとも思ひません、狹い部室を割合に便利よく使へて重寶な場合もあります、唯、靜に考へることをしたり、好きな繪でもかく時には、障子一枚、襖一重で仕切つた日本坐敷よりは、堅く戶をしめて內と外とを嚴重に區別した洋風の方がすつと宜しいと思ひます。襖一重の隣坐敷で話をして居る其話聲を聞いたり前の廊下を通うる人の足音に愕かされたり其障子や襖を、何時不意に開けられるか判らないといふ不安に妨げられて、しつくりと落ち着いた氣分になれず折角まとまりかけた想ひを途中で妨げられたり、漸く湧いた感興を消されたりする時には、さうした不安のない洋館の有難さを泌み〳〵

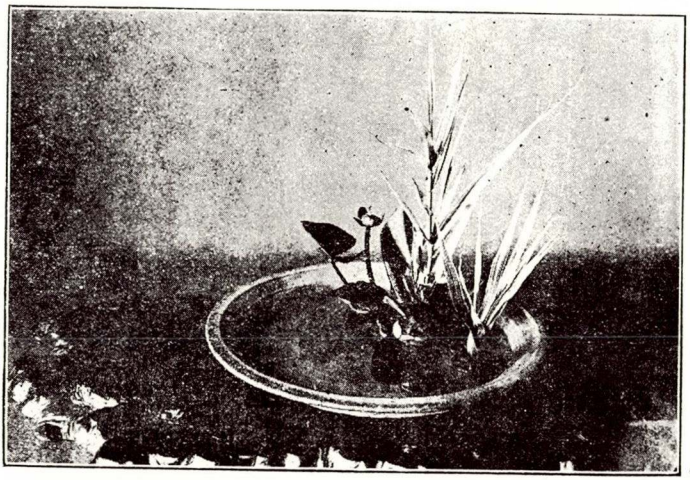


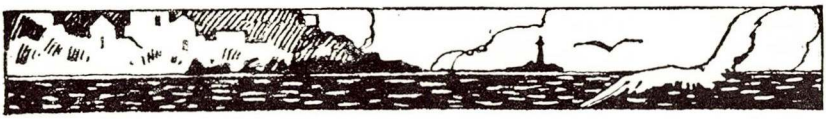
感じます。それとも一つ、健全な体質を造る爲めに、精一杯あばれてもよい部室を、子供等の爲めに必要だと思ひます、洋館はお掃除が樂に濟むといふことも、實際はそれ程でもありません。ふだんは手輕に濟まして置いても、一週に一度位椅子卓子、敷物などをとりのけてお掃除をすることは多大な時間と勞力とを要します。併し、毎日雨戶を開けたり閉めたり大掃除毎に、大騷ぎをして疊を上げたりする世話のないことだけは、大層助かります。今迄、毎年煩はされた、障子の張代へや疊代へなどが、幾らか少なくなつたことも、



裕のない身にとつては肩身が輕くなつたやうに思ひます。斯うして少しづゝ家庭を改造して行つて、なるべく生活を簡易にして時間と努力との餘裕を産み出して其餘分な力を自分の好きな趣味の方にあてたいと思つて居ります、趣味といふ事を、何か贅澤なことのやうに考へてお出でになる方もありますが趣味と贅澤とは

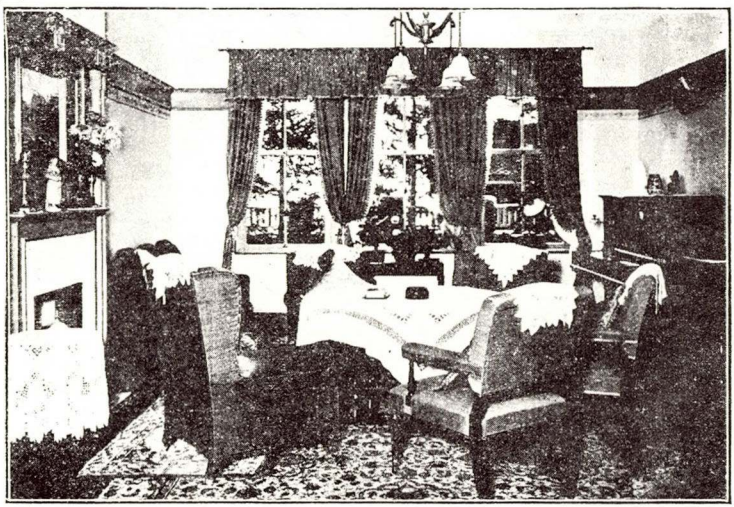






全然別でございます。澤山のお金をかけて眞い上にもよくして人目を愕かすといふやうなことは、趣味でなくて贅澤でなければなりません。これとは反對に、不充分なものを清らかに貧し氣といふ感じを抱かしめ得ないまでに、其ものを美化することに依つて、趣味の意義が生きるのであると思ひます。ですから、趣味といふこと位、誰にもたやすく出來ると同時に、どんな人にでも必要なものはないでせう。

要するに私共の生活上最も欠ぐべからざることは、時を有

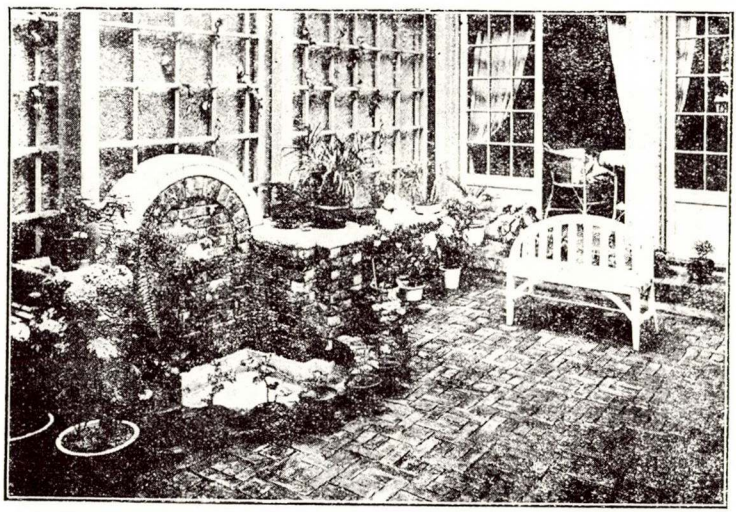


意義に費やすことであります、私共は一寸も無爲に過し度くないといふことを痛切に感じて居ります。斯ういふ意味から申しますと、郊外生活などは、不利だと思ひます。殊に此頃のやうに通信機關や交通上の不便が多くなりますと、郊外に居るといふことは、有形無形に非常に不利益でございます。特に女は、出入の度毎に費やす無駄な時間の多いことを思はずにはゐられません。經濟上から申しましたなら地價の高い市中に住んでゐるよりは、郊外の地價の安い土地に住んで出入に便利のよいやうに自動車でも置いた方が賢いやりかたかも知れません。唯一つ郊外に住んで受ける利益は健康でございます、これは何物にも代へられないことでありますが、併し、市中に住めば必ず体質が衰へるとばかりも云はれません、私は兩方の生活をして見ましたが

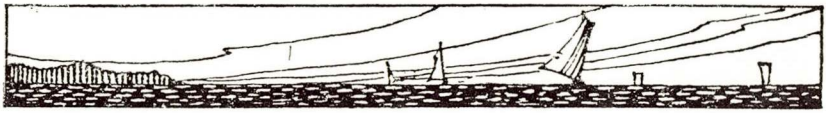


現在のやうな狀態では、都市の生活の方に、ヨリ多くの利益を感じて居ります。

ガスストーブが五色に燃へ立つて向ひ合つた夫人のお顔は紅をはいたやうに美しく輝いて來ました、年毎に美しさと若さとを增す夫人のお姿を、或る奇蹟でも見るやうな感じを持つて見ない譯にはゆきませんでした。これもやはり藝術趣味の豊なうちに育まれた賜物でもあらうと思つたりするのでした。それから夫人の御案内でお宅を拜見しました大体の設計は夫人と博士とのお計らひで、



それに專門家の設計とを加味したといふことでした。應接室、書齋、アトリエは純洋風にして、子供室、主婦室と云つたやう部分は、疊を敷いてありました。寢室の次ぎの間には、洗面處が有つてガスでお湯を沸かす設備があります。外國製の三面鏡も珍らしいと思ひました。アトリエは、夫人のお手になつた油繪で美しく飾られました。洋館と日本館との間には幾坪かの洋風の庭があつて一面にサビを持つた面白い煉瓦が敷いてありました。カアペットや堅殘椅子卓子の配列と調和には、大分苦心をなされたさまがしのばれて、落ちついた感じが凡てを支配してゐると思ひました。（婦人記者）



漫錄

米國へ行くまで

會員　波江悌夫

（一）

一　旅券

「旅券を貰ふには何うしたらよいかね？」と訊いて見た。T君は微笑しながら答へた。「さうさな、確か府知事さんを通して出願する樣に覺ねて居る。例へば君の場合なら大阪府廳へ行つて訊て見給へ解るだろう』

茲で初めて自分は手掛りを得た、早速府廳へ行つてM君に會つて話をしたらM君も喜んで外事課へ紹介して呉れた。

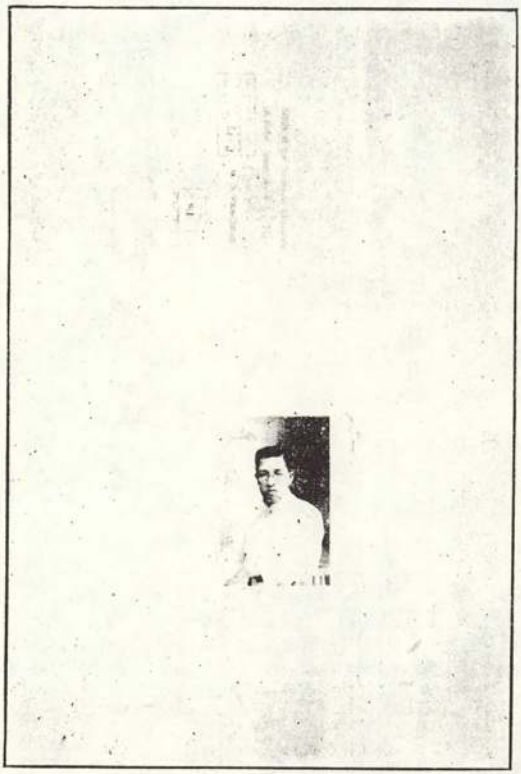
外事課では海外旅券下付願書の形式を印刷にしてあつたので、願書に添へて差出すべき必要書類も明瞭に解つた。第一は戸籍謄本が必要だ第二に本人の刑罰の有無と兵役に關する市區町村長の証明書を取寄せなければならない。第三には本人が三ヶ月以內に撮つた寫眞（臺紙なし）二葉、第四には旅費出資者の証明書、第五留守宅扶助引受人の證明書等が其主なるものである。

そこで原籍地へ照介して夫々の書類を作成して貰ふ、久し振りに寫眞を撮る保證人の相談に行くといふ風に相當の手續をする



間に漸く出願書は現在地の當該府縣廳に警察署を經て提出するものなる事が解つたのみならず自分の様に二府一縣に關係して居るものは當局者の取調が三様の手を要する事となるらしい。

兎も角下付願書に必要の書類を御影の警察署へ提出したのが九月の下旬と記憶する。そして仝署から呼び出されたのが二度、仝署の巡査が來宅して取調べたのが二度、大阪府東區警察署から取調べたのが二度といふ經歷で翌月の十八日といふに御影署から呼出しが來た、夫でも二十餘りの日子で調査した當局者の骨折も去ることながら、待たるゝ身となるよりも待つ身のつらさは隨分であつた。領收書と共に壹圓の收入印紙を貼つたのを覺えて居る。



旅券は海外旅券とある、(寫眞參照)「パツスポート」と申のは是である。正三位勳一等外務大臣内田康哉閣下の記名してある裏表紙には英佛文と支那文の奥付が付てある二枚折を開くと白紙に本人のあわてゝ撮つた寫眞が添付してある、この一枚こそ日本國民と



して海外遠く安心して往來の出來る證明書である。受取つた其日何となく嬉しかつたので、厄介な手續の繁雜な事はもう忘れてしまつた。

出航地から出帆前一週間内に當該渡航國總領事の證明を得なければならぬ。又健康診斷書一通を所持する必要がある。そして其後でなければ滊船會社は切符を賣らない（申込は別として）夫から愈乘船の際更に水上警察署の査明が入らねばならぬ。だから愈乘船して出帆の合圖の鐘が船内に響き渡り、見送人が埠頭に人の離を作り、送るもの送らるゝ者感慨無量の間に、自分はホッと呼吸をついたのである、それは隨分色々の手續と迷惑な順序を踏んでこれでやつと海外に行けるのかと思ふと漸く安心した樣ながつかりした樣な氣持になつたのである。

其癖此の海外旅券はあまり大切なものでないといふ人もある。何となれば此の證明書はあまり物を言ふて呉れないからだとの事、だが自分はあれ丈のむづかしい手續の後に漸く得たものに對して大切にして置かないで何うしやう。

（二）神經衰弱

「僕はこんな事を考へて見た、それはうつかり洋行は出來んものだといふ事だ。」

Y君は腕を組みながら恁ふ云つた。

「夫れは什ういふ譯だい」

自分は思はず質して見る氣になつた。

「早い話がね、洋行する人が全部が全部幸福な人でないといふ事さ、若し其人を見すして洋行さしたら、大なる得物を捕て歸つて來るだらうと當て推量で任命したら案外な結果を見るだらうといふのだ』

「すると何かね、洋行をして不幸を招いた人があるといふのかね」

「さうさ」とY君は無雜作に答へた、そして兩腕を延ばして膝をさすりながら。

「僕の研究した處を發表すればね、洋行して歸つて來る偉い人達に三種の別がある樣に想ふ、第一は最も仕合な人だ幸福を得て歸つて來る人だ、樂觀者だ、洋行した爲に

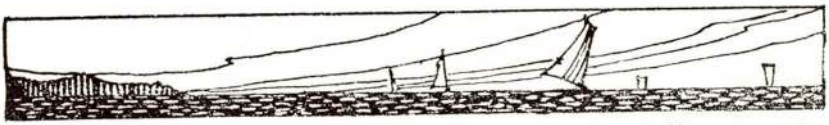


利益を得た人だ、將來益々精神を活躍して國のために働く人だ、そして此種の人に至つて眞面目な性格な人に多い、英國で永く修業をすれば英國型となつて來る、佛蘭西で勉强して來れば佛國風に捲かれて來る、獨逸に行けば獨逸流の考へになつて來る、亞米利加へ永く居れば米人氣質にかぶれて來る偉い人達だよ」

僕は思はず眼を見張つた。Y君の顏には皮肉な微笑が浮んで居るY君は更らに言葉を繼いだ



「第二は最も不仕合せな人だ、不幸を齎らす人だ　悲觀者だ、洋行をして損を召いた人だ「そんな人があるかい」「あるね大いにある」とY君は平然と答へた「至つて眞面目な人に多いよ、小心翼々として責任を感ずる人に多い、多感多情の人にも多い、此等の人は洋行した爲に一種の神經衰弱になるのだ、或は無理な勉强が禍を産む事もある、考へ餘つて手に及ばぬ苦勞から起ることもある、又彼地の惡い點ばかり見て大なる悲觀を捕へるのもあ



る。」

Y君の顔には一種異樣の色が漂ふた。

「母國の地を踏まぬ中に發狂する人もある故郷に錦を着て歸る代りに大なる憂を抱いて來るが爲めに自殺する人もある。さもなくんば一生を苦勞の間に埋めて世に背き世を慨して後半世をあたら屈托に葬る人もある樣だ、」

僕も思はず眞面目な顔になつたに相違ないY君の微笑は消ねて、口頭微かな嘆息の響を漏らした。窓外の桐葉は颯と落ちて秋の色は室の中にも漂ふてゐる。

「第三の部類に屬する人は更らに三つに分けて考へてもよい樣だ」

とY君は心氣一轉、顔面を緊張させる。

「ふむ」と僕は輕い返事をする。

「引くるめて云へば洋行して歸つて來てちつとも變らない連中だよ、惡くいへば鈍感な人に多く、善くいへば達觀の士に多い、無心に遊樂をして來る人は最も仕合せかも知れない。不仕合な連中は何等の得る處なく、感ずる處なく驚く處なくして歸つて來る。仕合せだとか不仕合せだとかを超越した偉い人には往くも歸るも變らないのがある、底の底、奥の奥迄も見ねすいて、平然と觀るものを觀、感するものを感じて來るのだ、盾の兩面を觀、悲樂兩端を叩き、深く謀り、遠く慮つて得た處を中々おいそれと發表しない連中がある、惡くいへば皮肉な人よくいへば清濁併せ呑んで顔色も變へぬ人だ、」

Y君は自分の顔をぢつと見詰めて恁ふいふた。

「君は一体什うなつて歸つて來る積りだと思ふね、」

自分はY君の眼の光に射られて、何んと返辭の仕樣もなかつた。

「君は想ふに仕合せな人かもしれない。しかしね、見物といふ事は客觀的に見て初めて面白味があるものだ、醉ふとか惚れると



かいふのは自己を沒却する爲めに起るのだよ、女に惚れた事がないからといふて人間は何に惚れるか分らぬものだ、學問に醉ひ才力に惚れ、藝能に弄れて自己を失ふものは仕合せかもしれぬが足元が危いよ。」

自分は何とか答へなければならなくなつた。

「僕は和服を着て歸つて來る積りだが…」

「そうだ、其處だ、最も大切な處だ、だが人間といふものは言行一致といふ事が中々むづかしい、デモクラシーを說く先生が中々專制をやるものだ、身体に和服を着ても心に洋服をかふつて居つたら何にもならぬ確りしろ、彼地へ行つたら夜は早く寢給へ朝は早く起きるのだ、自分の身体だと思ふたら大間違いだ、よく〳〵氣を付けて限りある体力を計つて確りやれ、神經衰弱などは起り得ないよ。（未完）

本編は遲着せるを以て揭載を遲れたり——編補者

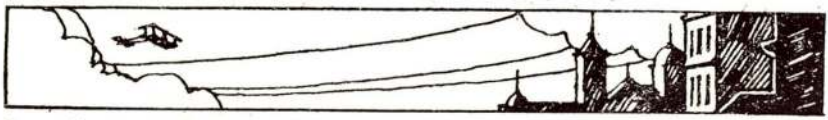
●偶作

あべ

自信者人亦信之。胡越猶弟兄自疑者人亦疑之身外皆敵國至於推誠則不欺守信則不疑非但六各之內可行動天地感鬼神非誠信不可

心志一定則可以。活可以死可以投烈火外事無大小中慾。無淺深有斷則生無斷則死大丈夫以斷爲先

古之人修身以避。名今之人飾已以要譽所以古人監大節而不奪今人見小利而易守君子則不然無古無今無治無亂出則忠入則孝用則知則愚



訪れの記

Mさんとの珍問答

═『家相・見』君と僕の續き═

るむら

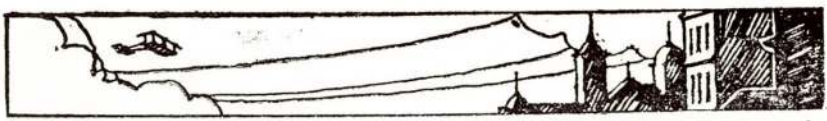


T家相見君の氣焰と報酬問題に、聊か生命辛々な氣味で遁げ出した記者は、更に、大阪に於ける斯道の大家?として、所謂善男善女達に老舗のお株を買つてゐるM家相見君を訪ふた。

北大阪の或地點に角引き回らした堂々たる其構へは、却々以て、夢め『八卦見』抔と云ふ〳〵からず、什うしてご

うして蔓大阪の遺物である處の『葛根湯』本舗とでもいふような構へである。併し、街路に面した直角にシヨーウインドを設けて、其中に、筮竹や算木や易占の六韜三畧の卷抔を陳列して、八卦商賣のデパートメントストアーを利かせたのは、遖に大阪だなと肯かせた。三太夫式の老人に請ぜらるゝ儘座に就いたは奥の六

疊許な一室、暫く待つ間に其處等邊りを打ち見たる處、是は亦、前のT家相見君と打つて異つて頗る古典的な氣分に富むでゐた。請ぜられた記者の座前には、大きな紫檀の机を据へて磨き立てたような光澤の麗しき竹筒に、さら〳〵と奈何にも心地よき音でも立てそうな艶も麗らな筮竹を立てたのを一筒づゝ行儀良く



きちんと備へ、其中間に、是も亦艶も綾に磨き立てたような算木を並べ現代の所謂研究資材とも申さうか、門外漢記者の如き不心得者には、去つ張り其用法も有難味も判らない謂はゞ『得体の知れぬ』雑多な物が陳列されてあるが、『亡者達』へ其神祕さ加減を利かした處に、其身上があるのであらう、と記者は窃に想ふた。

聽て、涙漫的に云へば、所謂しんず〳〵と、奈何にも氣取つた態度と澄し込んだ面貌で机の正面に着いたのが、M先生と思ひきや、是は亦案外な若造であつた。

『何をみるのかナ?』

乙に聲を氣取つてツンと澄し込むだ態、記者は覺へず込み上げた笑ひをやつと喉元で喰ひ止めながら、

『家相を鑑定して頂き度いのですが……』

件の若造さんは徐ろに傍らの線香を取り出して、火を付け乍ら記者の答へに頷いた。一抹の香煙糸を引つ張つたように細く冲して縷々たり、彼れは瞑目一番、心氣を靜むるもの、如くであつた。記者は熟々と彼れを視た、打ち視たる處三十格好、本大縞絣の襲れ着に同じく大縞の羽織、羽織の緒に、天鵞羅か正味か知らないが、觸れば音のしそうな大きな井桁型の金色燦爛たる奴をぶら下げたのには、餘計な事ながら、折角瀟洒な姿風も臺無しにして、惜しき事してなんめりと窃に思ふた。ポマートの艶も水々しく七三に分けた短き頭髪には、是も亦商賣に不似合な現代式だナと、記者をしてモ一つ餘計な事を考へさせた。

『Mさんといふのは貴方で?』

音に聞いた八卦見のMさんは、記者の子供時分から大阪の易者として記憶に在るのだから、三十格好とは聊か戸惑ひの感があつたから、斯う訊いたのであつた。

『ハイ〳〵わたしがMで……』

此の上も一つ其奥を窺くのは野暮天の骨頂、蓋しM第二世でがなあらうと獨り極めに頷いた。

記者は持參したプラン(前號挿入)をMさんの面前に展開し乍ら、

『此度こういふ風な家を建てようと思ふのですが、家相上什麼ものでしよう?』

斯う云ひつゝ、はつと氣付いた事は例の鑑定料問題である。一体宇家相見君に聊か氣拙い思ひをして、簡派の使命を果し得なかつたのは、所詮鑑定料金の問題であつた、Mさんは凡ての樣子が餘り吹き掛けそうもないようだが、窃に顧れば記者の懐中三五圓が身上である、茲一番露骨に打ち出すに如かずと、前回のTさんとの對座で聊か度胸の据り氣味な記者は、

『併し御鑑定料は一体什麼ものでしよう?』

と切り出した。Mさんは事も無げに

『わたしの方では二圓以上御隨意に頂戴する事にして居ります、込み入つたのは格別ですが……』

『ハアそうですか、兎も角御鑑定を願ひます』



Mさんは、熟々と圖上を覧ながら
『是は大層格好よく出來たものですな、——御商賣は？』
『商賣ですか……醫師です、是から開業しようと思ひますので……』
『成る程、奈何にもお醫者らしく出來て居りますなア』
飛むだ處でゴ愛嬌を振り撒いたものだ。
『お醫者ならば、什うも此の車の置場が面白くないですナ、此處は鬼門に當りますから、主人の活動本位のものを此處に置くといふ事は常識から考へても宜しくない……什うも面白くない設計ですナ』
をや〳〵是では先き程の賛辭はお座成りであつたらしい、Mさん却々味をお遣りだ。
『塲合に依つては自動車を置くがも存じません』
『自動車なら尚更な事です、一層活動するといふ事になりますから』
ちよつと待ち給へよ、此理窟では活動の本位は主人公其ものでなくして倆や自動車にあるらしい、イヤそうじやない寧ろ速力の奈何に在るといふ事に歸着する、それでは人本位か車本位か、記者は聊かブラッシュで顔を撫ぜられたような氣が爲た。
『そうすれば什うしたら可いのです？』
少々突つ込み氣味で訊いた。
『此の倆夫部屋から倆置塲と序に下便所もずつと此の隅へ寄せて、其跡へ樹木でも植へたなら、第一此の門から斯麼物が見透されなくて風致も好くなる上に、樹木の多いことは衛生上非常に宜しい事でありますからナ』
『そうすれば、此の門の位置は是で宜しいので？』
『エ、そうです、是は此儘で構ひません』
片手で頬杖をつき乍ら圖上を繁げ々々見遣りつゝ記者の問ひに答へありしMさんは、斯う云ふと共に。徐ろに上つて、『敷島』を取り出し、奈何にも甘まさうにすつと一口深く吸ひ込みて、ぱツと噴火山を拵へ乍ら、餘に笑面を作つて、
『一体家相抔といふものは、現代では古昔のように無闇と約束許に捕はれるといふ事をしません。早い話が、昔は屋内の見へ透いた家は金錢が溜まらぬ抔申しまして、陰氣な暗いのを好しとしたのですが研究の結果是には曰くがあるのです。元來、斯麼事を申し出しましたのは德川時代からでありまして、其當時屋内の見へ透く家は大概身上が判りますから、得て御用金を仰せ付けられ、今の所謂苛斂誅求ですナ、是を類にやられるのですから、彼樣な家相上の原則が出來たのです、現代では風通しや光線の入り具合がよくなければ兎角病人があり勝ですから、家相も斯ういふ上から觀察せねばなりませんなア』
是は面白い餘程科學的に出來てゐる文化の勢力といふものは、古典的な商賣までも、現代の所謂『改造』氣分



に浸つたものだ。彼は言葉を繼いで『家相は、單に方位とか位置とかいふような事許考るものではありませんナ、其家全体として視れば、恰度人間が衣裝を着けて格好を調へるように、家全体の調和殊に優美といふ事に重きを置かればなりませんなア、昔の家相家や易者抔は……』をつゝと失れ丈けで結構、徐〳〵脫線氣味だから、時の惜しい記者は此處等で喰ひ止めむと言葉を遮つて、『そう致しますと、其他には斯の設計で差支ないのでしようか?』Mさんは心機一轉といふような面貌で、事も無げに『エ、それで宜しいのです』『門の位地は是で可いのですなア』『イヤ什うも此の門の位地が面白くないですなア』是はれ仕たり、Mさん、先きの鑑定を、わすれたらしい。記者は此奴變だと更に陣容を直して突つ込むだ。『先生!、貴方は先きに門の位地は是で結構と云つたじやありませんか』Mさん少からず面喰ふと思ひの外、寔に以て澄ましたもので、『辛抱の出來ない事はありませんが醫者抔といふ者は人氣商賣ですからな、門は什うしても此處から斯う持つて來たが可いですなア』面前に展開してあるプランの中に、Mさんは指の先きで隅角から斜に線を引いて見せた。『是はフカモンと云つて、人氣商賣には什うしても是でなければなりません……格好から云つても、一直線に內玄關へ頭するのは大層体裁のよいものですよ、わたし等やお醫者抔の商賣は殊に見榮へを張らればなりませぬからなア』是は亦飛むだ內所事をさらけ出したものだ。記者は可笑さを耐へつゝ聊か乘り氣になつて、『フカモンとは什う書くのです?、富の門ですか?』……『イエ、風の門と書くのです』風の門?、お醫者に風の門?、時節柄何んだか可笑い樣に思ひつゝ、『何故風門といふのです?』Mさんは、不心得な奴と云はむ許りに、『それは家相學上ちやんと決まつてゐるのですよ』ツンと澄して取り合はない風が見へる。『そうですかなア?、……そうすると、門の位置が變れば、本館の設計も是じやいけない筈ですな?』『エ、そうです!丸つきり遣り替へねばなりません』オヤ〳〵是なら元の序幕に戻つて來たのだ、記者は此處等が潮時と、辭して街路へ飛び出したら、出合頭らに、甑稜を纏ふた一婦人辻占提灯片手にMさんの家へ飛むで這入つた、想ふに、寒夜幾錢を稼がんとする辻占の仕入れでがなあらう、アゝ可憐な姉妹よ!。



時報

大阪市都市計畫（二）

第一章　高速交通機關
第二章　鐵道及軌道
第三章　郊外地の開發
第四章　市內道路
第五章　舊市の路幅整理
第六章　路面の鋪裝
第七章　河川及運河
第八章　築港の擴張

第二章　鐵道及軌道

前章と關聯して此際都市計畫上の見地よりせる大阪驛の擴張計畫を始め其他本市に至大の關係ある數多の鐵道軌道問題に論及するを便とす

▲第一、大阪驛擴張計畫

之を現在の大阪驛に見るに其構内は長く東西の方向に延びて新淀川との間に豐崎中津、鷺洲に跨る約百二十萬坪の廣大なる地積を包圍し日夕頻繁なる列車の出入を以て殆ど其交通を杜絶するの狀あり爲に人口の充實本市の如きを以てして獨り此方面の開發遲々として進まず長柄運河の沿岸を除けば今尚其大半を擧げて空しく未拓の儘に委す此の如きは畢竟現在の大阪驛自體すらも之を東西に横へしむるの既に根本的に本市交通の必要と背馳し爲に北郊伸展の生命を阻害する所以を證するに足るもの況んや驛の擴張計畫として更に倍々其西方への延長を策し以て廣大なる背面地域の荒廢を新に强要するのみならず併せて十三橋並に西成大橋よりする本市北方の幹線道路を遮斷せんとするが如きをや而して本問題解決の關鍵たる畢竟大阪驛をして其東西への展開を撤し能ふ限りそを南北に振向け以て一般交通の方向に順應せしむるにあつて存する以上大阪驛の改築を機とし之が擴張を併せて一擧に此方針に據らしめんは當に其時を得たるのみならず其實行又敢て困難ならず即ち第一驛内所要の貨物線は之を全然客車線より引離して南北の方向を取らしめ且つ纏めて驛北未拓の地積を利して其配列を策し尚能ふ可くんば之を北方に收約して別途に新淀川を超えしめ以て飽迄南北縱貫主義の徹底を期すべく構内船溜の如きも固より北方への擴張を講じて依て東西所要の幅員を短縮すると同時に其兩側に南北縱貫の大道路を設けて隣接地區在來の不便を救ふにあり第二には東西横斷の要ある旅客線をして新淀川以南は全部高架式たらしめ地表交通路線との交叉に伴ふ一切の不便を根絶して本市永遠の利益を確立するにあり第三には即ち前章說く所の如く官線並に市内循環路線を始め各郊外電車線の高架的連絡をして最も理想的ならしむべき共同停留場の施設を新驛内に整備せしむるにあり第四には停車場本館の改築を機として相當之を後退せしめ現に二十間幅のみに過ぎざる彼の貧弱なる驛前の廣場を六七十間に擴大して本市第一の交通中心たるに恥ぢざる前庭並に綜合的美觀を發揮するに足るべき高層建築用の區域を劃し其品位を高めて過客の本市に對する第一印象を飽迄快適ならしむるにあり第五には現構内入堀の南岸に沿ふ約一萬三千坪の鐵道用地を割き茲に水陸兩運の利便を具備する食料品卸賣市場の敷地を設定して本市必須の要求に充て堂島川に通ずる堂島堀割を擴張して其活用に便するにあり人或は大阪驛の東西伸展に伴ふ一般交通上の不利を難ずるの餘り夢ろ進んで其移轉を主張せんとす然もこを一擧に新淀川以北に移し去らんとするが如きは斷じて本市の利益にあらず苟くも本市の生命にして商工にあり商工の活動にして飽迄貨物運送の經濟に伴ふべきを知らば如是貨物集散の大市場を擧げて全市より二哩以上の遠きに退け以て濫りに高價なる市内小運搬の距離を加ふるのみか現に本市と直接水

運の便なき土地を指して徒らに其大規模の施設に適するを說くも夫れ何の用をか爲さん

▲第二、湊町驛の改善

湊町驛の改善は本市に取りて大阪驛に次ぐの重要問題なり其救濟策として第一には驛内の工場其他直接貨物の荷役と關係なき設備を撤して之を郊外適當の地に移轉し依つて得べき剩地を併せて構内線路並に入堀の整理を遂げ以て難波櫻川町と難波新地三番町とを直通する道路を新設し根本的に交通混亂の素因を滅却せしむるにあり第二には右の新道開設に伴ひ其以北に斗出せる鐵道用地約一萬二千坪を割きて新に水陸兩運の利便を具備する食料品卸賣市場敷地として本市必須の要求を充すにあり第三には即ち湊町以南の平地式運轉を廢し高架を以て之を天王寺驛に直通せしめ依つて難波木津方面に於ける現在交通の障碍を撤し街路系統の紛糾を正して本市南部の發展を倍蓰せしむるにあり此の如きは是れ市是なり本市將來の利益の爲に斷じて其實行を期せずんは非ず

▲第三、西成線の改善

之が改善の方法たる同線が近く貨物專用線として大阪驛とは無關係に吹田操車ヤードに直通せば足るの事實に鑑みんには即ち之を北に長柄運河沿岸工場地帶と平行する新線路に移し一方其廢線敷を擧げて將來此方面に於ける高速路線の敷地に充當せんに如かず

更に本線の終端驛たる櫻島の地は現に大阪港内海陸連絡の要衝たるのみならず將來倉庫用地として倍々其價値を發揮せずんば非ず然も其地形に對して現停車場の所在頗る其妥當を缺ぐが爲に日夕操車の不便は固より濫に沿岸上屋と倉庫との連絡を遮斷し其活用を減殺するの不利能く恐ぶ可からず宜敷速に停車場を磯邊橋の東大阪鐵工所の北に移して根本的に軌道の配列を改め操車の無理を匡して以て港域全般の運用を助長せしむべきなり

▲第四、郊外電車乘入線の整理

平地式專用軌道を以て深く市内に乘れ入れ爲に著しく一般交通を害する既設郊外電車線の如きも亦齊しく之が高架化若くは整理を强要して以て本市交通の利便と合致せしめざる可からず況んや將來新に市内への乘入を企圖するものゝ場合をや乃ち先づ南海本線にありては其關西鐵道線との交叉點以北難波驛に達する區間を高架化して本市南部の交通に便せしむべきなり加之國有實現の曉に於ては難波湊町兩驛をして最早夫々旅客並に貨物の取扱に當らしむるの要なく全然二者の用途を別ち他の貨物驛たるに對して難波驛の旅客專用驛たるべき理由十分なるを以て一面市内高速機關の連絡と相俟ち茲に居然として本市南部の一大交通中心點を現出し北に大阪驛と對立するに至らん乃ち構内貨物用設備を撤して其敷地を整理し代ふるに廣濶なる前庭と及び之に恥ぢざる一大旅客停車場を以てせんもの已に遠きに非ず又何すれぞ特に其高架化をのみ云はんや

次に阪神軌道線にありても新淀川以南の專用軌道は當然之を高架化し以て本市北部の交通と發展とに資せしむべく同時に其線路の迂曲を正して大阪驛内に於けると共同停留場に其起點を合さしめざるを得ず其他高野鐵道線の如き大阪電氣軌道線

の如き京阪線、阪神急行線の如き又何れも市内乘入の長短に應じ本市交通の必要と其地理的關係に照して夫々適切なる改良を要求せざる能はず尚最後に惠美須町及天王寺西門前よりする南海支線並に阪神北大阪線の如きは其性質上何れも路面電車として早晩一統一を策せざる可からざるや論なし

▲第五、昆無川以南の臨港鐵道支線

市の西南昆無川と木津川との間に介在せる泉尾、南北恩加島及び福町、鶴町方面一體の廣漠たる地域に近年本市の勃興に伴ひ又電車の開通につれて遽に其開發の歩武を早め隨所に水運の利便を得て大規模の工場簇出するのみならず廣大なる貯木場の設備又相次で起らんとす故に其必然の結果は早晩三軒家附近より分岐して貿易地帶に達する臨港鐵道支線の敷設を餘儀なからしむべきは固より恐らく其時機の到來意外に急速なるものあらん市が福町に於て豫め約一萬坪の停車場敷地を用意せるが如き又畢竟之に慮るに出づ左れば政府も亦宜數今日に於て這般の趨勢に察し此方面の發展尚甚しからざるに先ち豫め其線路を一決して工場貯木場其他百般の施設を是と適應せしめんもの當に本市運輸上の利便の爲とのみ言はんや

第三章　郊外地の開發

夫れ都市の膨脹は市の内外に亘る交通機關の配置如何に伴ひ交通機關は更に運轉速度の大小を以て其範圍を伸縮すされば遠き將來は知らず今日に於て略想像し得べき本市の經濟的活動範圍としては既記の市内高速設備と及び是と連絡する郊外電車線の配置とを辿りて中之島附近の中心地區より約一時間前後を以て到達し得べき環域即ち西に住吉（官線）御影（阪神線）北に伊丹（官線）箕面寶塚（阪神急行）東に山崎（官線）伏見（京阪線　四條驛（官線）富尾（大軌線）柏原（關西線）南に平野鄕（南海支線平野線）住吉（南海支線浜速線）大濱（南海支線阪堺線）濱寺（南海本線）堺（高野線）を包括する約三百平方哩の大地域を擧げて之に答へざるを得ず然も此外廓の地たる現に我市民の住宅地として何れも其利用を見ざるはなく既に以て大大阪の自然的版圖を形作れるの觀あり故に本市の都市計畫範圍は到底若干隣接町村の區劃にのみ拘泥するを以て足れりとせず殊に都市計畫法は都市の區域を超へて統一的に施行し得べき幾多重要施設をも併せて畫し得可き權能を都市に附與せるを以て彼の接續町村編入問題の如きは姑く之を別途の考究に委すべく茲には一層自由の立場よりして地理的自然の要求を基礎とし廣く近郊地開發の計に出でざるを得ず

然も市の近郊たる北は神崎川を限りとして兵庫縣と界し南に大和川を以て又自らなる分野を劃せるに察せば我大大阪市の實質的範圍は兎もあれ形式上此二線を超えて揆に都市計畫の範圍を置かんは固より妥當ならず仍て本市の幾何學的重心たる四ツ橋より此二線に至る約五哩の距離を標準として大體の限界を爲すべく即ち北には西成郡の一部豐能郡の一部並に吹田町背面の臺地を含む三島郡の一部を併せ東に東成郡一圓を主として中河内郡の一部を加へ南は大和川の流れを追うて海に達する自然の分界に從ひ此廣袤約八十

五平方哩を以て略我都市計畫の對象たるべき地域と見做さんと欲す

大阪市都市計畫施行區域

大　阪　市

西成郡一圓

東成郡一圓

三島郡の內吹田町、千里村

中河內郡の內矢田村、巽村、瓜破村

豐能郡の內豐津村、小曾根村、中豐島村、南豐島村、庄內村

先つ之を市の北郊に見んか阪神阪急の二線を沿へる既設の住宅地區は更なり他日交通の利便を得て新住宅地域たるべき吹田町方面一帶の臺地の如き高燥の地積に富めるは頗る其強味たりと雖も然も之に達する途中新淀川神崎川間一體の低地に至りては何等か特殊の計畫を以てせざる限り其開發容易ならざるものあり計畫とは畢竟此低濕の地勢に鑑み大規模の工場地域として其發展を圖るの外なきを以て寧ろ其趨勢を助長すべく第一着に此平野を東西に縱斷して幅員二十間以上の

大　運　河　開　鑿

の擧に出づべきこと是なり即ち其大要は西中島村引江附近にて神崎川より分岐し地理上若くは鐵道線路の干係上多少の曲折を經て海に達せしむべきのみならず別に北には尼崎市へ通ずる支線を派し同時に南にも新淀川を橫斷して正蓮寺川に出で更に進んで安治川並に築港に通ずる支線を分岐し右運河沿一帶の地域は更なり尼崎市と大阪港との間にも彼我相互の連絡を通じて以て水運上飽迄地理的利便の擴充を期すべし此方面一體が本市將來の理想的大工場地域として着々新生面を發揮し來らんもの之を想像するに餘りあるのみならず或は將來再び新淀川の附替を斷行して現在河川敷を運河並に工場地帶に充て以て大大阪市附近の工業的偉力を無限に發揮するに至らんも亦知る可からざるをや

此の方面に於ける幹線道路としては現に(一)西成大橋より西して尼崎市に達する阪神國道(二)十三橋を北して三國より岡町方面の住宅地區に至る能勢街道及び(三)長柄橋より北して吹田町附近の住宅地區を通ずる龜岡街道の三線齊しく其利用の大なるに加へて將來大運河經營の進行につれ其沿岸工場地帶の發展に會せば倍々其價値の激進さるべきや必せり故に今日よりして宜しく其著き迂曲を匡し其幅員を增して土地開發の先驅たらしめざる可らず而して阪神國道線以外の二線路にありては寧ろ歐米の例に倣ひて所謂彈力性道路の方式を採り豫め十間幅の道路敷に對する建築線を設定し路面の築道は當分之を六間內外に止めて其殘地を適當に利用せしむるを可とせん固より此廣大なる地域の開發の爲には右の三幹線道路を以て足るものに非ず就中尼崎市より市の西區方面へ達する直路として新に福村附近に於て新淀川尻に架橋し以て南に傳法、四貫島、春日出町より恵て九條、泉尾及び難波を連ぬる幹線道路と相呼應せしむるもの〻如きは阪神電車尼崎支線の實行と關聯して特に考慮の要あり而も大大阪市發展の將來よりすれば北に吹田町附近の臺地を利用して成る天然公園又は南に神島村附近の新淀川堤防に沿ふ一帶の河沿公園又は此公園を連結して崇禪寺馬場其他の勝地を貫く遊步道の設備の如きは恐らく適當の時機に於て考慮の必要

あらん

次に市の東部に在りては現在の城東線を高架に改むるによりて乍ちに市街化し終らずんば止まじ即ち之に應ぜんが爲めに第一着に猫間川及び平野川の改修を策して排水上の缺陷を拯ひ併せて舟楫の便を補ひ次に寢屋川以北に於て適當なる運河計畫を定め廣大なる城北工場地域の開發を促し且隨所に快適なる勞働者住宅地の分布を策するの要あり此方面に於ける幹線道路としては玉造より野江に通ずる新道路を始め在來の京街道、古堤街道、暗越奈良街道及び奈良街道等を利用して逐次之れが改良と擴張とを期すべく生駒山麓自然の起伏に依る森林公園の施設を見んも畢竟時の問題のみ

更に轉じて市の南郊に見んか近く天王寺より田邊、平野若くは天下茶屋、住吉に亘る廣濶なる一圓の臺地を展開して遠く大和河畔に延びて更に之を超えて河南泉北地方に亘り明かに本市將來の南方住宅地域として地勢上最有利の位置に立てるは之を否むべからず現在の阪堺國道線の如きは其利用激甚なるも一面擴築の容易ならざるものあるを以て經濟上別に是と並行して湊町驛より南に一直線に天下茶屋を經て堺市に達する大路を開き以て彼此の交通に便し併せて十三間川以東の開發を促すを利とせん

若し夫れ此方面に於て適當なる公園設備を策し以て住宅地域の價値を發揮せしめんと欲せば則ち田邊村の西、股ヶ池より池田池に亘り附近の地勢頗る其施設に適するものあり能ふべくんば更に快適なる公園道路を以て之を北に天王寺公園に結び西に住吉公園と連絡し又南に大和河畔依羅村地先の松林より更に流れと共に西して敷津村の河口に至らしめんか恐らく此の間多趣多樣の景致を點綴して一大連續公園の美觀を大成するに至らん

最後に東成郡に屬する市の西南郊にありては第一着に木津川の改修を講じて水深の增加と河岸の整理を遂げ又十三間川を改修して木津川との間に大小數條の運河を通じ更に將來の大阪築港擴張計畫たる木津川取込み及び大和河口に亘る市の埋立計畫と呼應して舶迄水運の利便を充實するのみならず官私鐵道線を導いて茲に海陸連絡の自在境を現出せしめんには恐らく大阪港の延長として其地理的形勝を極度に活現せしむるに足らん加之此方面に於て特に工場地開發の促進に資し同時に市内の水運を補足するに足るべき考案としては彼の尻無川と木津川とを連ぬる既定運河計畫と相應じて木津川東岸の小雜畑より東に今宮町を貫き北折して高津入堀川に通ずる新運河の開鑿を以てせざる可からず又此方面の幹線道路としては前記の阪堺新幹線より分岐して敷津村地先に達するもの及び堂島櫻川町線より南下して津守村を貫くものを主とし以下順次大小の補助路線を選定して以て將來の發展に策應せんとするの要あり（未完）



會報

會誌

□改題以來亦も二輯を重ねましたが、内容の改善に就ては、まだ〳〵理想の半だにも達しませぬけれども、次號よりは今少し普遍的な砕けたものに致し度いと今から其用意を致して居ります。斯くて、號を重ぬるに隨ひ理想の通りに大成致し度いと存じて居ります。

圖書

（交換）

建築雜誌　第三四輯第三九五號（建築學會）
建築世界　第十四卷　第一號（建築世界社）
住宅　第五卷　第一號　第六號（關西圖藝協會）
工業之大日本　第十六卷　第一號　第七號（工業之大日本社）
鐵と鋼　第六輯第一號（日本鋼鐵協會）
建築新報　第二卷第一號（建築新報社）
通俗衛生　第二二七號（大阪衛生會）
電氣協會雜誌　第三七七號（電氣協會）
木材新聞（其社）
建築業協會々報（其會）
建築評論　第二卷第一號（建築評論社）
ガーデン
藏前建築　第七號（東京高工建築科）
木材新聞　ペイント商報

會合

□第一部委員會

▲日時　大正八年十二月二十四日午後六時九時
▲會場　大阪商品陳列所
▲出席者　内藤、片岡、瀬戸（文）、吉木、新海、淺井、小谷、（書記）
▲議事　市街地建築物法施行規則に就て第八十四條までを審議す。

□第五部委員會

▲日　時　大正八年十二月二十四日午後六時九時

▲會　場　中央電氣倶樂部

▲出席者　池田(寛)、葛野、江村(編補)

▲議　事　本日は出席者少數に付流會となりしも本會の方針を協定せり

□理事會

▲日　時　大正九年一月十日午後六時—九時半

▲會　場　大阪倶樂部、

▲出席者　片岡、舟橋、江村(編補)

▲議　事　(一)一月例會を來る二十六日午後六時より(一)大阪商品陳列所にて開催する事(二)全會に決算報告を爲し會費額引上げ、第七部委員會決議事項承認の件を附議する事を決す

□第七部委員會

▲日　時　大正九年一月十九日午後六時—九時

▲會　場　中央電氣倶樂部

▲出席者

▲議　事　前回に引續き用材の寸法及品位に就て審議せり

□第三十一回例會

▲日　時　大正九年一月廿六日午後六時—九時

▲會　場　大阪商品陳列所

▲出席者　糸崎、葛野、瀬戸(強)本多、舟橋、片岡、光安、小笠原、注部(節)安井、伊藤(正)谷本、吉井永野、前田(武)

▲議　事　當日は出席者定數に充たず仍つて會費增、額大正八年度迄の決算報告等に就て假決議をなせり

會員消息

中川彌八君朝鮮釜山附凡一洞朝鮮紡織株式會社内

田代鶴吉大阪府泉南郡岡田野内藤吉方

『新制定』

都市法規

前號に引續き「ブダペスト」建築條例を掲載する筈の處
今回實施されたる都市法規は最も周知の急を要するもの
に付右建築條例は休載し次號より繼出する事とせり



新に制定されたる 都市法規

此處に都市法規とは、『都市計畫法』『都市計畫法施行令』『都市計畫委員會官制』等を總稱するものにして、都市計畫法は、既に客年の議會に於て制定發布され、後の二法令は、大正八年十一月二十七日付勅令を以て發布されたるものにして、都市計畫に關する法規は是にて完成の事となりたると同時に、孰も大正九年一月一日より實施されたり、茲に於て都市計畫の運用は愈々其活動力を得たる事となれり仍て左に其正文を掲げて參照に供せむ。

○都市計畫法

（大正八年四月四日）
（法律第三十六號）

第一條 本法ニ於テ都市計畫ト稱スルハ交通、衛生、保安、經濟等ニ關シ永久ニ公共ノ安寧ヲ維持シ又ハ福利ヲ增進スル爲ノ重要施設ノ計畫ニシテ市ノ區域内ニ於テ又ハ其ノ區域外ニ亘リ施行スヘキモノヲ謂フ

第二條 前條ニ規定スル市ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス其ノ市ノ都市計畫區域ハ關係市町村及都市計畫委員會ノ意見ヲ聞キ主務大臣之ヲ決定シ内閣ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 都市計畫、都市計畫事業及每年度執行スヘキ都市計畫事業ハ都市計畫委員會ノ議ヲ經テ主務大臣之ヲ決定シ内閣ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 都市計畫委員會ノ組織、權限及費用ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 都市計畫事業ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ行政廳之ヲ執行ス

主務大臣特別ノ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニヨリ行政廳ニ非サル者ヲシテ其ノ出願ニ依リ都市計畫事業ノ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第六條 都市計畫事業ノ執行ニ要スル費用ハ行政官廳之ヲ執行スル場合ニ在リテハ國、公共團體ヲ統轄スル行政廳之ヲ執行スル場合ニ在リテハ其ノ公共團體、行政廳ニ非サル者之ヲ執行スル場合ニ在リテハ其ノ者ノ負擔トス

主務大臣必要ト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ都市計畫事業ニ因リ著シク利益ヲ受クル者ヲシテ其ノ受クル利

益ノ限度ニ於テ前項ノ費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第七條 主務大臣必要ト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依リ公共團體ノ負擔スヘキ毎年度ノ金額ノ最低限度ヲ定ムルコトヲ得

第八條 公共團體ハ第四條又ハ第六條ノ費用ニ充ツル爲左ノ特別稅ヲ賦課スルコトヲ得但シ府縣費ヲ市ニ分賦スル場合ニ於テ市カ營業稅、雜種稅又ハ家屋稅ヲ賦課スルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受ケ其ノ稅率ヲ定ムヘシ

一、地租割　地租百分ノ十二半以內

二、國稅營業稅割　國稅營業稅百分ノ十七以內

三、營業稅、雜種稅又ハ家屋稅　各府縣稅十分ノ四以內

四、其ノ他勅令ヲ以テ定ムルモノ

公共團體ハ主務大臣ノ許可ヲ受ケ公共團體ノ他ノ收入ヲ以テ第四條又ハ第六條ノ費用ニ充ツルコトヲ得

第九條 都市計畫區域內ニ存スル國有河岸地ニシテ公共ノ用ニ供セサルモノハ第六條ノ費用ヲ負擔スル公共團體ニ之ヲ下付スルコトヲ得

第十條 都市計畫區域內ニ於テ市街地建築物法ニ依ル地域又ハ地區ノ指定、變更又ハ廢止ヲ爲ストキハ都市計畫ノ施設トシテ之ヲ爲スヘシ

都市計畫區域內ニ於テハ市街地建築物法ニ依ル地域及地區ノ外土地ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ風致又ハ風紀ノ維持ノ爲メニ地區ヲ指定スルコトヲ得

第十一條 第十六條第一項ノ土地ノ境域內又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ指定スル地區內ニ於ケル建築物、土地ニ關スル工事又ハ權利ニ關スル制限ニシテ都市計畫上必要ナルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 都市計畫區域內ニ於ケル土地ニ付テハ其ノ宅地トシテノ利用ヲ增進スル爲土地區劃整理ヲ施行スルコトヲ得

前項ノ土地區劃整理ニ關シテハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外耕地整理法ヲ準用ス

第十三條 都市計畫トシテ內閣ノ認可ヲ受ケタル土地區劃整理ハ認可後一年內ニ其ノ施行ニ著手スル者ナキ場合ニ於テハ公共團體ヲシテ都市計畫事業トシテ之ヲ施行セシム

前項ノ規定ニ依リ公共團體ノ施行スル土地區劃整理ニ付耕地整理法ヲ準用シ難キ事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十四條 地方長官土地區劃整理ノ設計ニ關スル認可ヲ爲ス場合ニ於テハ主務大臣ニ認可ヲ受クヘシ

第十五條 土地區劃整理ヲ施行シタルニ因リ地ノ地價ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ定ム

第十六條 道路、廣場、河川、港灣、公園其ノ他勅令ヲ以テ指定スル施設ニ關スル都市計畫事業ニシテ內閣ノ認可ヲ受ケタルモノニ必要ナル土地ハ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

前項土地附近ノ土地ニシテ都市計畫事業トシテノ建築敷地造成ニ必要ナルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

第十七條 土地區劃整理ノ爲又ハ衛生上

若ハ保安上ノ必要ニ依ル建築物ノ整理ノ爲必要アルトキハ建築物其ノ他ノ工作物ヲ收用スルコトヲ得

第十八條 前二條ノ規定ニ依ル收用又ハ使用ニ關シテハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外土地收用法ヲ適用ス

前項ノ規定ニ依ル土地收用法ノ適用ニ付テハ前條ノ工作物ハ之ヲ土地ト看做ス

第十九條 第十六條又ハ第十七條ノ規定ニ依ル收用又ハ使用ニ付テハ第三條ノ規定ニ依ル都市計畫ノ認可ヲ以テ土地收用法ニ依ル事業ノ認定ト看做ス

第二十條 土地收用法第二十二條第一項ノ協議調ハサル場合又ハ其ノ協議ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ事業執行者ハ主務大臣ノ裁定ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ收用審查會ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ損失ノ補償ノ協議ニ關シテハ之ヲ適用セス

第二十一條 第九條ノ規定ニ依リ下付ヲ受ケタル土地及第十六條第二項ノ規定ニ依リ收用シタル土地ノ處分及管理ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 都市計畫事業ニ依リ生シタル營造物ノ管理ニ付特ニ必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ管理者ヲ定ム

第二十三條 行政執行法第五條及第六條ノ規定竝之ニ基キテ發スル命令ハ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リ行フヘキ作爲又ハ不作爲ヲ行政廳カ強制スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リ私人ノ義務ニ屬スル負擔金其ノ他ノ費用ハ行政廳國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位竝其ノ追徵還付及時效ニ付テハ行政廳ノ統轄スル公共團體ノ徵收金ノ例ニ依ル

第二十五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政廳ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得

本法ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第二十六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政廳ノ爲シタル違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

附　則

第二十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正八年十一月廿七日勅令第四百八十一號ヲ以テ大正九年一月一日ヨリ施行）

第二十八條 東京市區改正條例、東京市區改正土地建物處分規則及大正七年法律第三十六號竝之ニ基キテ發シタル命令ハ之ヲ廢止ス

第二十九條 東京市區改正條例及東京市區改正土地建物處分規則ノ適用又ハ準用ヲ受クル市ハ第二條ノ規定ニ依リ指定セラレタルモノト看做ス

第三十條 東京市區改正條例又ハ大正七年法律第三十六號ニ依リ內閣ノ認可ヲ受ケタル設計又ハ議定シタル事業ハ各

本法ニ依リ内閣ノ認可ヲ受ケタル都市計畫又ハ都市計畫事業ト看做ス

第三十一條 東京市區改正條例、東京市區改正土地建物處分規則若ハ大正七年法律第三十六號又ハ之ニ基キテ發シタル命令ニ依リ爲シタル處分ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ牴觸セサル限リ本法ニ依リ爲シタル處分ト看做ス

第三十二條 東京市區改正土地建物處分規則ノ適用又ハ準用ニ依リ行政廳ノ爲シタル處分ニ關シテハ同規則第一條第二項乃至第四項ハ仍其效力ヲ有ス

第三十三條 東京市區改正條例又ハ大正七年法律第三十六號大正七年勅令第百八十四號ニ依リ下付ヲ受ケタル官有ノ河岸地ハ其ノ下付ヲ受ケタル市ノ所有ニ屬スル間地租ヲ免除ス但シ其ノ市ノ都市計畫事業ノ終リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ河岸地ヨリ收入スル金額ハ其ノ市ノ都市計畫事業ノ終リ迄之ヲ他ニ支出スルコトヲ得ス

第一項ノ河岸地ノ下付ヲ受ケタル市ハ之ヲ賣却讓與スルコトヲ得ス但シ已ムヲ得サル場合ニ於テ都市計畫委員會ノ議決ヲ經テ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此限ニ在ラス

○都市計畫法施行令

（大正八年十一月廿七日勅令第四百八十二號）

第一條 都市計畫事業ハ都市計畫法第二條ノ規定ニ依リ指定スル市ヲ統轄スル行政廳之ヲ執行ス

第二條 前條ノ市ノ區域外ニ於テ又ハ區域外ニ亘リ都市計畫事業ヲ執行スル場合ニ於テ內務大臣區域外ニ於ケル事業カ主トシテ區域外ノ公共團體ノ利害ニ關スト認ムルトキハ前條ノ規定ニ拘ラス其ノ公共團體ヲ統轄スル行政廳ヲシテ區域外ニ於ケル事業ヲ執行セシムルコトヲ得

第三條 內務大臣都市計畫事業カ分割シテ之ヲ執行スルコト困難又ハ不利益ト認ムルトキ其ノ他特別ノ事情アリト認ムルトキハ前二條ノ規定ニ拘ラス事業ヲ執行スヘキ行政廳ヲ指定スルコトヲ得

第四條 前三條ノ規定ハ行政官廳都市計畫事業ヲ執行スル場合ニ之ヲ適用セス

第五條 行政廳ニ非サル者ヲシテ執行セシムルコトヲ得ル都市計畫事業ノ種類及範圍ハ關係行政廳ノ意見ヲ聞キ都市計畫委員會ノ議ヲ經テ內務大臣之ヲ定ム

第六條 行政廳ニ非サル者都市計畫事業ヲ執行セムトスルトキハ內務大臣ニ特許ヲ申請スヘシ

第七條 內務大臣ハ前條ノ特許ニ都市計畫上其ノ他公益上必要ト認ムル條件ヲ附スルコトヲ得

第八條 第六條ノ特許ヲ受ケタル者事業ヲ實施セムトスルトキハ設計書ヲ添附シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ非サレハ都市計畫事業ニ因リ著シク利益ヲ受クル者ヲシテ事業ノ執行ニ要スル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得ス

一、行政官廳ノ執行スル事業ニ因リ公共團體カ著シク利益ヲ受クルトキ

二、事業地ノ公共團體以外ノ公共團體ヲ又ハ上級公共團體ヲ統轄スル行政廳ニ於テ執行スル事業ニ因リ事業地ノ公共團體カ著シク利益ヲ受クルトキ

三、事業ニ因リ生シタル營造物カ他ノ工作物ト效用ヲ兼ヌルニ因リ著シク利益ヲ受クル者アルトキ又ハ其ノ營造物ヲ利用スルニ因リ著シク利益ヲ受クル者アルトキ

四、前各號ノ外都市計畫事業ニ因リ著シク利益ヲ受クル者ニシテ內務大臣ヨリ指定セラレタルモノアルトキ

第十條 都市計畫法第六條第二項ノ規定ニ依リ負擔セシムル費用ノ金額及其ノ負擔方法ニ付テハ關係者ノ意見ヲ聞キ都市計畫委員會ノ議ヲ經テ內務大臣之ヲ定ム

第十一條 都市計畫法第十六條第一項ノ土地ノ境域內ニ於テ工作物ヲ新築改築增築若ハ除却シ、土地ノ形質ヲ變更シ又ハ地方長官ノ指定シタル竹木土石ノ類ヲ採取セムトスル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ命令ヲ以テ許可ヲ要セスト規定シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 地方長官ハ前條ノ許可ニ都市計畫事業ノ執行上必要ナル條件ヲ付スルコトヲ得

第十三條 風致維持ノ爲指定スル地區內ニ於クル工作物ノ新築改築增築若ハ除却、土地ノ形質ノ變更、竹木土石ノ類ノ採取其ノ他風致維持ニ影響ヲ及ホス虞アル行爲ハ地方長官內務大臣ノ認可ヲ受ク命令ヲ以テ之ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十四條 地方長官ハ第十一條ノ規定ニ前條ノ命令ニ又ハ第十二條ノ條件ニ違反シタル者ニ對シ原狀回復ヲ命スルコトヲ得

第十五條 都市計畫法第十三條第一項ノ規定ニ依ル公共團體ノ土地區劃整理ノ施行ハ內務大臣之ヲ命ス

第十六條 前條ノ土地區劃整理ノ施行ニ要スル費用ハ整理地區內ノ土地所有者又ハ關係人ノ負擔トス

第十七條 公共團體第十五條ノ規定ニ依リ土地區劃整理ノ施行ヲ命セラレタルトキハ設計書、費用負擔方法及耕地整理法第三十條第二項ノ規約ニ代ルヘキ處分方法ヲ定メテ之ヲ告示シ十日間土地所有者及關係人ノ縱覽ニ供シタル後地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

土地所有者又ハ關係人前項ノ設計書、費用負擔方法又ハ處分方法ニ關シ異議アルトキハ前項ニ揭クル期間內ニ地方長官ニ之ヲ申出ツルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル異議ノ申立アリタルトキハ地方長官ハ都市計畫委員會ノ議決ニ付スヘシ

地方長官ハ前項ノ議決カ設計書、費用負擔方法又ハ處分方法ノ變更ヲ必要トスルトキハ公共團體ニ其ノ變更ヲ命スヘシ公共團體カ變更ヲ爲シタルトキハ其ノ變更シタル部分ニ付第一項ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條 前二條ノ土地所有者及關係人ノ意義ニ關シテハ耕地整理法ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 第十五條ノ土地區劃整理ノ施行ニ付テノ耕地整理法ノ準用ニ關シテハ同法第四十二條ノ二、第四十七條及

第四十八條ノ組合ハ土地區劃整理ヲ施行スル公共團體トシ同法第四十三條第一項及第四十四條ノ耕地整理組合ノ地區ハ土地區劃整理ノ地區トス

第二十條 土地區劃整理施行ノ土地ノ地價ニ關シテハ耕地整理法第十二條、第十三條、第十四條第二項乃至第五項及第十四條ノ二乃至第十六條ノ規定ヲ準用ス

土地區劃整理ヲ施行スルニ當リ開墾又ハ地目變換ヲ爲シタル場合ニ於テハ工事完了ノトキ開墾又ハ變換シタル土地ニ對シ從前ノ地域ニ依リ其ノ地價ヲ修正シ修正地價ヲ以テ耕地整理法第十三條第一項ノ現地價トス

前項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ於テ之ヲ耕地整理法第十四條第二項、第三項及第五項竝第十五條ノ規定中同法第十四條第一項ノ規定ト看做ス

第二十一條 鐵道、軌道、運河、水道、下水道、土地區劃整理、運動場、一團地ノ住宅經營、市場、屠場、墓地、火葬場及塵埃燒却場ハ都市計畫法第十六條第一項ノ規定ニ依リ之ヲ指定ス

第二十二條 都市計畫法第十六條第二項ノ規定ニ依ル收用又ハ使用ハ土地區劃整理ヲ施行スル必要アル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 前條ノ規定ニ依リ收用シタル土地ハ土地區劃整理ノ工事完了後ニ非サレハ之ヲ賣却シ又ハ貸付スルコトヲ得ス

第二十四條 前條ノ規定ニ依ル土地ノ賣却又ハ貸付ハ左ニ揭クル者ニ對シ每筆競爭入札ニ依リ之ヲ行フ

一、其ノ土地ノ附近地カ都市計畫法第十六條第一項ノ規定ニ依リ收用セラレタル場合ニ於テ其ノ收用セラレタル附近地ノ全部又ハ一部ヲ收用ノ際所有シタル者又ハ其ノ相續人

二、前號ノ附近地ノ上ニ存シタル家屋ヲ其ノ附近地收用ノ際所有シタル者

三、其ノ土地ノ全部又ハ一部ヲ其ノ土地收用ノ際所有シタル者又ハ其ノ相續人

四、其ノ土地ノ上ニ存シタル家屋ヲ其ノ土地收用ノ際所有シタル者

前項ニ揭クル者一人ナルトキハ其ノ者ニ對シ隨時契約ニ依リ賣却又ハ貸付スルコトヲ得

第二十五條 前條ノ規定ニ依リ賣却又ハ貸付スルコトヲ得サル土地ノ賣却又ハ貸付ニ付テハ一般ノ競爭入札ニ依ル

第二十六條 一宅地ヲ爲スニ足ラサル殘地ハ隣地所有者ニ對シ隨意契約ニ依リ賣却又ハ貸付スルコトヲ得

第二十七條 都市計畫事業ニ要スル國有地ハ事業ノ執行ニ要スル費用ヲ負擔スル公共團體ヲシテ無償ニテ之ヲ供用セシメ其ノ地ニ存スル國有ノ建築物ハ無償ニテ其ノ公共團體ニ之ヲ交付ス

第二十八條 都市計畫法第九條ノ規定ニ依リ下付ヲ受ケタル土地ハ都市計畫事業ノ財源ト爲ス爲基本財產トシテ管理スヘシ但シ特別ノ事由ニ依リ內務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 公共團體ハ**第二十三條**ノ土地ノ賣却若ハ貸付ニ付又ハ都市計畫法第十六條第二項ノ規定ニ依リ收用シタル土地若ハ前二條ノ土地ノ管理方法ニ

付必要ナル規定ヲ定メ地方長官ヲ經由シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十條 内務大臣必要ト認ムルトキハ都市計畫事業ニ依リ生シタル營造物ノ管理者ヲ指定スルコトヲ得

附 則

本令ハ都市計畫法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○都市計畫委員會官制

（大正八年十一月廿七日勅令第四百八十三號）

第一條 都市計畫委員會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬セシメタル事項其ノ他都市計畫上必要ナル事項ヲ調査審議ス

第二條 都市計畫委員會ハ都市計畫ニ關スル事項ニ付關係各大臣ノ諮問ニ應シ又ハ關係各大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條 都市計畫委員會ハ都市計畫中央委員會及都市計畫地方委員會トス

第四條 都市計畫中央委員會ハ内務省ニ之ヲ置キ都市計畫地方委員會ハ都市計畫法第二條ノ規定ニ依リ指定スル市ニ之ヲ置ク

第五條 都市計畫委員會ノ議決ヲ經ヘキ事項ニシテ左ニ揭クルモノハ地方委員會ノ議決ヲ經タル後中央委員會ノ議決ヲ經ヘシ

一、都市計畫區域ノ全部ニ亘ル計畫及其ノ變更

二、都市計畫事業ニシテ都市計畫區域内ニ居住スル者ニ特ニ重大ナル利害關係アルモノ及其ノ變更

三、前各號ニ揭クルモノヲ除クノ外内務大臣特ニ必要ト認ムルモノ

中央委員會ハ地方委員會ノ議決シタル事項ヲ修正シテ議決シタルトキハ之ヲ地方委員會ニ回付スヘシ此ノ場合ニ於テ地方委員會カ中央委員會ノ修正議決ニ同意シタルトキハ之ヲ以テ都市計畫委員會ノ議決トス修正議決ニ同意セス別段ノ議決ヲ爲シタルトキハ内務大臣ノ適當ト認ムル議決ヲ以テ都市計畫委員會ノ議決ト看做ス

第一項ニ揭クル事項以外ノモノハ地方委員會ノ議決ヲ以テ都市計畫委員會ノ議決トス

第六條 中央委員會及地方委員會ハ會長及委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第七條 中央委員會ノ會長ハ内務大臣ヲ以テ之ニ充ツ

地方委員會ノ會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ但シ東京市ニ置ク地方委員會ノ會長ハ内務次官ヲ以テ之ニ充ツ

第八條 中央委員會ノ委員ハ左ニ揭クル者ヲ以テ之ニ充ツ

一、關係各廳高等官 十六人以内

二、學識經驗アル者 十二人以内

地方委員會ノ委員ハ左ニ揭クル者ヲ以テ之ニ充ツ

一、都市計畫法第二條ノ規定ニ依リ指定スル市ノ市長

二、關係各廳高等官 十人以内

三、第一號ノ市ノ市會議員 市會議員定數ノ六分ノ一以内

四、關係府縣會議員 三人以内

五、市長以外ノ第一號ノ市ノ市吏員二人以内

六、學識經驗アル者 十人以内

七、東京市ニ置ク地方委員會ニ在リテ

ハ警視總監及東京府知事八特定ノ事項ニ付必要アルトキハ臨時委員ヲ命シ其ノ事項ノ議事ニ參與シ決議ノ數ニ加ハラシムルコトヲ得

第二項第一號及第七號ニ揭クル者事故アル時ハ其ノ職務ヲ代理スル者議事ニ參與シ決議ノ數ニ加ハルコトヲ得

市會及府縣會ハ第二項第三號及第四號ノ規定ニ依ル委員タルヘキ者ヲ選擧スヘシ

第九條 委員及臨時委員ハ前條第二號第一號及第七號ニ揭クル者ヲ除クノ外內務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第十條 會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ中央委員會ニ在リテハ內務大臣ノ、東京市ニ置ク地方委員會ニ在リテハ內務次官ノ、其ノ他ノ地方委員會ニ在リテハ地方長官ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第十一條 委員會ハ都市計畫ニ關シ必要アル時ハ期間ヲ指定シ關係府縣都市町村ヲシテ特定ノ事項ニ付調查ヲ爲サシメ又ハ必要ナル圖書類ヲ提出セシムルコトヲ得

委員會ハ委員又ハ臨時委員ヲ派遣シテ都市計畫事業執行ノ狀況ヲ檢查セシムルコトヲ得

第十二條 委員會ハ會長之ヲ招集ス

會長ハ委員會開會ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ招集及會議ノ事項ヲ委員及臨時委員ニ通知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 委員會ハ委員及臨時委員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第十四條 會長ハ會議ノ議長ト爲ル

委員會ノ議事ハ出席ノ委員及臨時委員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十五條 會長ハ委員十人以內ヲ以テ常務委員會ヲ組織セシムルコトヲ得

委員會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ニシテ輕易ナルモノヲ常務委員會ニ委任スルコトヲ得

會長ハ常務委員會ヲシテ委員會ノ會議事項ヲ豫メ審查セシムルコトヲ得

常務委員會ハ委員會ヨリ受ケタ委任ヲル事項ヲ處理スルコトヲ得

第十六條 委員會ニ左ノ職員ヲ置ク

幹事 若干人 中央委員會ニ在リテハ專任二人 地方委員會ニ在リテハ專任各四人以內

技師 奏任 中央委員會ニ在リテハ專任二人 地方委員會ニ在リテハ專任各八人以內

書記 判任 中央委員會ニ在リテハ專任二人 地方委員會ニ在リテハ專任各八人以內

技手 判任 中央委員會ニ在リテハ專任二人 地方委員會ニ在リテハ專任各八人以內

幹事ハ內務大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官、市吏員及學識經驗アル者ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第十七條 幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

技師ハ上司ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

書記及技手ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務及技術ニ從事ス

第十八條 委員又ハ臨時委員會務ニ依リ旅行スルトキハ旅費ヲ給ス

前項旅費ノ支給ニ關シテハ明治四十四年勅令第百六十一號第一條及第三條ノ規定ヲ準用ス

附 則

本令ハ都市計畫法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

都市計畫調查會官制ハ之ヲ廢止ス

地方委員會ニ要スル費用ハ當分ノ內府縣ノ負擔トス

東京市、京都市、大阪市、橫濱市、神戶市及名古屋市ノ市區改正委員會ノ委員ニシテ東京市區改正委員會組織權限規程第一條第二項第五號ノ規定又ハ大正七年勅令第百八十三號第二條第四號ノ規定ニ依リ任命セラレタル者ハ第八條ノ規定ニ依リ任命セラレタル委員ト看做ス

役員及職員

理事長　片岡安
理事　宗兵藏（主記）
　　池田寅（編輯）
　　葛野壯一郎（編輯）
　　吉井長七（編輯）
　　舟橋喜一（主計）
編輯補　設樂貞雄
　　波江悌夫
　　佐藤四郎
　　江村郊邨
書記　小谷信藏
　　山崎萬壽夫

會員	一七一	會員（地方）	五〇
名譽賛助員	六四	終身賛助員	三九
特別賛助員	九	普通賛助員	二四三
合計	五七六		

本誌及廣告料定價表

本誌			
冊數	定價	郵稅	
一冊	金五拾錢	貳錢	
十二冊	六圓	貳拾四錢	

廣告料		
種別	金額	
半頁	八圓	
一頁	拾五圓	
特別頁	貳拾圓	
裏表紙表	貳拾五圓	

大正九年一月廿日印刷（毎月壹回）
大正九年二月一日發行（一日發行）

大阪市北區相生町一三四
電話（東一八三三番）

發行兼編輯人　伊藤幸太郎
兼印刷人　大阪市東區內淡路町一丁目三十一番地

印刷所　大阪活版所
大阪市東區今橋一丁目十一番地

發行所　日本建築協會
電話本局二二四一番
振替口座大阪三九、九七五

廣告目次

ニ、日本コルク株式會社　四一
日本石綿盤株式會社　四二
日本建築用製紙會社　三八
ホ、ホーン株式會社大阪支店　一九
ヘ、米國貿易會社　三三
別府ステインド硝子製作所　二七
ト、東京電氣株式會社(前)一
東洋鐵鋼製造會社　二四
東コンプンツソル會社七及四〇
東洋工業社(前)二
チ、大阪鐵筋混凝土工務所　二六
大阪煖房商會　二九
大阪窯業株式會社　二七
大野式特許品營業所　四六
カ、川崎工場　二七
ヨ、横河橋梁製作所　三一
タ、高石商會　三二
高田商會銀座販賣店　一七
高島屋裝飾部　四三
高田南會　三〇
レ、土木建築内外材料合資會社　三六
ム、村井工業所　二四
ウ、宇野澤組ステインド硝子製作所二四
ノ、野澤幸三郎　二四
ヤ、山本窯業商店　三三
山本コンベス商會　二一
マ、松尾和助商店　一四
ケ、建築事務所案内　四七
建築請負業者案内　一二八
コ、小林福三　二三
エ、榮進社　三七
ア、淺野スレート株式會社　三四
有雅彦太郎　一四
淺海商店　二三
穴原商會　一六
有田製陶所　四八
キ、銀座建築用品店　一五
銀座建築用品店支店　二八
共同建材製作所　三五
メ、明正社　一八
シ、清水工務所工事部　二二
モ、木材石材商案内　一三
茂木合名會社(裏表紙裏)
ス、須賀商會　四四
巢鴨製作所　二〇
砂崎合名會社　九三